

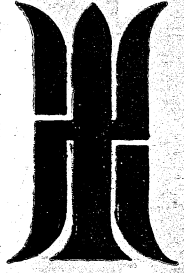
日本水泳連盟

機 関 誌

水 泳

第 1 4 6 号

昭 和 37 年 8 月



No. 146

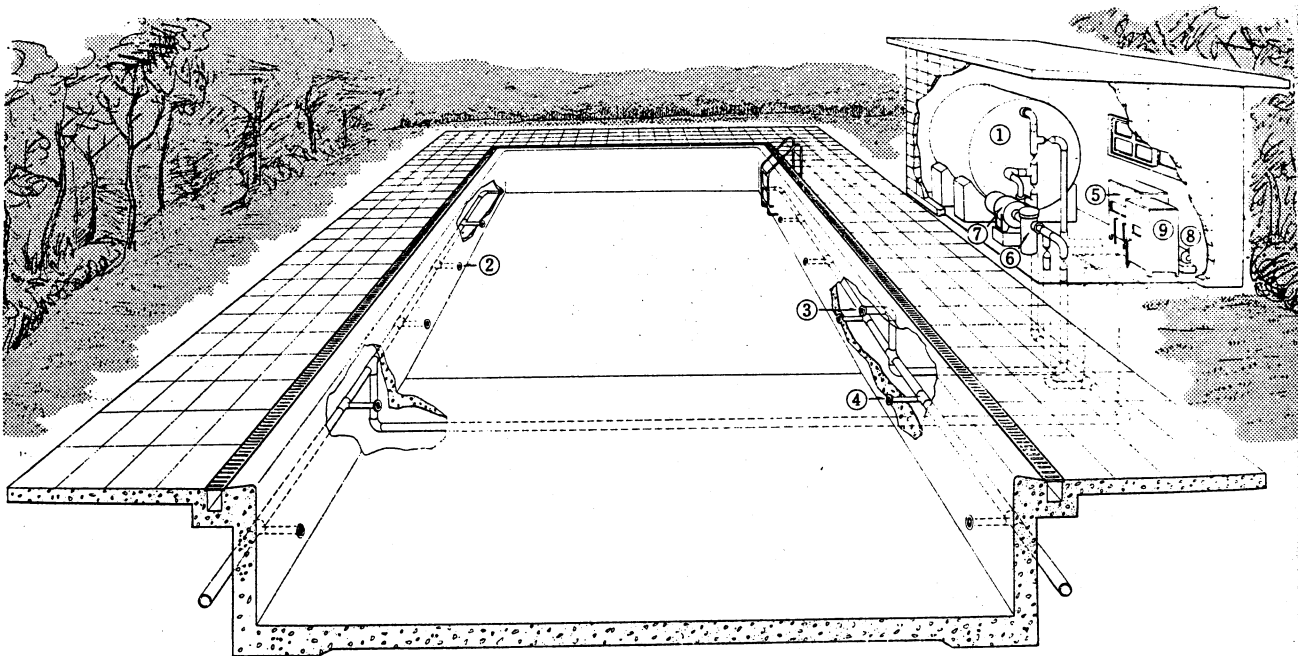
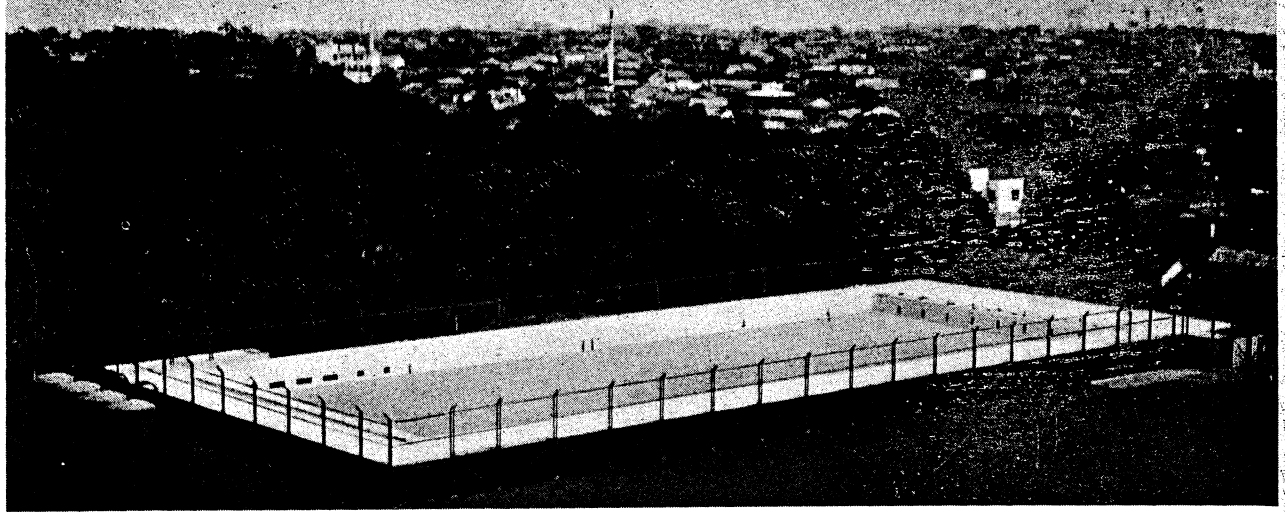
"SUIEI" August 1962

NIPPON SUIEI RENMEI

(Amateur Swimming Federation of Japan)

整流式水泳プール及循環浄水装置

PAT. P. 36-4742



- ① 圧力式急速砂濾過タンク
- ④ 吸水口
- ⑦ 循環ポンプ

- ② 注水口
- ⑤ 硫酸バンド、ソーダ灰注入装置
- ⑧ 加圧ポンプ

- ③ プールクリーナー取付口
- ⑥ ヘヤーキャッチャー
- ⑨ 次亜塩素酸ソーダ注入装置

アフターサービスをモットーとする東洋唯一の

プール専門メーカー



水理工業株式会社

本社 東京都新宿区柏木1-105 (松本ビル) TEL 東京 (368) 2590 (361) 9803
 工務部 東京都品川区西中延4-1278 TEL 東京 (782) 4656

表紙写真は、最近の高石会長 (大阪の日本選手権大会にて)

目

次

選手の心がまえ	(2)
海外派遣遠征関係	(3)
第 4 回アジア大会代表選手	(5)
アメリカ水泳界視察報告	福 山 信 義 鈴 木 茂 二 朗 (8)
座談会 東京オリンピック大会を目指して (水球強化策)	(10)
東京大会の栄冠を目指して競う諸選手	(19)
昭和37年度日本選手権大会風景	(23)
米国男女選手紹介	(26)
水 連 だ よ り	(28)
国民皆泳大会, 学童皆泳大会開催要項	(29)
自動審判関係装置の完成化を目指して	深 谷 俊 明 (30)
強化訓練中のオーストラリア, オリンピック水泳選手に関する 生理学的実験の解釈および適用についての要約	フ ェ ー プ ス ・ カ ー ラ イ ル (34)
トレーニングの成果の一指標としての心臓数の測定	フ ェ ー プ ス ・ カ ー ラ イ ル (39)
水泳選手のためのビタミン補強	フ ェ ー プ ス ・ カ ー ラ イ ル (40)
第34回早慶対抗	(45)
第27回明・立・日三大学対抗	(45)
末 弘 牌 高 校	(46)
第 2 回中央大学対全東京	(48)
第38回早関対抗水上競技大会	(49)
第 7 回日本大学対中央大学	(49)
第 4 回末弘記念日本室内選手権大会	(50)
関 西 選 手 権	(55)
早大対全九州対抗競技大会	(57)
日本競泳史上女子 50 傑 (12)	島 田 桃 一 郎 (58)
海 外 ニ ュ ー ス	坂 本 宗 隆 (61)

今般体協強化対策本部より、東京オリンピック大会を控え各加盟団
体に対し次のような心がまえが指示された。

▶ 選手 の 心 が ま え ◀

1. (代表、候補) 選手の立場と使命

- (1) 選手は多数の競技者の中から選ばれたエリートとして自信と誇りをもつとともに課せられた使命の重大さを自覚する。
- (2) 選手はオリンピック東京大会において勝利をかちとるために日常生活を規制し、練習に打ち込む。
- (3) 選手は試合における行動と結果が直ちに国民の体力水準を世界に示し、国民の志気を昂揚する機会となることを心し勝利に向けて総力を結集する。

2. 練習への意欲

- (1) 選手は自己の力、否人間の力の限界に挑んで練習に総力を結集する。
- (2) 選手は他人の倍も練習し、試合でたじろがない自信を獲得する。
- (3) 選手はコーチを心から信頼するとともに自

己の体力の特質をつかんで創意に富んだトレーニングを工夫する。

3. 競技生活の規制

- (1) 選手は本務以外のすべてを競技に捧げ、あらゆる誘惑や欲望を押えて練習中心の生活をうちたてる。
- (2) 選手は勝利への長い道程に起るいかなる困難にも取り組んでそれを克服する。
- (3) 選手はスポーツ以外の生活の場でもスポーツマンとして他の模範となる行動をとる。

4. スポーツ精神の確立

- (1) 選手はおう盛なファイティング・スピリットとフェアな精神をもって競技する。
- (2) 選手はチームの一員として自己の役割を自覚しどんな犠牲を払ってもその責任を果たす
- (3) 選手は試合においていかなる相手に対しても侮らず正々堂々とベストを尽す。

強 化 コ ー チ の 心 が ま え

1. 強化コーチの立場と使命

- (1) コーチは人間づくりの教育者として心身共にすぐれた選手を作りオリンピック東京大会において勝利を獲得させることを使命とする。
- (2) コーチは選手作りの成果に国民がいかに期待をかけているかを自覚し、責任と情熱をもってその任務を遂行する。
- (3) コーチは選手が無限の可能性をもつ素材であることを認識し、その極限への発達に取り組む文化的開拓者であることを自覚する。

2. 自己の錬磨

- (1) コーチは選手から真に信頼と敬意を寄せられる人間として、常に精神的修養につとめる。
- (2) コーチはスポーツの技術とトレーニングに関連した科学的知識を身につける。
- (3) コーチは選手の身体的、精神的特性を把握し、個性に応じた技術とトレーニングを工夫

研究する。

3. コーチの態度と指導

- (1) コーチは競技生活を通じて選手と共に喜びや、苦さを分かち合う深い愛情と厳しい態度をもって選手にのぞむ。
- (2) コーチはあくまで勝利を追求する意欲といかなる困難をも克服する意志と信念とをもって選手にのぞむ。
- (3) コーチはスポーツの技術とトレーニングに関する知識を教えて選手の理解力を高め、そ創造の力を喚起する。
- (4) コーチは試合において勇気と決断力と忍耐力をもつて冷静かつ大たんに選手を指導する。
- (5) コーチは選手の試合結果を評価反省し、次の計画を練って前進することを怠らない。

4. コーチの描く選手の心がまえ

コーチは次のような心がまえをもった選手をつくる。 (前掲参照)

海外派遣遠征関係

アメリカ派遣役員選手決定 —競泳—



本年度強化対策の一環として8月9日からオハイオ州カイヨガ・フォールズで開催される全米男子屋外選手権大会に男子競泳の精鋭を出場させるため去る7月7日、8日の両日日吉慶大プールにおいて選手選考競技会を開催した結果次の役員、選手を決定、昨年のロスアンゼルス大会に引続き全米の檜舞台に出場、真価を問うこととなった。なお、渡米選手は同大会に出場後シカゴにおいて日、米、西独の三国対抗競技会にも出場し8月24日帰国する。渡米派遣選手は、7月16日から東京において合宿練習の上大阪の日本選手権大会に招聘アメリカ選手とともに出場、その後八幡市の日米親善競技会にも参加の上8月4日一路アメリカに向け出発した。

監督 橋爪 四郎 (競泳強化コーチ, 日大出, 33才
東京スタジアム)

コーチ 長沢 二郎 (競泳強化コーチ, 早大出, 30才
ゼネラル物産)

マネジャー 山田 芳美 (常務理事, 立大出, 勝村建設)

選手 ※カツコ内記録は最高記録

自由形 石原 勝記 (BSタイヤ, 日大出, 24才,	100m 56.4)
	200m 2:06.4)
福井 清 (大洋漁業, 早大出22才	100m 56.6)
	200m 2:13.0)
福井 誠 (八幡製鉄, 22才	200m 2:02.2)
	400m 4:25.1)
岡部 幸明 (早大3年, 20才	200m 2:04.6)
	300m 4:32.0)

庄司 敏夫 (BSタイヤ, 21才	400m 4:34.4)
	1500m 18:15.8)
佐々木末昭 (中大2年, 19才	400m 4:33.5)
	1,500m 18:04.3)
藤本 達夫 (松下電器, 22才	200m 2:02.9)
	400m 4:25.1)
吉無田春男 (八幡製鉄, 早大出 22才	400m 4:30.2)
	100mバタ1:02.2)
	250mバタ2:17.4)

平 泳

敷石 義秋 (日大3年, 20才	100m 1:13.5)
	200m 2:37.2)
和氣 統 (日大3年, 20才	100m 1:13.7)
	200m 2:36.9)
松本健次郎 (早大1年, 18才	100m 1:11.4)
	200m 2:33.5)

バタフライ

中島 功 (日大4年, 21才	100m 1:01.1)
	200m 2:19.6)
佐藤 好助 (八幡製鉄, 19才	100m 1:01.7)
	200m 2:16.4)

背 泳

渡辺 和夫 (東京トヨベツ, 日大出, 24才	100m 1:04.2)
	200m 2:24.9)
福島 滋雄 (日大2年, 19才	100m 1:03.2)
	200m 2:16.6)

アメリカ派遣飛込選手決定

本年度強化対策の一環としてかねてから計画されていた男女飛込選手のアメリカ派遣については、去る6月行われた記録会の結果と従来の成績等を考慮し慎重に選考した結果、監督、選手を次のとおり決定した。選手団は7月末の日本選手権大会に出場の上8月2日羽田を発ち男子はペンシルバニア州フィラデルフィアで開催される男子屋外飛込選手権大会に、女子はシカゴの女子屋外選手権大会に夫々出場、その後男女選手とも各地の大学、クラブを廻り短期間の合宿訓練を行った後9月3日頃帰国の予定である。

監督 柴原 恒雄 (横浜ゴム, 強化飛込委員長, 45才)
コーチ 馬場 豊 (国土計画, 早大, 強化委員, 29才)
女子コーチ 毛利元英 (自営業, 日大出, 強化委員, 45才)
選手男子 金戸 俊介 (リツカーミシン, 日大出, 22才)
土佐 忠雄 (早大, 20才)
山野外嗣夫 (北陸軽金属, 日大出, 24才)
女子 渡辺久美子 (リツカーミシン, 日体大出, 26才)

馬淵鹿乃子（倉敷レーヨン，関学出，24才）

アメリカへ再びコーチ派遣

水泳連盟においては、去る3月鈴木茂二郎，福山信義の両氏を2カ月の日程でアメリカへ派遣し全米学生選手権，全米屋内選手権や各地の有力大学・クラブを直接視察させ，強化対策に資せしめたが，今般引続き佐藤幸男，青木行義の両氏を同様アメリカへ派遣し8月中旬の全米屋外選手権大会を初め各大学・クラブの水泳事情を視察させることとなった。両氏は6月25日羽田を発ち約2カ月の日程で8月末帰国の予定である。

佐藤 幸男

（中大監督，常務理事，強化競泳委員，33才）

青木 行義

（日大出，プリジストンタイヤKK，強化競泳委員，メルボルン・オリンピック大会出場，28才）

両氏の視察日程の概要は次のとおりである。

- | | |
|-------------|---|
| 6月28日～7月5日 | ロスアンゼルス（南加大，その他水泳クラブ等） |
| 7月6日～7月15日 | サンタクララ |
| 7月15日～7月17日 | サンフランシスコ |
| 7月18日～7月27日 | インディアナポリス（インディアナ大学，ブルーミングAC，その他） |
| 7月27日～8月1日 | デトロイト（ミシガン大学，その他） |
| 8月2日～8月12日 | オハイオ（カイヨガホールズの全米屋外選手権大会で日本チームと合流，オハイオ大学その他） |
| 8月13日～8月19日 | シカゴ（全米女子屋外選手権大会） |
| 8月20日～8月27日 | ニューヨーク（エール大学，その他）ワシントン——ロスアンゼルス——ホノルル——東京 |

女子競泳，シンクロ選手 アラブ連合より招聘

さきにアラブ連合共和国（旧エジプト，カイロ市）より日本の女子競泳とシンクロ選手を7月3日から6日まで開かれる第2回国際競技大会に招聘したい旨要請があったので，下記選手を派遣した。

監督 松沢 洋子

競 泳	田中 聡子
	窪 美代子
シンクロ	飯田 紀子
	佐藤せつ子
	島崎 鈴子
	岡田 一恵
	車 佐江子

なお，競技は久保みよ子嬢が100m自由形決勝で1分10秒0で優勝，田中聡子嬢は高熱をおかして出場100m背泳で1分12秒5の好記録でこれまた優勝した。またシンクロはソロ，デュエットチームとも夫々他を寄せつけず優勝した。

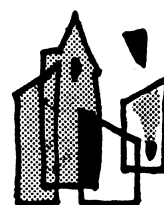
根上理事長，古橋常務理事 FINA理事会に出席

本年8月26，27の両日西独のライブチツィヒで開かれるFINA理事会は諸種の案件が審議されることになっているが，特に東京大会を明後年に控え本大会の準備状況につき種々と意見がかわされるので，水泳連盟から根上理事長と古橋常務理事を特に派遣し準備状況及び自動審判装置その他につき説明し協議することとなった。

韓国よりコーチ招聘

さきに韓国より同国水泳の向上を期するため競泳，飛込，水球の各コーチの派遣方要請があったので，選考の結果次の諸氏を韓国に派遣し，6月11日から10日間京城において選手および関係者に対し直接指導し，大きな成果を収めて帰国した。

競泳コーチ	太田 光雄
飛込コーチ	岩佐 道雄
水球コーチ	佐藤 孝尚



第4回アジア大会代表選手

役員



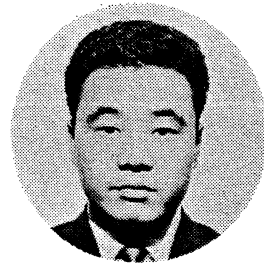
監督 奥野 良
早大出



男子競泳コーチ 上村 稔
日大出



女子競泳コーチ 浦井 保弘
日体大出



飛込選手 坂本 章八
日大出



水球コーチ 神田 明善
慶大出



マネジャー 勝村 肇
京大出

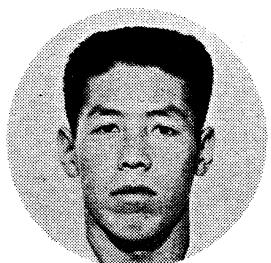


派遣団本部 赤桎 卓爾
慶大出

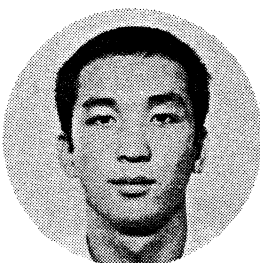


国際審判員 名取 正也
慶大出

選手(男子)自由形



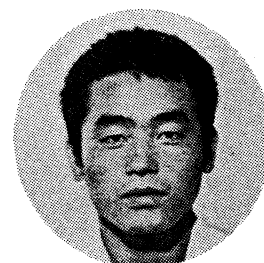
清水 啓吾
慶大



後藤 忠治
日大

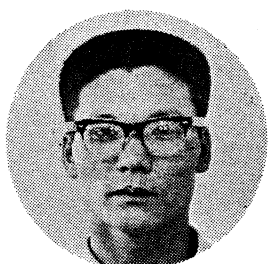


梅本 利三
早大

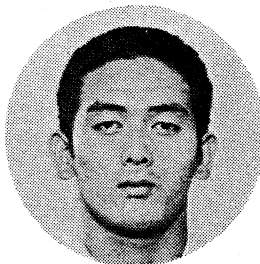


松木 登八郎
日大

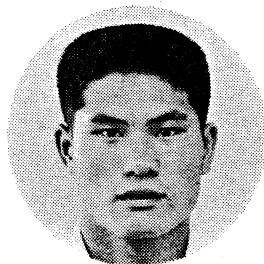
平泳



中坊 昌美
BSタイヤ



佐原 年昭
中大

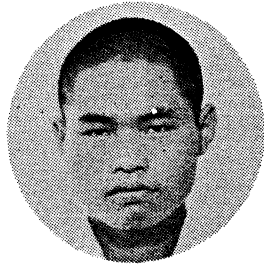


竹本 昭和
早大

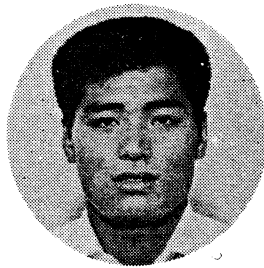


中川 清
早大

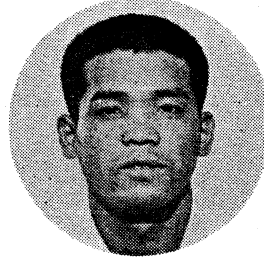
バタフライ



石川 健三
日大豊山高



岩本 光司
早大



井筒 賢造
早大

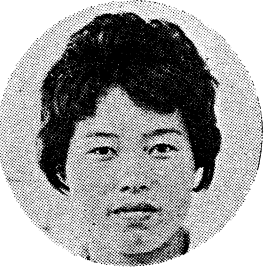


富田 一雄
BSタイヤ

女子自由形



伊藤 圭裕
早大



佐藤 喜子
ロート製薬



小林 由美子
ロート製薬



辻本 妙子
五条高

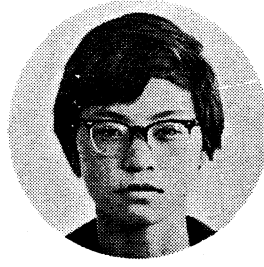
平泳



江坂 君子
ロート製薬



木村 トヨ子
筑紫女高

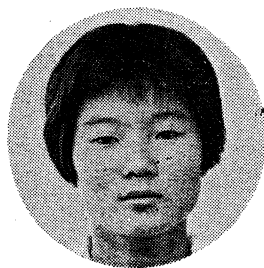


早川 一枝
富士中



青木 幸子
東洋レーヨン

バタフライ



山本 憲子
筑紫女高



中西 美智代
五条高

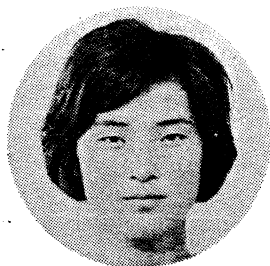


高橋 栄子
佐伯鶴城高

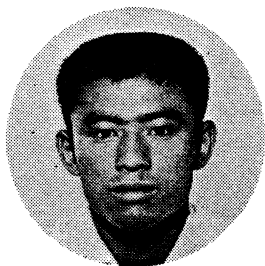


田中 聰子
八幡製鉄

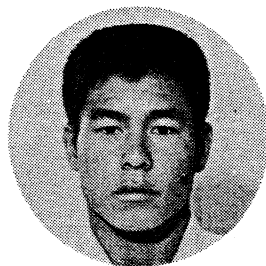
飛込男子



四本博美
日体大



田原和夫
日大



岡田良平
日大



谷口博
早大

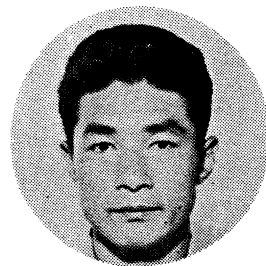
飛込女子



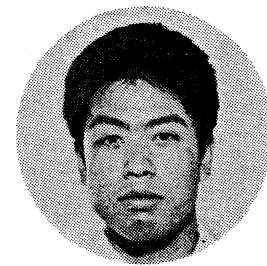
角倉佐久子
日本生命



友江嘉代子
日本ダンロップ

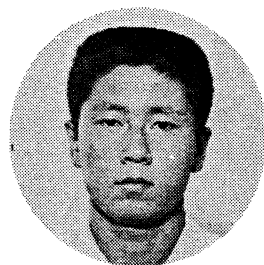


加藤峰男
横河電機

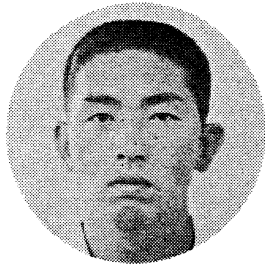


飯田矩偉
安田生命

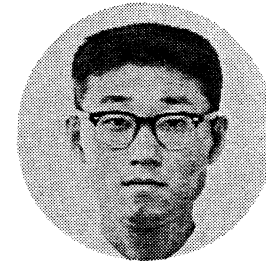
水球



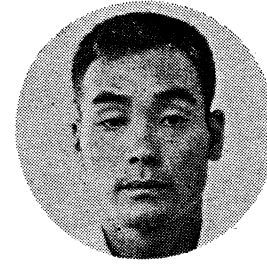
横山隆
中大



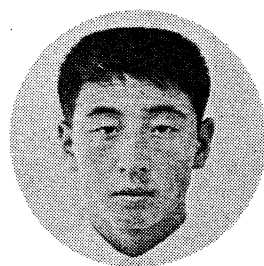
井上宏
慶大



荒川八郎
東京テアトル



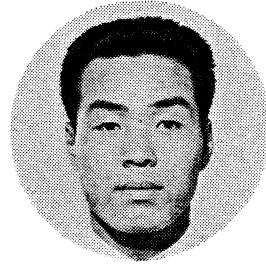
田中保徹
海上自衛隊



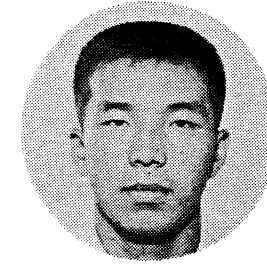
竹内和也
早大



高木和毅
東京美装



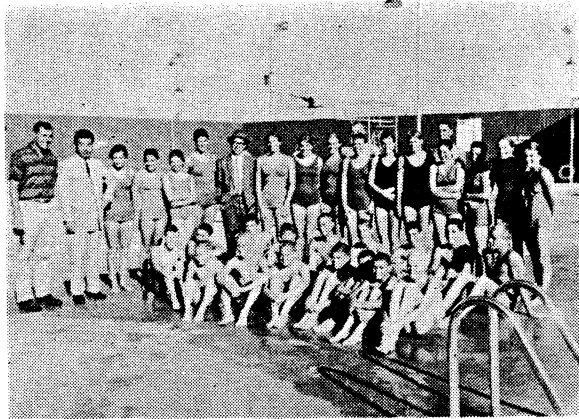
藤本重信
BSタイヤ



清水洋一
慶大

アメリカ水泳界視察報告

福 山 信 義
鈴 木 茂 二 朗



サンタクララ水泳クラブプールにおいて、左端コーチ ジョージ・ヘインズ 右隣り鈴木茂二郎氏、中程福山信義氏 左隣りヘインズ（娘）昨夏来日 後列ショランダーの顔も見える。

室内シーズンより室外シーズンへの移行の時期を選び、米国の各大学及びエージグループの試合、練習を視察。我々は多大の効果があつたと確信致し、報告します。

先づ第一に、我々の日程がスムーズに終了し、かつ有意義な視察ができたのは、在米の和田勇氏、ロイ・中井氏を始め体育関係者、日本人、アメリカ水泳界の人々の親切のお蔭げと感謝すると共に御報告して置きます。次にアメリカ各地を視察した結果の要点を列記し報告致します。なお我々は各地を廻るについては学生寮及び選手の家庭に宿泊したりし、選手と私生活を共にして、練習場外からも視て参りました。

1. 選手の自主性について

我々選手を直接指導している者にとって、先づ奇異に感じたのは、この自主性であります。「やる気のない者は去れ」という精神が瞬時といえども貫抜かれております。日本にこの精神がないとは言いませんが、米国に比べ力が弱く、又層が薄いということです。このような自主性の層の厚さの中から根性の強さも出てくると思います。1, 2例を上げますと

(i) プールサイドの黒板にコーチが今日の練習方法を記して置くと選手は、プールサイドにある大時計を見ながらどんどん進めて行きます。インターバル練習についてはこれで十分とのこと。

(ii) 1日の練習時間について、コーチに聞くと2時間位、選手に聞くと6時間位との答え、この差4

時間が自主的な練習をする。

(ii) ロスアンジェルスの中中君の練習をしている処を見た時、男子の選手はもち論の事、今夏来日する女子のフィネランが山中に挑戦して行くのを見る時、皆のやる気には驚かされました。

以上の例から判断できると思います。

2. 指導方法について

長所を伸ばすという根本理念である。これから個性も生れ、米国選手その者の特色も出来る。現在多くの選手が行なっている手を中心の泳法もこんな所から生じてきた。日本がこれを真似してもいけないと考える。

選手の練習風景も大変面白い感じがする。

3. 国際的視野の中の愛国心（チームワーク）

日本に一番欠けているのがこれだと思えます。国旗、国歌はどんな場所でも見られ、家庭においては国旗はもち論あり、世界地図が必ず貼ってあります。こんな所から愛国心も生れ、世界に対しての対国的意識も生れる。

又プールサイドには大きな掲示板にチーム記録、米国記録、世界記録の表があり、各選手は自分の目標を決め、たえず世界記録に通じる道を歩んでおります。

4. 家庭の関心（理解）

5才～10才位からクラブ（1カ月10弗）へ連れて行き泳ぎを始め、速くなるに従い関心が高まって行くと考える。ここに選手の母親から聞いた（エージグループ）お母さんの1日のスケジュールを書き、理解力を測定下さい。5時30分起床、6時選手をプールへ送る。直ぐプールより帰り朝食の用意。主人7時30分出勤。7時40分選手の朝食持参しプールへ。8時プールスタンドで選手に朝食、直ぐ学校へ。9時～15時迄、夕食準備及び雑用。15時～19時プールサイドにて選手の練習見学（この間に選手同志の親と社交）コーチの意見を聞く。19時30分家族一同夕食。以上である。

食事については甘い物、油でいためた物は余り摂らず、できるだけ自然な物を食べるようにする。カロリーについては余り関心を示さなかったが、一般の食事を見ても当然と思はれる。

5. プロコーチについて

学校の体育の先生がコーチをしているのが大半で、大学においては、1週の授業時間（受持ち）2～3時間

で、後はプールに常駐している。米国のあの合理主義の国においてもさすがに体育のコーチは職業意識を超越し、生活の全てを水泳に通じさせている。選手との信頼関係が強くないと指導出来ないとの考えから選手の私生活に対しても相談相手になり、非常に密接であった。

6. 練習方法について

根本的考えは戦前の水泳日本の練習を実行している。水の中へ長く入った者が勝つという根本の考えである。

細部については、短距離は力で押して行くという事でウェイトトレーニングに力をそそいでいる。バランスを取ることに重点を置いて練習計画を立てている。

7. 米国の今後

エージグループ組織の発達により、選手層が非常に厚く、その上年令が大変若い。今年はローマオリンピック当時の選手と15才～17才の選手との転換期で、はげしい争いが見られた。ただ平泳はジャストレムスキーが飛び抜けていて、2位以下に断層がある。

今夏の全米選手権での日本選手の活躍により東京オリンピックの予想は出来ると考える。

8. 日本水泳界の今後の課題

イ) 選手の自主性と環境

日本においても一流選手には自主性(やる気)は十分にありますが、層の薄さを感じる。練習場から試合、全てより多くの選手が自主的に争うことにより一層強い根性が養われる。故に自主的精神の養成こそ急務と考

えるが、最初の非常に小さい自主性の芽も環境のないためにその芽をつみとっているように思われる。これを伸ばすために何処でもいつでも練習出来る環境が必要である。

ロ) 指導者の自信

進取の精神は必要であるが、外観のみを見てのサル真似は止め、自信を持って指導すること。現在米国において、練習の指導方法(スパルタ訓練も含め)は戦前の日本と同様であり、各コーチが自信を持って個性を生かしている現状を見る時、日本が米国に勝つには、日本人の個性を生かした泳法を作り練習をすべきである。

ハ) 組織力の強化

米国は合理主義とプロコーチ(誇大に自分を宣伝する)の欠点から組織(AAUと各チーム間)が現在大変乱れている。故に東京オリンピックにおいては、アメリカの一大学(主としてインディアナ大学と思われる)と日本との争いになる。いかに環境の良い大学でも日本全体との競争になれば、日本が秀れている故に組織力の強化運営の妙こそ絶対である。

日本は従来、道義心の秀れた国民性を持ち、心と心の連がり非常に強固である。この関係をより伸ばし、米国にブツかるならば必ず勝てると思ふ。

(筆者はともに本連盟、常務理事。先般アメリカの水泳事情を視察して帰国した。)

日		程	
3月26日	10:00 AM	羽田発	◎市内見物 AAU本部見学
25日	10:20 PM	ハワイ着	9:00 AM ニューヨーク発
	11:50 PM	〃 発	10:50 AM ボストン着
26日	6:20 AM	ロス着	◎ハーバード大学見学
27日	9:40 AM	〃 発	12:30 AM ボストン発
	8:30 PM	コロンバス着	3:30 PM バッファロー着
		◎NC AA大会及びオハイオ大見学	◎ナイヤガラ見物
4月 3日	7:50 AM	コロンバス発	4:55 PM バッファロー発
	4:00 PM	パートルスビル着	6:30 PM ニューヨーク着
		◎AAU大会見学	9:00 AM 〃 発
9日	11:00 AM	パートルスビル発	11:00 AM ロ ス着
	19:10 PM	インディアナ着	◎南加大及びロスAC見学
		◎インディアナ大学見学	8:40 AM ロ ス発
17日	1:00 PM	プロミントン発	9:50 AM サクラメント着
	3:00 PM	インディアナポリス着	◎カンシルマン講習会见学
		◎インディアナAC見学	PM サクラメント発
18日	8:30	インディアナ発	PM サンフランシスコ着
	11.50	テトロイト着	◎サンタクララ見学
		◎ミシガン大学及び州立大見学	11:50 PM サンフランシスコ発
25日	8:30 AM	マンナーバー発	1:00 PM ロ ス着
	9:35 AM	クリーブランド着	◎南加大、ロスAC見学
		◎今夏の全米大会プール見学	2:15 PM ロ ス発
26日	9:35 AM	クリーブランド発	4:30 PM ハワイ着
	11:00 AM	ニューヨーク着	◎ハワイ大及びハワイ見物
		◎エール大見学	6:00 PM ハワイ発
5月 1日	8:30 AM	ニューヘブン発	28日 9:50 PM 羽田着
	10:00 AM	ニューヨーク着	

東京オリンピック大会

を目指して

水球の強化策 — 座談会

出席者	鷗田 武	(水球強化委員長, 常務理事)
	名取 正也	(水球委員長, 常務理事)
	神田 明善	(水球強化委員, 理事)
	飯田 俊太郎	(水球強化委員)
	村瀬 友三郎	(水球強化委員)
	栗村 中丸	(編集委員長, 常務理事)
日時・場所	昭和37年7月16日	日本水泳連盟事務室

栗村 東京大会を8百余日後に控えて、水連も強化対策に忙殺されているわけですが、目を世界の水泳界に転じますと、水泳全般を通じアメリカの物凄いばかりの飛躍振りをはじめ、各国は覇権への金字塔を目指して非常な躍進振りを示していることは御承知の通りであります。従って日本としても、これらの強豪にたち向っていくためには、もちろん競泳といわず、水球といわず、飛込みも一通りの強化策ではとても追いつけないことは事実と思います。もとより水球については鷗田さんをはじめ強化委員の方々が、先般来より異常な熱意をもたれて強化に献身をされていますが、とくにこんどの場合、晴の檜舞台は東京であって、それだけに全国民注視の下に展開されるわけでありまして、場合によってはなんとというか鼎の軽重を問われることにもなり、水泳関係者として大きな関心をもたざるを得ないわけでありまして。冒頭から堅い話になってしまって恐縮ですが、本日は水球の最高の強化スタッフの方々にとくにお集りをねがっているので、前向きな形で忌憚のないお話をうかがいたいと思います。その意味で、総論的な話を鷗田さんからまずおねがいします。今後の話の進め方は私も適宜仲間入りをさせていただきますと思います。

鷗田 昨年来水球の強化委員会が東京オリンピックに備えてできてから約1年たっています。私共はローマ大

会を終了してからすぐその翌日から東京オリンピックのためにどうたたかうか、ということでローマ大会のいろいろな反省、現在の日本の水球の現状を確り把握して、より一歩でも上へ近づくにはどうしたらいいか、ということで毎日努力を重ねています。まずローマ大会へ行ってわれわれが一番強く感じたことは、向うの大きな体の選手を相手に日本の1メートルそこそこの選手がどうしてたたかったら一番効果の上る試合ができるか、ということを中心に考えてきたわけです。その中で一番取出して考えられたことはどうしてもスタミナがなければならぬ。いかに動いてもそれがつぶれないスタミナが必要だということです。20何年もオリンピックから遠ざかって、海外への交流がなかったので、精神的にも国際的にもなっていない。日本の選手が外国へ行くと雰囲気まいてしまう。そういったことである程度ひけをとるといふか、相手の体のかいプレーヤーを見、豪快なプレーを見たときに精神的にある程度萎縮してしまうので精神的な面、技術的な細かな面は今後のお話の中で出てくるとは思います。スタミナと根性の二つをなんとかして植付けねばならない。それができれば技術的なことはある程度精神力でカバーできるのじゃないか。もっている力を10とすれば国際試合になれていないためにその力が7になり8になりということがしばしば見受けられて

いる。そういうことでわれわれはどうしても精神面も相当強力にしていかなければ強い選手にもっていけない。そのためにはどうしても海外交流を多くしてそういった面になれば、同時にそれによってヨーロッパ一流の強豪ならびに彼等の力を知って、日本の力と比較しながらどこでどうすべきかを種々検討しながら強化委員会でやってきています。ローマが終ってから、本年にはいろいろなローマ大会のときのプロコーチを呼ぶ腹案をもって向うに行き交わりましたが、できれば36年度に呼びたかったが、なかなか話がまとまらず結局37年度になってコーチを呼んだ。これはわれわれにとって千載一遇のチャンスであって、かって短期間のコーチというか、指導にきた人は過去にあったと思うが、プロコーチとして水球プロパーで、長期間選手を強化してくれる機会がなかったので、すでにユーゴスラビアのレナト氏を12月末から2月1ばいの3カ月呼び、そしてまた4月から水球の神さまといわれるハンガリーのライキさんをよんで、2度にわたり強化合宿をやった。37年度はもう一度10月末に3人ないし4人よんで、本年度中に足づくりをして、その上に立って精神的な、インターナショナルになれて行く、海外試合の経験を中心にしてチームづくりをして行く。あと8百余日しかありませんが、大体本年度は主に基礎の足元をじっくりつくって行き、来年度からはチームづくりというか、それを主眼にして、海外交流を行ないながら東京オリンピックでベストの体制で臨みたいと思っています。

栗村 ローマ会には鷗田さん、神田さんがいかれましたが御両氏のローマ大会の報告を拝見して非常に参考になりましたが、その意味で神田さんいかがですか。

神田 行き方としては鷗田さんとほとんど同じですが、体格差があり、ハンドリングに非常な差のあるのをスタミナと根性で補い、ゲームセンスはどうしても国際試合の経験を多くもたなければならぬ。昨年度ユニバーシアード大会でもあるいはそのあとでハンガリーで10日間向うのコーチの下に強化合宿をしましたが、日本の持っている特徴の敏捷性、これを発揮するにはやはりスタミナがなければどうしても最初の第一ピリオドまであたりは出る。第二、第三ピリオドあたりでスタミナが消耗して敏捷性が出なくなる。これを出すために、いままでオリンピックなどのゲームを含めて海外試合を22、3試合しかしていないので、まだまだそれでは経験不足で少なくともオリンピックまでには40から50ぐらいの海外試合の経験をもちたいと思っています。もちろんこんどのアジア大会あるいは来年のユニバーシアード大会を含めて50から60の海外試合経験をもちたいと思っています。

栗村 スタミナと精神的な根性というか、とくに東京

大会を迎えるにあたって必要な条件と思いますが、そのほかとくにやらねばならない課題、そういうものは。

鷗田 課題といっても沢山あります。いまの日本のチームをよくみた上で考えられることは、やはり一番弱点はデフェンス、ゴールキーパーといわゆるバックとのコンビ、デフェンスの面がまだまだ今後力を入れて伸ばしていかなければならないと思います。大体攻撃に関してはある程度個性もでてきているし、いままでの国際試合の経験からみてもはっきりこうすべきだという線はすでにできています。しかし防御のことにしましてはまだまだそこまではっきりした線が出ていない。飯田さんはもともとゴールキーパー出身で現在ゴールキーパーを主にDFを含めてコーチしてもらっています。いままでのコーチングスタッフの中で、ゴールキーパー専属でやったというのはいまだかつてないことで、そういった面がとくに遅れているのでDFを今年一ばいかかってみっちりやっっていかなければならないと思います。今後はゴールキーパーだけの強化練習なり合宿も考えています。

栗村 鷗田さんの報告書でとくに目についた点ですが、オールラウンドシステム、ローマなり、昨年のユニバーシアード大会でもはっきりされたと思いますが、その点日本選手にあてはめた場合どのようなことが考えられるか、その点どうですか。

鷗田 オールラウンドプレーヤーは水球の最高プレーなんで、いわゆる右手と左手を両方使わなければならないことと、同じように防御も攻撃もしなければならない。ということはゲーム自体の傾向が全員が攻撃する、守るときは全員が守るということで、旧来の考え方は、攻撃は主に攻撃、守りは守りオンリーということでは激しい動きの中ではとくにウィークボールが入手できず、オールラウンドプレーヤーの素材が乏しいわけで、そういうことで、それも悩みですが、これはある程度できあがっています。攻撃ができ、防御ができる選手はできあがっています。しかしまだまだ完成されたものではないと思う。これはどうしても動きの激しい水球、しかも日本の選手はスタープレーヤーは少ないので、総合力で点を入れるとすれば必要不可欠の要素になります。

栗村 飯田さんからDF、とくにゴールキーパーについてのいままでにご経験なすった点、今後やりたい点についてちょっと。

飯田 これはいままでやってきた合宿そのものが一つのチームとしてでなく、いろいろな学校から集めてきたということもあります。やはりチームの中でのゴールキーパーのバックのコンビということでなら比較的やりやすいが、各学校の全部違った選手が出ていますのでコン

ピをつくることについては困難じゃないかと思うのです。とくにこの間あたりきていたプロコーチの報告によるとキーパーについてはナッシングだといわれているくらい弱い。それというのはキーパーの技術的なものは別としてやはり体格ですね。体格の問題が相当大きなポイントを占めるのじゃないかと思います。それと考えると大きな選手を一部の学校でなくて二部三部のところから集めて合宿をやる計画も出ておったわけなんです。ところが実際こんどの春のリーグ戦を見ていて、二部三部の体の大きい、比較的カンのよきそうな選手がいるにはいたんですが、これが実際二部、三部のゲームをやっているときキーパーをやっていない、バックマン、FWをやったりしている。この前の合宿でもそういう選手を2、3人よんだわけですが、結局それが試合になってゴールキーパーをやっていないわけです。それをよんでやるとゴールキーパーの経験はそんなにないというところから多少の弱点は見えるが、日本人で標準より大きいということになると相当カンも鈍い点も感じられるのですね。ですからキーパーを強くすることは水球人口が少ないことでもあります。とにかく前々からみなで話をしていますが、少なくとも1メートル以上の相当大きな選手を集めてやらないと、これは東京大会まで8百余日ということですが、できるだけそういう選手を集めて強化する以外に手はないと思います。いまのトッププレーヤーの中でもゴールキーパーにしたらいいなという選手も1、2いるが、選手自体もゴールキーパーをあまりやりたがらないし、そういう点ですね。納得づくでやってもらえればほんとうは……。

栗村 地味なポストだからやりたがらない？

飯田 とっても素晴らしいと思うのがいるのですよ。

栗村 常務理事会あたりでもゴールキーパーの養成について強い示唆がありましてね。私なんか素人で見えますと、この前日大と中央の対抗戦を野毛山プールで見ましたが、私も昔プレストを少々やっていたんですけどポロの方も人がないので引っぱり出されたりしましたが、全くゴールキーパーをみていて簡単のようできてむずかしいですね。しかしとても前より一般的に少しレベルが落ちているのじゃないかと考えられるのですが、とくに野毛山の試合でそういう感じを強くうけたわけですがどうでしょうか。カンの問題か、——とにかく練習量が足りないということに帰一するものか、この点どういのですか。

鷓田 練習量はある程度やっていると思いますが、やはり学校のチーム自体に帰った場合、ゴールキーパーをどこまで重点的にコーチしているか、やはりチームを先

に考えているのじゃないかと考えます。

飯田 ぼくらのときは専任コーチがきて一応みてくれた。ところが最近はなかなかそういうヒマがある人がいないしね。選手自体にそれほど自分から進んでやって行こうというような気構えが見えない。

栗村 村瀬さんは近くヨーロッパにいかれるわけですが、ゴールキーパーを中心として？

鷓田 村瀬君にはDFもやっていたらいい。

栗村 中学が同期で、慶応に岡田君がいますね。冬のオフ・シーズンにYMCAでバケツに水を一ぱいもってやっていたのをよくみかけましたが岡田君はうまかったようですが、苦勞をして練習をしておりましたね。ゴールキーパーは、この間みた感じだけでは、ちょっと落ちるのではないかという感じを持つんですがね。

鷓田 あれはトップグループのキーパーじゃない。

村瀬 結局ゴールキーパーもプレーヤーでもそうですが、やはりチャカチャカと練習して初めてうまくなるんですが、それには1口に10年ぐらいはなんらかに関係して経験を積まないといろいろな判断力が完成しないと思う。これからの課題としてはプレーヤーでもゴールキーパーでもそうなんですが、やはりいま一線にいる人、あるいは一線近くにいる人にまたそれを近づけさせてうまくさせるのだ、ということが必要なんじゃないか。おそらくキーパーは3年目ぐらいでうまくなることがある。犬学にはいって4年間やってかなりうまくなりそうだなというのがトップクラスにはいっておれば別だが、そうでないと、実業団はないので離れてしまう率が多い。有能な選手が去年あたりでもかなり卒業して勤めの関係でできなくなった。あれが近づけておればかなり収穫があると思う。ローマ大会なんかでは日本のゴールキーパーの加藤君がうまかった。トップグループにはいるぐらい止めた。ゴールキーパーでないものは要は止めればいいので、とめたパーセンテージが一番よい、シュートは外国より沢山くるので力を落せないということが目標じゃないかと思うのですね。

鷓田 選手のふけ込みが早いということなんです。外国では第一線で活躍している層は18、9のもいるが、チームの中心となって働らく人は25から上、30前後ですね、ひどい人は7、8で一線のゴールキーパー、プレーヤーをやっている。どうしてもわれわれとしてはOBもそうだし、今年卒業するくらいの選手でも強化委員会がそれを手分けしてつねに練習をやらして現状維持でなく、現状から一歩でも二歩でも前進させることで、今後インターカレッジが終了して社会人になれば早急に手がけなければならない。これがある程度実現して効果が上れば私は希望はもてると思います。

栗村 いまのお話のように学生だけにたよっておれないのも事実だし、有能な若手の諸君を社会的環境もいろいろあるでしょうが逃さないような工夫を考えることは重要ですね。

鷗田 これはどうしてもやらねばならない。折角いまで鍛えたのが社会人になってはなれてしまう。合宿でやれば現状維持がやっと。これではさびしい。

栗村 この前川田さんがアメリカにいかれて西部の沿岸の水泳の盛んな土地を回ってこられた話しではポロをよくみてこられたそうですが、全く昔日のアメリカと違ってポロに力を入れている。その凄まじさは想像以上だということですがアメリカはとかく昔からエンジョイする水泳という風にわれわれは考えていたわけですが、エンジョイどころかスパルタトレーニングをやっている。東京大会でアメリカが覇権を握るくらいの気構えでやっている。というようなことを披露されたが、ローマ大会はアメリカは7番目でしたが、ヨーロッパ勢といい成績を残して接戦している。相当上位に行くと考えねばならないし、かてて加えて本場のヨーロッパは依然として強いので、アメリカといえどもあなどれないということなんで、この点腹背に敵をうけているといえるわけですね。

鷗田 確かにいえますね。アメリカは競泳からおりた選手もいるしね。優勝した4つがAなら、次の4つはBで、Bの上位にランクされている。1日に6時から10時ごろまで3試合か4試合毎晩やっているそうですね。そこまで日本のポロももっていければ……夜の室内のプールが有効に使えればそういった点も実際できるのじやないか、そうなればつねにゲームもできる。水に親しむのが現状維持でなく進歩していかざるを得ない。

(名取氏出席)

栗村 ヨーロッパをみられて卒直に感じたことを名取さん。

名取 結局水球にかかる比重が日本とヨーロッパはまるっきり違うということなんです。だから日本じやいま水球をいろいろな学校のチームや、チームをつくったとしてもホームプールはない。本場のハンガリーでは国内に国営水泳場があり、観客席もある水球専用の33メートルのプールをもっている。夕方からメインイベントですぐポロの試合をやっている。いま日本はOBの選手を主体にしなければならぬが、OBが会社を終わっていつでもアメリカ式の猛練習を試合でもやろうと思っても、その場がない、それじゃ体がなまにならないように少しづつ泳いでおいてくれということしかいまのところできないのじやOBも早くふけ込んでしまう。どうしても場所と水球の底辺がなんとかうんと広がるように考えないとヨーロッパ一流国のチームの中になかなかはいれないの

じやありませんか。

栗村 ライキ、レナトがきたときはOB諸君も参加されたそうですが、主として夜会社が終わって参加したということですか。

鷗田 期間中15日ぐらいの合宿を2回、あとは全部通いでやったということなんです。大体10時45分までですね。

鷗田 会社には参加させてくれと依頼しました。これはよくやってくれました。むしろ現役の諸君は勤めを昼間して、夜練習をする。われわれみていて非常に心強かった。練習態度も熱心だったし、やっているものも自分がバテルまでやっていた。これは範としていいのじやないかと思います。

栗村 関西の就職している若いOBも。

鷗田 合宿のときは参加してもらいました。大体の主力は東京にいます。2、3地方にいます。

栗村 名取さんは東京大会のためオリンピックに備えて笛をよく研究されて、その上で吹かれるそうですが……。

名取 笛に左右される率が水泳は大きい。ヨーロッパでもみんなが納得できるような笛を吹くのはわずかな数しかないらしいですね。その人たちの経歴をみると、笛を吹いているときに40歳から50歳になっているが、水球をやった経歴は25年、30年で、笛も10年ぐらいふいています。そういう人の立派な、プレーヤーもやりいいような笛をどんどん吹かれて、プレーヤーの技術もその笛をまた追いぬくくらい研究していく。ですから笛とプレーヤーの技術は車の前輪と後輪のように進んでいかないと技術的な進歩も望めないのじやないか、だからこれは前々からいっていたんですが、日本でももっと審判制度を確立していつでも安心してまかせられるという人を何人か、少なくとも8人や10人はもっていなければならない。その人たちがみなそれぞれ笛には個性があるが、同じようなケースは同じような笛を吹く。似通った笛を吹いて、それに対してプレーヤーが一生けんめい研究していくというようにしなければならぬが、社会人としての条件があるので、ヒマがないとか、いろいろな理由もあるでしょうし、すべてこれは別に費用を出しているわけじやないので笛を吹いて下さる人が出ない。その点も向うの笛を吹いている連中はうらやましく思います。今年はそれでも大分これは正式な機関じやないがコミティをもっているので世話役を決めて今年一ぱい笛をみな勉強する。幸いレナト氏も国際審判長だし、ライキはもちろん水球の一番の親方ですからそういう2人の立派な笛を勉強することができたので、なるべくその線でいこうじやないか、お手本が違いますからね。去年から今年にかけては大いに笛も勉強しました。オリンピック

でそう何人も吹かしてはくれないだろうと思うのですがね。いま登録してある国際審判員の3人くらいはなんとかオリンピック大会の笛を吹きたい。名取、鷗田、神田ですが。

栗村 去年ユニバーシアードで名取さんが正式に笛を吹かれたわけですが。

名取 ハンガリー国内ではなんべんも吹かしてくれたが、ユニバーシアードでは正式には試合だけです。ところがそれがユーゴとソ連、優勝と2位のチームのときでした。割合ビッグゲームを吹かしてもらった。

栗村 感じはどうですか。

名取 あがってはいかんとって精神安定剤を2、3時間前に飲んだりね、なかなかプレーヤーと同じように試合前になったら口がかわいてきたりしましたね。現実にエキサイトしましたね。こっちからポコンと行って吹いたもんですから旗の示し方が向うの慣習とちょっと違う面があって、キャプテンが手をあげていまのはどっちなんだ、というケースもありました。

栗村 東京大会では3人は必ず笛を吹くということになるわけですか。

鷗田 それはわかりません。コーチは笛を吹けない、そういったコーチのスタッフが決ってくると当然はずすので、そうすればテクニックの面ももちろんだが笛の面も今後もっと代ってやってくれる人をどんどん養成していかねばならない。

栗村 村瀬さんはヨーロッパにはいつ頃……いかれまですか。

村瀬 8月初めに主にハンガリーにいてヨーロッパ選手権の国内予選があるので、数が多く、優秀なチームが多いということで、それを見学してヨーロッパ選手権にハンガリーと一諸に行き、それを見学して帰る予定です。

栗村 10月からまた3、4人コーチをよればるわけですか。

飯田 3人です。

栗村 ローマ大会で日本チームがとった得点、昨年ユニバーシアードで学生諸君がとられた得点をみると大体4点以上はとっていないのですね。4点とったのがルーマニアとので8-4で負けたときです。ローマ大会では3点が最高であって、強いチームは大体8点以上とっているのじゃないですか。強豪とあたる3点以上とることは容易ではないかと思いますが、どうしてもそれほどとらないと決勝リーグに残れないということでしょうね。

名取 新しいルールでいくと4ピリオドである程度までやっているが1チームが、日本チームとやるとすれば

チャンスからみてピリオドに2点から3点どっちかが入る。2点ずつ入れると合計で8点になる。片っ方がそれに相当食い下ってルーマニアと日本のも相手になんとか1点返してというケースになると8-4ということになる。これらは紙一重ですね。その試合は非常によくやったと思うのですよ。ところが相手が手ごわくてとか多くは行って10-0ぐらいだから、今後の試合もビッグゲームになると大体そのくらいのスコアじゃありませんか。

鷗田 とる範囲としては5点、1ピリオドに2点はとれない、差がないと。4ピリオドはベース5分、5分で切れるので、波に乗っているのが切られる。

栗村 4ピリオドというと試合にバラエティが出てきて、動きが活発になってきた傾向はありますね。それだけにスタミナを使いつくすということもあるわけでしょう。

鷗田 まあそうですね、大体考えられるのは第3ピリオドでガンガンやらないと4ピリオドまで行ってしまうのじゃないでしょうか。

栗村 テクニックがまだ本当に自分のものになっていないような感じがして昔は神田さんとか和田さんとか名FWがおられたが、そういう胸のすくようなプレーが少なくなった感じですが。

名取 まんべんなくテクニックは向上したが、切札もっている選手が非常に少ない。こんどのリーグ戦でも優勝したのは早大ですが早大にしたって切札もっているのが1人ぐらいしかいない。得点するケースが凄味がないというか、なんか切味がどのチームも鈍い。これはこれからじゃないかな。

鷗田 そうですね。

栗村 学生チームの問題を取上げると日大、中央が近頃は弱くて、早大、慶大が名門振りを発揮してきたというようなことで、大分差があるようですね。

鷗田 上の2つとあとの2つとは差があるようですね。

名取 リーグ戦の最初としまいでスコアも違ってきたが、大体その4つがせってるのじゃありませんか。紙一重で。ところが一番いい4つも立派な切札もっているのはいないのです。

鷗田 いまリーグ戦の話が出たが、学生の中から28人前後の候補選手が出て、持味もあるし、有望な選手も数が多いが、その人たちが強化合宿を終えて学内へ帰るとバラバラになって、自分のチームに帰ってからチームメイトとのコンビネーションがうまくいかないということで、あたら力があがりながら発揮できないということで、

チームづくりに相当苦勞していると思うのです。ここに飯田さんがお見えになるが、その面は苦勞をされているのじゃありませんか。

飯田 強化合宿をみているといわゆるチームの一員としての強さをつくることに重点をおかれて、個人の特徴を伸ばすというような練習をぼくはもっとした方がいいのじゃないかと思う。それがここ一発というとき決めるものが出てくる気がする。

神田 ぼくが考えるのに、スタープレイヤーは昔確にいたんですが、国際試合に日本のスターが向うでは通用しない。そうすると総合力であたらないと非常に弱い、1人いいものが出て、そこへ全部球を集めて得点できない、そうすると総合力で劣る。勢い練習も全部がコンビネーションを要求されてくる。ぼくもコーチを少しお手伝いしているが、その個人のよきを出すには本人の気構えと、強化合宿では日が短いので各学校で、自分の技術を磨き、強化合宿では総合的な力を養成して、このプレイヤーはこういう特徴があるのだという、そういう点を伸ばすのも強化の一面でやらねばならないが、そこまでいかねば総合力を伸ばす。

飯田 いい例が強化合宿で相当強い選手が学校へ帰るとチームメートが落ちるので力を発揮できない。

神田 それとコンビ。

飯田 そういう欠点が出てくる。

栗村 そうなると学校でもやってもらはないと困る。

鶴田 学校とコーチの方針は一本になっていかねばならない。そこまで現在の強化委員会は努力が足りない。ヘタでも弱くてもいいからその方向へもってきてもらい、方針を一本化してもらはないと優秀な選手が、その人の持味が出てこない。慶応は優勝という下馬評がありながら最後に逆転されたことなど力がありながら力が生かせなかったために、最後に敗れた例もあるので、どうしても方針の一本化は早急にやらねばならないので、緊密な連絡をとってその方向にもっていくべきだ。

栗村 各大学毎にせまい門にとじこもっていることも、対抗意識は別の面から考えるといいこともあるが、東京大会を控えての問題を考えた場合、それだけでは到底いけないので総合力とそれが各大学の練習方法とマッチしていくことが重要なことだろうと思いますね。

飯田 オールランダーの意味からいくとFWの防御をもっとやらねばならない。

栗村 FWが味方ゴール前でDFもやり得るということなんです。ということはそれだけ本当のオールランダーシステムを活用していくことですね。

鶴田 実際に攻撃のときと、守るときとはつまり2つに別れる。守るときは全員が守る。用事のないときでも

DFはDFをやらねばならないとの観念が、FWに薄いDFが適当にやってくれるだろうとの気分が見える。

飯田 シュートしたあとFWが気を抜くと逆に突っ込まれる。水球のいろはのいの一番基本を忘れている。FWが防御しなければならない。

栗村 その場合泳力というか体力が必要でしょうね。

鶴田 泳力は絶対必要でしょう。

栗村 いま泳力の面ではスピードの点は。

鶴田 各大学でいろいろ違うと思うが、大体インターバル式になっているのじゃありませんか。水球では100メートルの泳力が一番必要でしょう。50、25の瞬間のトップスピードですね。

栗村 早大の竹内君は57秒。ランク10位以内にはいつている。各大学にも59秒台は全部で5、6人はいるのじゃありませんか。ヨーロッパに比較しては。

名取 ハンガリーは強い。

鶴田 日本と泳力だけならいいところ。リレーなんかやらしても。ただそれを生かすタイミングと出足の問題、ゲームセンスの問題ですね。

栗村 さっきの話に、絶対試合には根性が必要だという点なんです。とくに水球は水の中でのプレーなんです、非常に反則も起る率も多いということで、荒いプレーを随分やるようです。その点なんかどうです。

鶴田 水球の場合に、根性はボールに対する執念でしょうね。とった球ははなさない。敵にゴールへ入れさせないという。そのためには練習です。スポーツをやるにはやはりハードトレーニングで自分を鍛えねばならない、その上に執念と闘志を養って行って、自分はスポーツマンであるとの誇りを身につければ当然試合にもいい根性が出てくる。

神田 そういうことでやっておれば根性も出てくる。

鶴田 もう一つは根性がこりかたまってエキサイトするとプレーができない。水の中で巧妙に反則されて頭に来てしまう。そうするとボンミスが多くなる。冷静であって、しかも執念がなければならない。

村瀬 もう一つは肉体が非常に疲労してきた場合に判断力が落ちる。これが強いチームと弱いチームの差が出てくる。第3ピリオドの終り近くになると判断力の差が随所に現われてくる。疲れた状態になっても、自分はこういう状態にあるのだとの判断力がないといけない。ただガムジャラにがんばることではなく、合せていくことが必要じゃないか。

栗村 要するにふだんの練習の成果がそこに実を結び、それによって養成される。そこにはよき判断力も自然に出てくるということですね。日本チームは気がやさしい点があるのじゃないかといわれていますが。

飯田 アメリカのスポーツ雑誌に水球の写真が出ていたが、メルボルンでの試合でソ連とハンガリーが物凄い格闘をやっている。水の中で6人ぐらい一カ所に集ってやっている、もつれ合って。

神田 そういふことがあるから南米ルールができたのかも知れない。ロンドン大会でもオリンピックからはずすという話が出たほどだ。

鷗田 日本はインターナショナルになり切れない。引け目があると同時に、謙譲の美德があって、水球はケンカと同じだから、なぐってはいけませんが、なんとしてもやっていくとの積極性がなければ。

栗村 有能な若手のOB諸君をがっちり握ってやっていくよりほかはないと思うが、ローマ大会でも6位までヨーロッパ、7位アメリカ、8位オランダ、8位以下は順位の決定がないが、アラブ連合、日本、アルゼンチン、ブラジル、南阿連邦、オーストラリア、フランス、ベルギーとあるが、全くヨーロッパ選手は強いわけですか。

鷗田 ローマのとき練習試合を豪州とも南阿ともやったが、南阿にも、ブラジルにも勝ったが、練習試合とゲームは違うので。

栗村 今年は海外での交流試合は …。

鷗田 考えてません。来年はユニバーシアードがあるので、それに引っかけたヨーロッパで1カ月くらい合宿したい。

栗村 インドネシア、シンガポールはアジアで強いようですが。

神田 シンガポールで2試合やった。1試合はオールシンガポール、もう1試合はシンガポールセレクションチーム、ただなんとか名前を変えて最強チームで日本を破ってやろう、ときたわけです。第1試合は11-6、第2試合が6-4で両方とも日本が勝った。

名取 それだけ差がある。第1試合は私が笛を吹いた。何しろエコヒイキのない笛を吹いたつもりです。日本人は自分の国に色合いをつけたりできない。次は地元の古い経歴の人で、神田君などマニラ大会の2回目以来知っているが、それが吹いたら前半リードされて3点ぐらい向うにリードされて青くなった。向うは勝たせようとどんなことをやっても笛を吹かない、横を向いている。こっちは必死になってだんだん逆転したが、あのへんも何か審判も確かに根性が違う。外人ははっきりエコヒイキする。

飯田 こんどのアジア大会でもインドネシア、シンガポールが笛を吹けばよほどうまくやっていかないと危ぶまない。

名取 選手のプレーでも練習試合をやると大したことはない。ところが本試合になるとがらっと違う。勝敗に

は日本人より何倍も徹している。日本は練習だろうとなんだらうと同じように全力をあげてやる。

栗村 応援は外国の場合どうですか。

名取 やるんでしようが、言葉がわからないから、日本ではレフリーにヤジとか、笛を吹く前にヤじる。審判はかえってそれを意識しないようにするのでかえって意地になるので、吹きにくくなってしまふ。かえって反発しようとするので、ヤジは影響がありますね。

栗村 東京大会ではやはり規定により世界を16チームにしぼる、各ゾーン毎に予選をやるわけですか。

名取 アジア大会が一応予選になる。主催国は無条件でその中に入れる。その他アジアから1チームが出られます。

神田 日本が優勝したら日本だけになるかも知れない。

名取 主催国は全然別個にワクからはなれて、15チームにしぼる。

栗村 ヨーロッパは強いがそのほか注意しなければならないのはアメリカとか南米？

飯田 豪州、南阿。

鷗田 アラブは問題にならない、やはりアメリカをマークすべきだ。

名取 アメリカとオランダ、日本はいまの実力からいって決勝8チームにはいれるのじゃないか。東西ドイツが連合してくれば強い。おそらくくるでしょう。

栗村 予選リーグというのは。

名取 4グループのうちトップにくる4つはシードです。その次もシードになる。強い上位の中にはいると予選通過はむずかしい。

鷗田 ローマがそうだった。イタリア、ルーマニア、日本とアラブでしょう。4位と8位のところへはいればいい。

名取 全然望みのないグループにはいるのではね。

栗村 日本人独特のマイナスをプラスにするような仕組み、方法はないのですか。

鷗田 それを当然考えていかねばならない。向うのコーチもそれを主眼にして、ローマなどの成績をみながらきた。われわれも考えていたんですが、いわゆる動きに徹するプレー、止まっちゃいかん、チョコチョコ動きながら、どこからシュートがくるかわからないようにして決めて行く以外道がない。それが一番高度なんです。ちょっとしたコンビのくずれでもダメになってしまう。

名取 動きながらシュートもパスもできるスピードに乗ったまま、すべての動作ができるのがねらいなんです。体をタテにして浮いている場合6尺2寸に抱えられたら動きがとれない。体をねかして動いている状態が

で、ハンドリングもレナトがきてきびしい練習をして、宿舎に帰って昼飯を食って30分休んで2時間ハンドリングを陸上でやれと、例えばランドパスでも、いままで日本の想像しないことをやる。こうしてこの方は追いつけるとしても、絶対に追いつけないものは体力、もう一つはチームヤンス、それをカバーするには完成された理論とフォーメーションをもってしなければならないと思う。

栗村 これからの強化練習の予定は…。

鷗田 7月1日から15日まで、これはアジア大会に重点をおいている。そのあとは10月、11月とこの期間にコ

ーチをよぶので、その間にも合宿をやる。来年1月初旬から半月くらい。

栗村 どうもありがとうございました。期間も東京大会まで短いのでいろいろ社会的にも環境の上においても種々制約もありましようが、それを打破ってやらねばならぬところにスタッフの方々、選手諸君のご労苦は非常なものがあると思います。しかし矢はツルをはなれたというか、東京大会はなんとしてもやりぬかねばならないとの課題が与えられているわけでありますので、今後ともよろしくご健闘いただきたいと思います。

昭和38年度オリンピック候補選手目標記録を定める

日本水泳連盟強化本部会では本年度オリンピック東京大会水泳候補選手の目標記録を下記の通り定めた。本年中にこの目標記録を突破すれば自動的に来年度候補選手の資格を得ることができると言う仕組である。

目 標 記 録

種 目	男 子			女 子			
	一 般	高 校	中 学	一 般	高 校	中 学	
自由形	100m	56.0	57.5	59.0	1:04.0	1:06.0	1:07.0
	200	2:04.0	2:07.0	2:12.0	2:22.0	2:25.0	2:28.0
	400	4:25.0	4:35.0	4:45.0	5:05.0	5:10.0	5:15.0
	800	—	—	—	10:35.0	10:40.0	10:50.0
	1500	17:45.0	18:25.0	18:55.0	—	—	—
平 泳	100	1:11.0	1:12.4	1:16.0	1:22.0	1:23.0	1:25.0
	200	2:35.0	2:38.0	2:45.0	2:55.0	2:58.0	3:01.0
バタフライ	100	1:00.0	1:02.0	1:05.0	1:12.0	1:13.5	1:16.0
	200	2:16.5	2:19.0	2:28.0	2:44.0	2:47.0	2:55.0
背 泳	100	1:03.0	1:04.5	1:10.0	1:13.0	1:15.0	1:18.0
	200	2:17.0	2:20.0	2:30.0	2:40.0	2:45.0	2:50.0
個 人 メドレー	400	5:10.0	5:20.0	—	5:50.0	6:00.0	

なお7月30日現在日本水泳連盟に正式報告の記録による上記該当者は下記21名である。

○一般男子(10名)

山中 毅(大洋漁業)	200m自由形	2:02.5
	400m "	4:19.5
	1500m "	17:26.6
福井 誠(八幡製鉄)	200m自由形	2:02.9
藤本 達夫(松下電機)	"	2:03.2
松本健次郎(早大)	100m平泳	1:10.9
	200m "	2:33.5
重松 盛人(八幡製鉄)	200m平泳	1:11.0
	200m "	2:33.4
敷石 義秋(日大)	"	2:33.4
佐藤 好助(八幡製鉄)	200mバタフライ	2:13.8
井筒 賢造	"	2:16.2
増永 文昭(日本鉱業)	"	2:16.4
福島 滋雄(日大)	200m背泳	2:16.1
	400m個人メドレー	5:02.6

○一般女子(3名)

佐藤 喜子(ロート製薬)	200m自由形	2:21.4
田中 聰子(八幡製薬)	100m背泳	1:11.2
	200m "	2:31.6

高校男子(4名)

藤島 祥三(柳井商工)	1500m自由形	18:23.2
石川 健二(日大豊山)	100m平泳	1:11.2
	200m "	2:36.2
山南 宏一(佐伯鶴城)	"	2:37.2
大賀 睦郎(八代東)	100mバタフライ	1:01.4

○高校女子(5名)

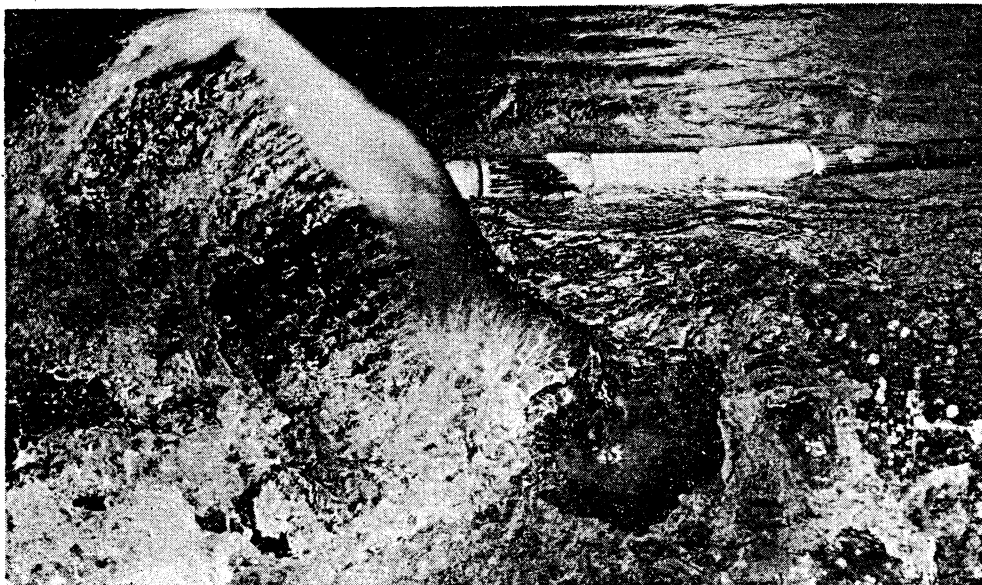
木村トヨ子(筑紫女)	400m自由形	5:03.4
山本 憲子(")	100m平泳	1:22.2
高橋 栄子(佐伯鶴城)	100mバタフライ	1:12.5
	200m "	2:42.6
中西美智代(五条)	"	2:44.2

○中学男子 ナ ジ

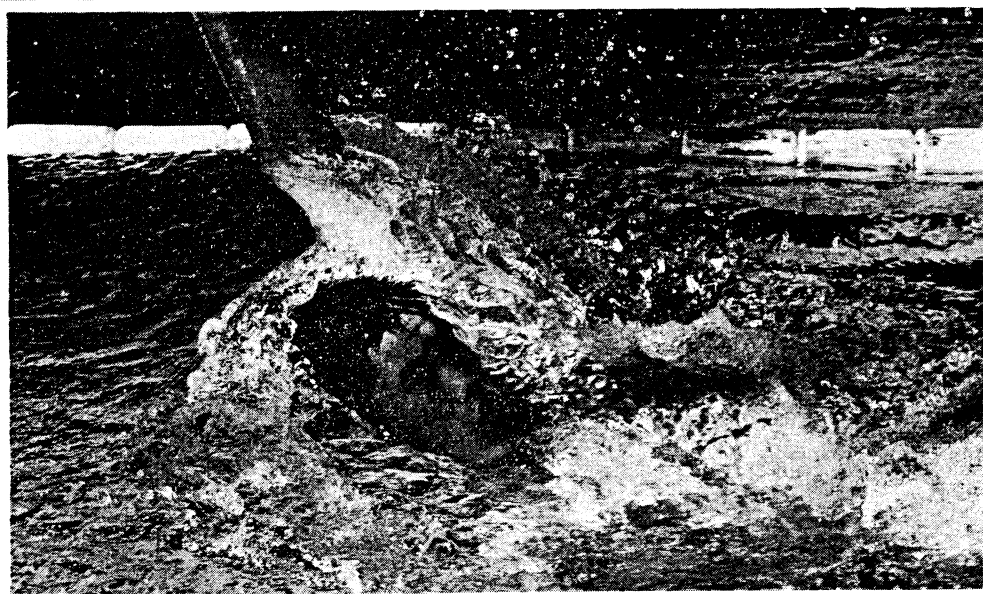
○中学女子(1名)

早川 一枝(富士)	400m自由形	5:05.7
	800m "	10:33.2

東京大会の栄冠を目指して競う諸選手



福島 滋雄 選手
背泳と個人メドレーの





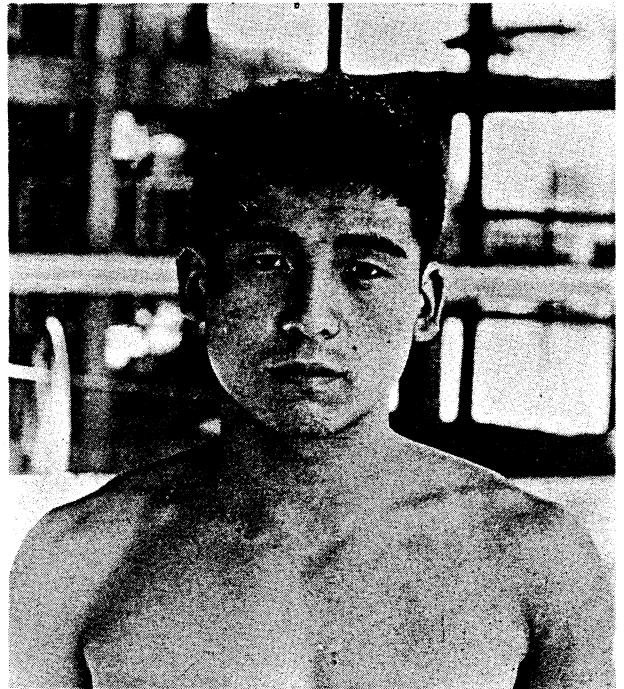
平泳の松本建次郎選手



背泳の田中聡子選手

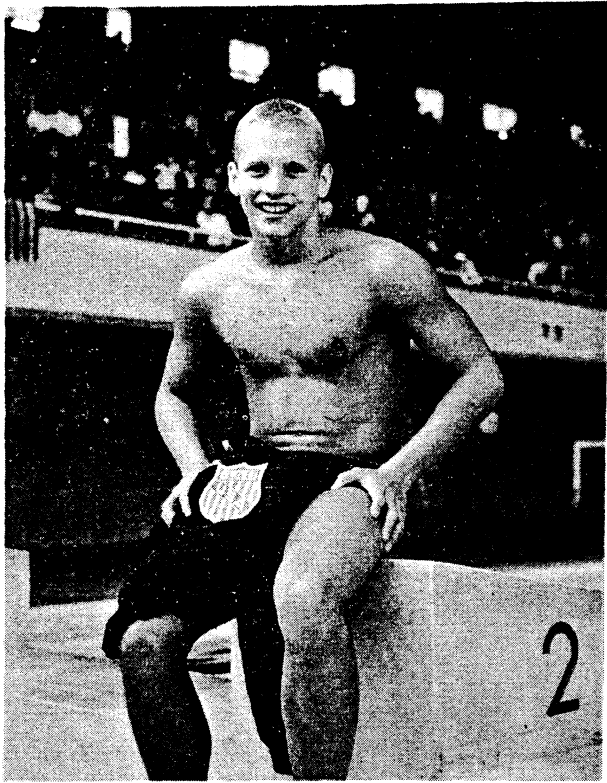


自由形の福井 誠選手



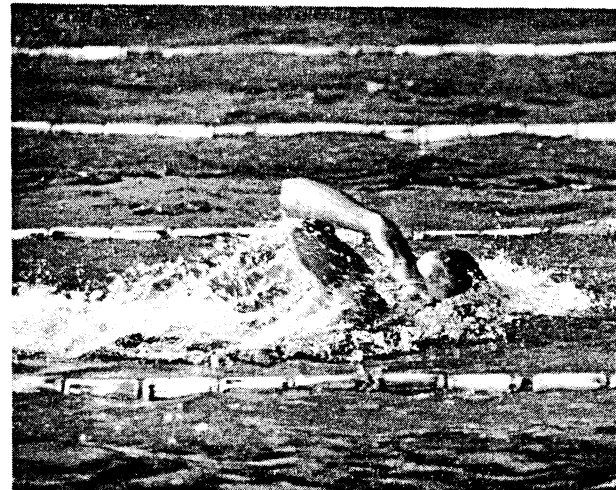
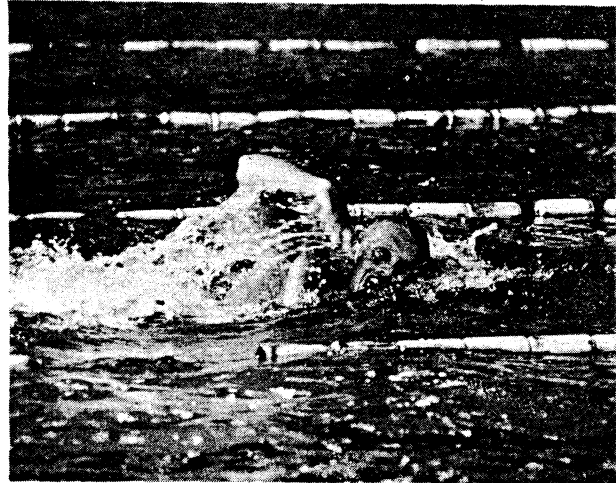
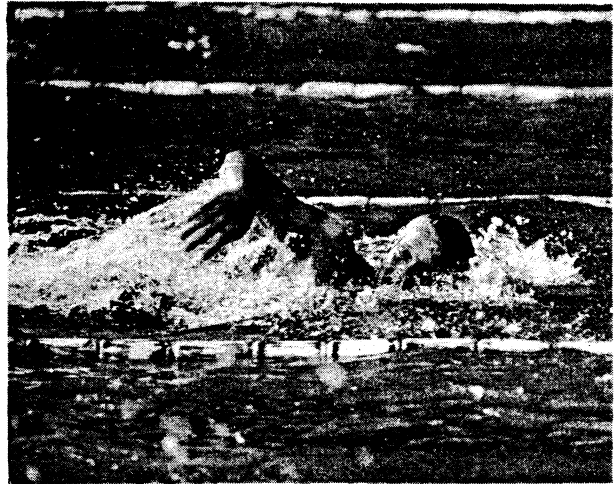
バタフライの佐藤好助選手

ド ン ・ シ ョ ラ ン ダ ー 選 手

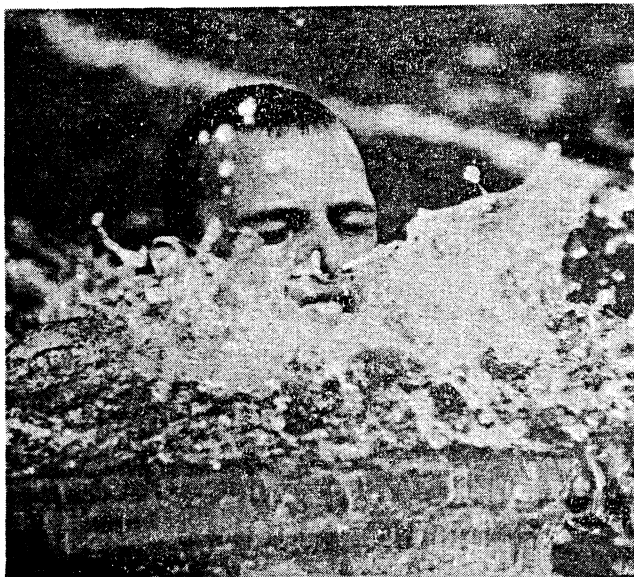
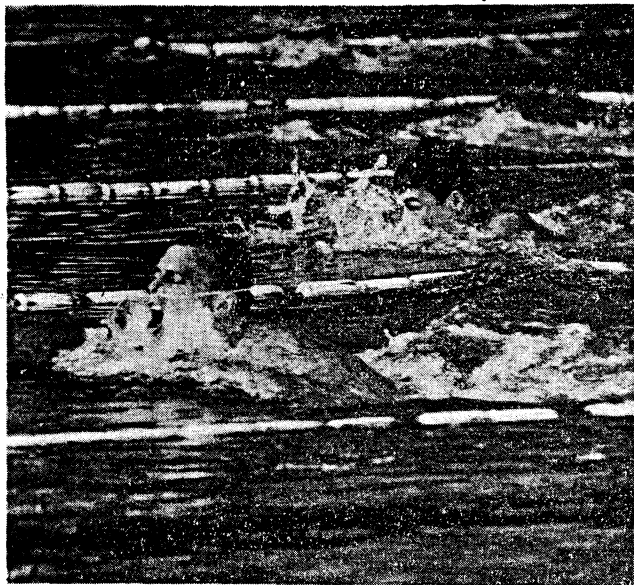
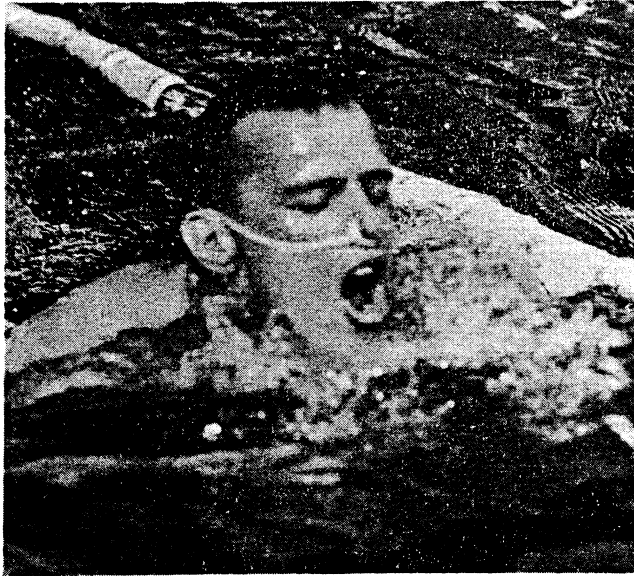


第 4 回室内選手権 200m自由形 2分03秒8
 400m自由形 4分29秒5
 800m自由形 9分19秒4

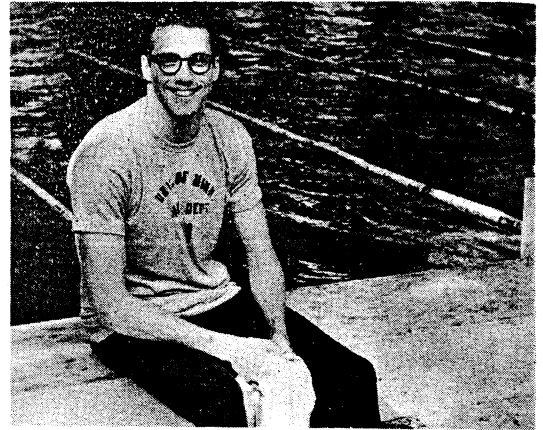
第 4 回室内選手権大会に出場した米
 国選手……(1)



チェスター・ジャストレムスキー選手



スティーブ・ジャックマン選手



第4回室内選手権 100m自由形 54秒6
200m自由形 2分04秒3

ラリー・シュルホフ選手



第4回室内 100mバタフライ 1分00秒7
200mバタフライ 2分16秒6

エドワード・ステックルス選手

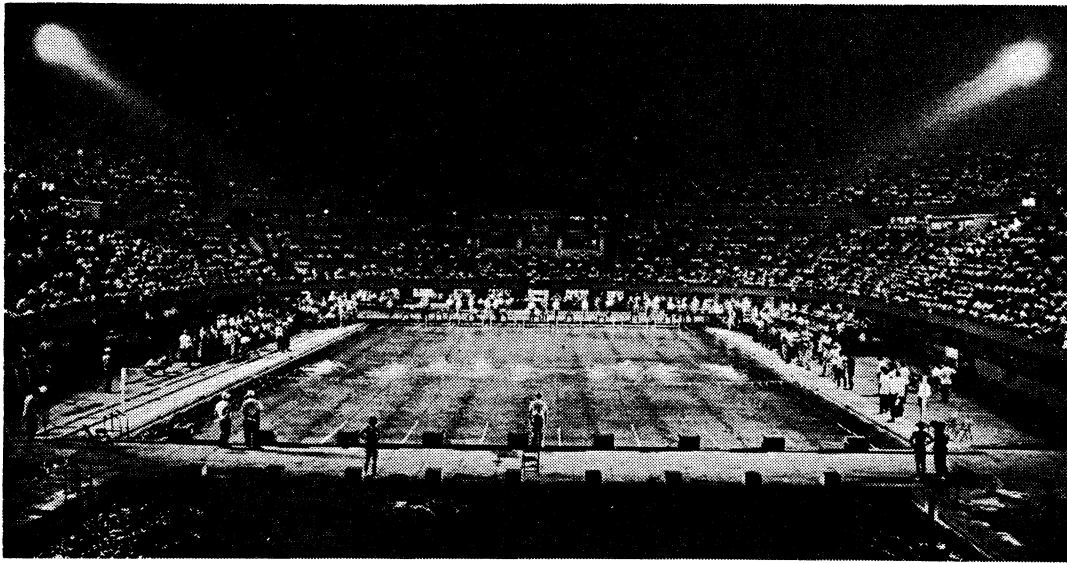


第4回室内選手権

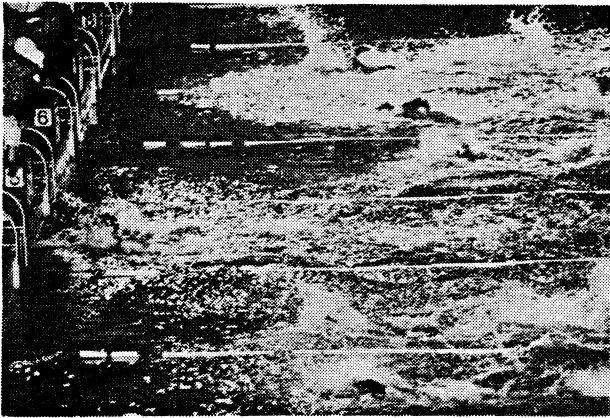
400m個人メドレー 5分02秒4
100m背泳 1分05秒3
200m背泳 2分21秒0

第4回室内選手権大会に出場した米国選手……(2)

昭和37年度日本選手権大会風景



大阪プール全景



男子 100 m自由形決勝のゴール

- | | |
|------------|----------------|
| ②着 8コース 石原 | ①着 5コース ジャックマン |
| ③" 7 " シンツ | ④" 4 " 清水 |
| ⑥" 6 " 竹本 | ⑤" 3 " 後藤 |



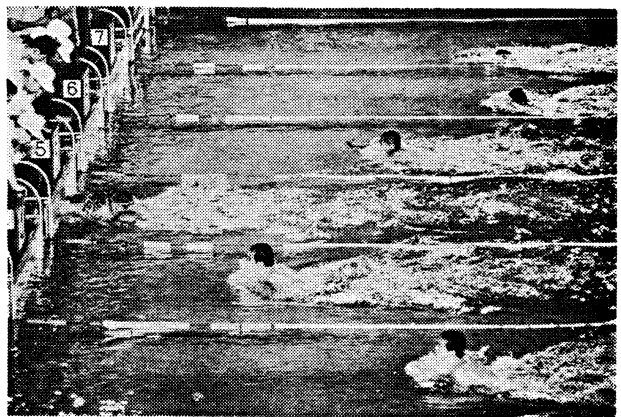
男子 400 m自由形決勝 200 mのターン

- | | |
|-------------|------------|
| ⑤着 3コース 吉無田 | ④着 6コース 藤本 |
| ②" 4 " サアリ | ③" 7 " 福井 |
| ①" 5 " 山中 | ⑥" 8 " 佐々木 |



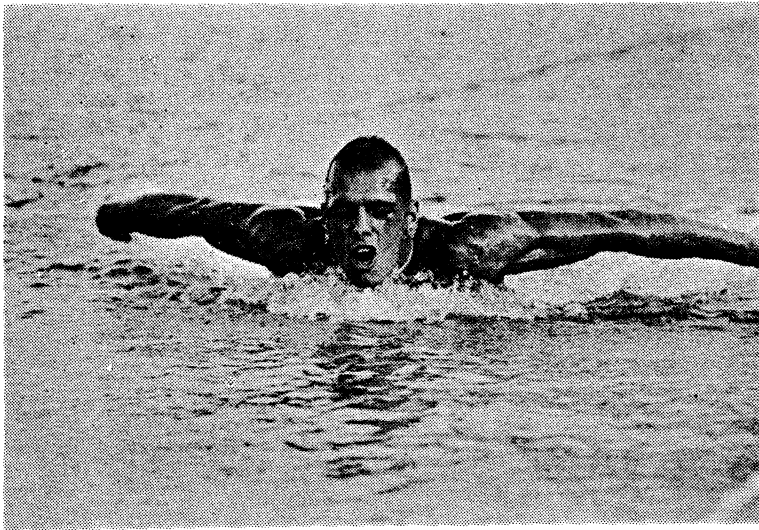
女子 200 m背泳決勝レース

195 m附近にてトップは田中嬢, 次いでデ・パロナ選手

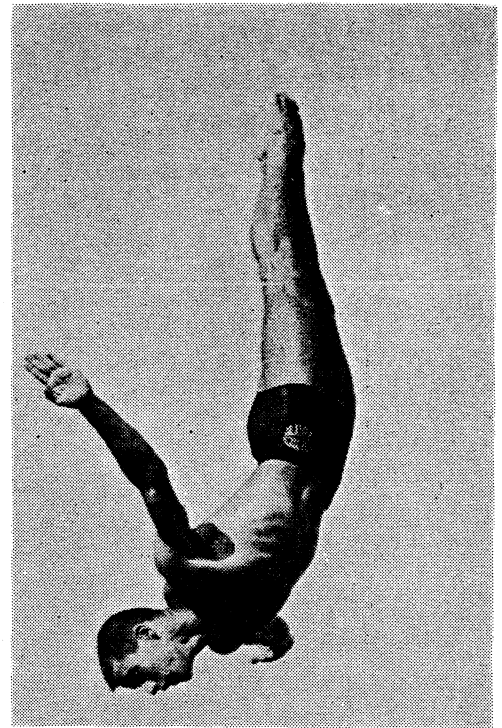


男子 100 m平泳決勝のゴール

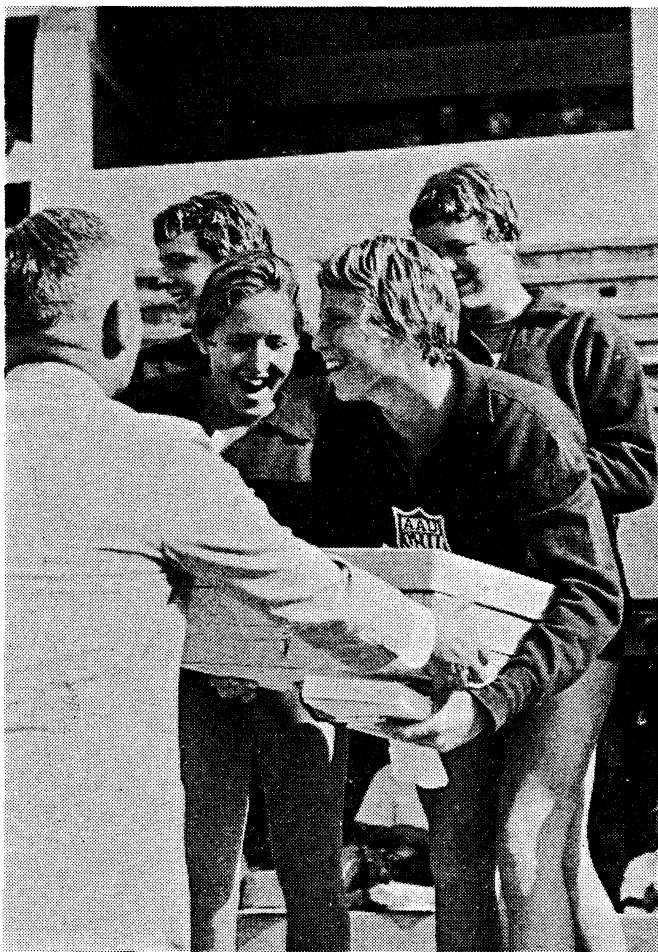
- | | |
|------------------|------------|
| ④着 3コース 敷石 | 3着 6コース 石川 |
| ②" 4 " 松本 | 5" 7 " 中野 |
| ①" 5 " ジャストレムスキー | |



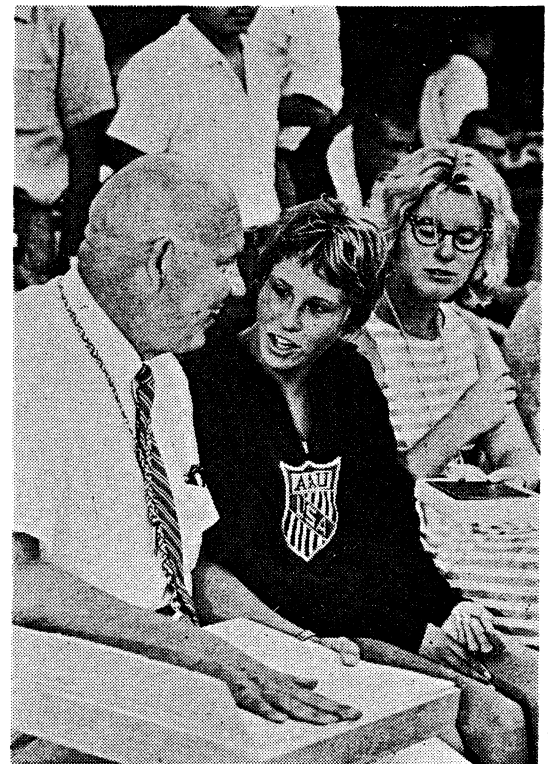
個人メドレーでバタフライを泳ぐジャストレムスキー選手



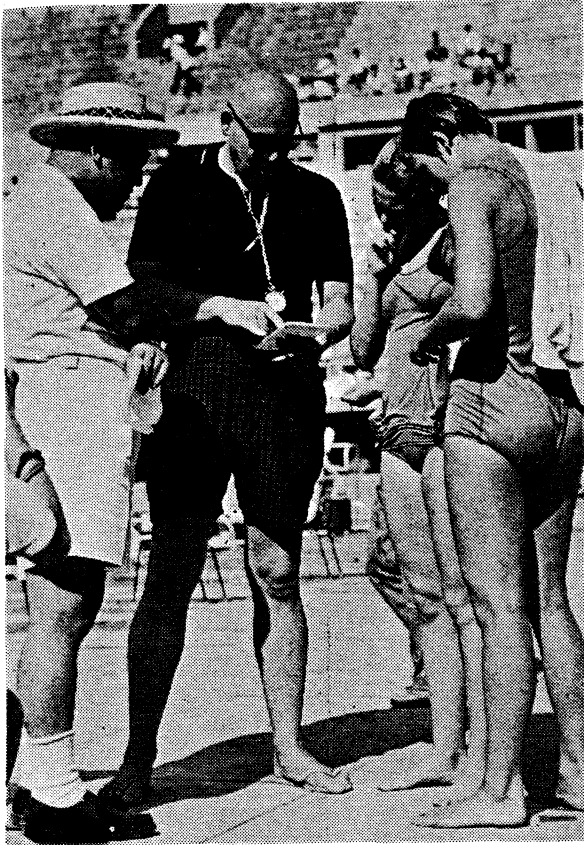
オブライエン選手



女子400mメドレー・リレーに優勝し高石会長より賞品を貰って大喜びの米国女子選手



左よりヘニング監督、デ・パロナ選手、フォン・ソルupp嬢（ローマ大会400m自由形優勝現在慶大留学中）



プールサイドにて
左より根上理事長，高石会長

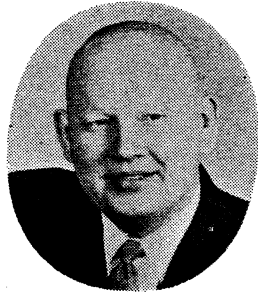
↑プールサイドにて
左より川田常務理事，ヘニ
ング監督，ホイップル選手
ジョンソン選手。



↑
第一ホテルにおける米国選
手のレセプション。挨拶す
る高石会長

←
第一ホテルでのレセプションにおける渡米
派遣選手団との交換風景。
渡辺君が箸の持方をコーチ。

米 国 選 手 紹 介



監 督

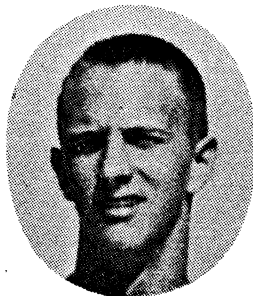
ハロルド・ヘニング
HAROLD W. HENNING
全米体協男子水泳委員長



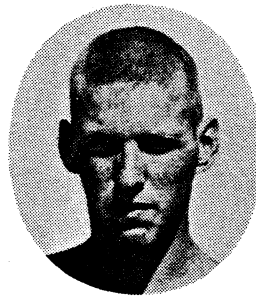
ステーブ・ジャックマン
自由形(短)
ミネソタ大
20才



ロイ・サアリ
自由形(長)
エクセグンド高校出
17才



フレッド・シュミット
バタフライ
ニュートライアー-S.C.
18才



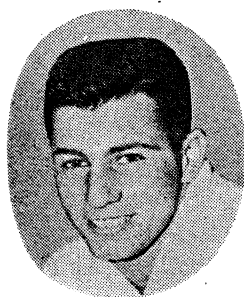
ジェド・グラーフ
背 泳
プリンストン大
20才



ピーター・シンツ
自由形(中)
インディアナ大
20才



チェスター・
ジャストレムスキー
平 泳
インディアナ大
21才



ルイズ・ビトウシ
飛 込
オハイオ州立大
24才



ロン・オブライエン
飛 込
オハイオ州立大
24才

米 国 女 子 選 手 紹 介

監 督

エラ・リーベンス夫人
MRS. ELLA RIVENES

・シャペロン ヘニング夫人



ロビン・ジョンソン
自由形(短)
ノースバージニア A.C.
16才



シャロン・フィネラン
バタフライ
フロリダ S. C.
16才



ドンナ・デ・バロナ
自由形
サンタクララ S. C.
15才



ロビー・ホイップル
平 泳
サンタクララ S. C.
15才



バーバラ・マッカリスター
飛 込
ディック・スミスクラブ
21才

水 連 便 り

水不足にたたられた水泳競技

東京都は今春から近年まれにみる水不足にたたられ、第3次制限措置とやらで飲料水まで制限される破目に陥りこの結果 神宮プールの使用は6月以降全然見通しがつかない情勢となったことは既に御承知のとおりである。6月の早慶戦は日吉、早大対全九州は東伏見、三大学と日中戦は野毛山プール、中大対全東京は船橋、アメリカ派遣選考競技会は日吉と夫々都落ちしてどうにか開催にこぎつけたが、その間関係者の苦労は大変だつたようである。その後は水事情も好転し都内のプールにも待望の水が入りカップ連を喜ばせているが、水源対策を抜本的に講じない限り来年以降も本年と同様となりかねないので、早急な対策が望まれている。

人事往来

従来まで宮畑虎彦常務理事が兼任されていた普及委員長には今回上野徳太郎常務理事が専任され、宮畑氏は強化本部のスポーツ科学技術委員長として専念されることとなった。また近畿ブロック選出常務理事の木村象雷氏は、今般大阪勤務となられたので、同ブロックの推薦により藤垣亮太郎氏が同ブロック選出常務理事に就任された。

シンクロ選手大もて？

是近各地より水連あてプールの新設やその他の催しにシンクロ選手の出場方の要請が再三あるがその内容をみるとなかには夜間照明のもとバンド演奏つきでシヨウまがいのものがあり水連本部関係者をあわてさせている。シンクロは最近雑誌やなにかの口絵になったりして評判であるが、あれはプロのシンクロ選手であって一般にはとかく間違がわれやすい。水連のシンクロはもとよりシンクロ競技のためのものであって純然たるアマチュア資格を有するものである。学校プールの新設や競技会等でその普及や技術の向上に資するためのものは大いに奨励すべきであるが、シヨウ的なものに出場することは誤解を受けやすくアマチュア資格にも触れるおそれもあり厳に戒めなければならないであろう。

福島君のオールマイティ振り

背泳の第1人者日大の福島君は蒙州遠征以来益々好調振りを発揮し200mでもまたも日本新を出し、東京大会に大きな希望を持たせているが、6月開かれた日・中戦

では400mの個人メドレーに出場して日本新記録をものにし、以来日本選手権大会でも大幅な躍進を見せ関係者を喜ばせた。この種目は周知のように東京大会に初めて採用された新種目だけに日本としては全く未開拓と言ってよく人材難をかこっていただけに、同君の出現により期待されるところが大きい。しかし何といっても世界記録は4分55秒(アメリカのT・スティックス)であるからまだまだ前途は遠い。それにアメリカはこの種目は最も得意とするところであり、さすがに本場だけあって要員の数も多く、東京大会では50秒を割るものと考えなくてはならないから日本にとっては非常に苦しい試練に直面しているわけである。更に福島君の200m背泳の記録は世界史上3位にランクされる大記録であり、若さと練習熱心にものを言わせれば、まだまだ記録の向上は考えられるだけに何れを選ぶか難かしいところであろうが、これらの点を関係者がじっくり考慮してとにかく同君の進歩を傷けないようお願いしたいものである。

水連規約等(改正版)完成す

水泳連盟においては昨年来より水連内に規約改正委員会を設け水連規約、各部門別競技規則等の改正措置につき検討を続けてきたが、この春の全国理事会、全国代議員会において改正原案とおりに可決成立を見たので、この程全文115頁に及ぶ規約及び競技規則を一冊にとりまとめた規約集を刊行した。水連の各種会議の執行、各委員会、役職別規定並びに競技、飛込、水球、シンクロ等各規則、プール公認規則等あらゆるものがすべてとりまとめられているので関係者には非常な便利なものとなるう。

カイロみやげ話し

アラブ連合共和国のカイロ市ヘリオリス・スポーツクラブの招待により7月3日から8日までの第2回国際競技会に派遣された女子競泳、シンクロ選手団は松沢洋子監督に引率され無事日程を終えて同月12日帰国したが、以下は19日の常務理事会での松沢さんの苦勞みやげ話し。なにしろナセル大統領の号令する新興の意気と民族意識に燃える同国のこと国際競技大会と銘を打ったの競技会の開催にはオリンピックを控えてまことに頭の下る思いであるが、先ず最初に驚かされたのは2日からと予定されていた競技会が簡単に3日から開催と変更、お蔭で飛行機の予約を取消したり帰国の日程がずれ

て大こまり。久保廉と田中嬢の100m自由形と100m背泳はさすがに断然たる強味をみせて両者とも優勝したが、田中嬢の背泳のターンで一騒動。というのは、あちらの審判長だかが同嬢のターンの際の体の回転の仕方はルール違反として強く失格を主張、これにはさすがに松沢監督や本人の田中嬢も憤慨、FINALルールに照らしても何ら違反にならないし、同嬢はこれでローマ大会で決勝3位を獲ち得ており万国共通の旨を力説、しまいには居合せたアメリカから来た役員にも同調して貰ってどうやらしぶしぶパスという具合で全くうんざりさせられ

たとか。またシンクロはソロもデュエットも全部優勝をさらったが、正規の審判がおらず田中嬢ではどうだとかやっと4人の審判(正規は7名)で始めたところ、他の審判員は、審判を務めた松沢さんの方を向いて皆右へならえ式に採点板を上げたり下げたり。ともかく競泳もシンクロもまだまだ開拓時代の域を出ないようであるが、遠く日本から選手団を招聘したその熱意の程は涙ぐましいものがあるようである。それにしても女子だけの海外遠征は今回が初めてであり、それだけに松沢さんの苦勞も大変だったようである。

国民皆泳大会学童皆泳大会開催要項

主催 日本水泳連盟(加盟団体)
後援 文部省、都道府県教育委員会、日本放送協会

「皆泳日」の設定と国民皆泳大会

8月1日を「国民皆泳の日」と決め、広く国民の参加をもとめて各種水泳行事を行ない水泳の普及をはかる。

この日は全国各地にある水泳施設を利用して

“みんなで泳ごう海でも、川でも、プールでも”をモットーにあらゆる地域や職域でそれぞれの場所に即して各種の水泳行事が各方面の協力によってさかんに行なわれることを期待する。

殊に小学校においては学童に適する種目を選び、その学校にふさわしい方法で全校こぞっての参加が望まれる。

当日の種目としては、学童皆泳大会、水泳レクリエーション大会、日本泳法大会、遠泳大会、その他模範泳法、競泳、飛込、水球、シンクロ、水泳救助法等の公開演技や泳力テストなどが適宜計画されて、あたかも水泳祭のように多彩な行事であることを期待する。

学童皆泳大会

8月1日午前10時中央会場(東京都内プール)NHKからの多元放送により開会式を全国一斉に挙行し、文部大臣、水連会長等の挨拶やお話、国民皆泳の歌の合唱等

を行なう。

各地の会場では、この放送に合わせて開会式に臨み、これに引続いてそれぞれの予定されたプログラムにより演技が進められるように計画して実施されることが望まれる。

全国優秀学童表彰要項

表彰の目的

水泳能力優秀の学童を選抜表彰し、小学校水泳の振興を奨励し、全般的な水泳能力の向上を促進するために行なう。

審査表彰の方法

8月1日開催される全国都道府県の国民皆泳大会その他の水泳会で得られた学童の優秀成績を審査して表彰する。

審査する水泳記録は男女各50m自由形、50m平泳、50m背泳の3種目とし、各種目とも全国を通じて第1位より第50位まで表彰する。

審査をうけようとする水泳記録は全国都道府県教育委員会(各市町村教育委員会)および加盟団体を経て日本水泳連盟に9月10日までに報告される。日本水泳連盟は報告された学童記録を審査し第1位より第50位まで決定し表彰する。

自動審判関係装置の完成化を目指して

深 谷 俊 明

自動審判装置の完成は、水泳界多年の宿願であったが、ローマ大会の100m自由形決勝で、デビットとラーソンの決勝タイムが55秒という同タイムのオリンピック新記録でありながら、その着順判定については、未だに暗い影が投げられている。東京大会においては、エレクトロニクスの国、日本がこの自動審判装置を完成するよう、全世界の水泳界から期待されている次第である。

NSRにおいては1955年に機械審判委員会、通称エレキ部会が設けられ、当時松沢、安部、川田、伊丹、深谷の常務理事の外に東大教授筒井俊正、同菅義夫、同神山雅美、NHK加藤倉吉、東大助手柴田正、医理学研究所技師長中島鉄桂等の各氏の協力を得て、アジア大会を目標にデカトロンタイマーを完成した。この大会を視察に来ていたIOCの委員も驚異の目でこの装置を見たのであるが、東京にオリンピック大会が決定した要因の一つとして、このデカトロンタイマーの完成があげられるといっても過言ではないであろう。

その後、機械審判委員会もタイマーの研究だけでなく、タッチにおける誤差をなくするため、電気通信学会幹事（松下電器勤務）唐津一博士、沖電気技師長塘正夫博士の参加を得て、タッチ板の研究がすすめられ、その後徳島県立美馬商工高校の藤川清氏から空気圧力ゴム管方式のアイデアが示された。なお、都営室内プールにおいては、法大水泳部員を動員して、タッチ板についての実験が数回重ねられ、後述するように、一応の結論を得るようになった。

その外、機械審判委員会では、プールの一般科学施設としてITV（工業用テレビ）利用による着順判定、特殊映画利用による着順判定、水中および室内プールの照明、飛込採点装置電気掲示板等についても概括的な研究が纏り、これらも試作の段階となったため、ここに本委員会は発展的解散して、業務をNSR内のオリンピック準備委員会に引継ぐこととなった。解散に当り御世話になった関係者を6月23日を丸ビル精養軒に招待し、高石会長より多年の労苦にたいし、御礼の挨拶を述べると共に、記念品を贈呈した。

なお36年度の研究費は、オリンピック組織委員会より委託され、37年度は試作費を同委員会よりうけること

となっている。

この間、援助を賜った各位に謝意を表するとともに、本委員会で研究した自動審判器および他の科学施設が東京オリンピック大会において活躍することを期待するものである。

つぎに、研究成果の概要を述べることにする。

研究成果概要

1 競泳時間自動計測装置（デカトロン・タイマー）

本装置は競技の時間測定ならびにタッチ検出方式による着順判定を行なうすべての装置の総称である。

本装置に関しては、既にアジア大会で使用したデカトロンタイマーの結果、ならびにその後の研究の成果を総合して、次の条件で製作するべきであるとの結論を得た。

1. タッチの検出
2. 標準時間信号発生器
3. タイム表示器
4. 自動記録計
5. 総合制御器
6. 電源

この中、1は別項でふれるが、2、3、5、6は従来のデカトロンタイマーをそのまま用いることができる。新に電気回路をトランジスター化して装置を小型、軽量化することは容易であるから必要度に依じて、これを行なえばよいことが結論された。4の自動記録装置は1964年大会には必ず用いるべきものである。1～9コースの記録時間を自動的に紙上に着順の順位に従って記録するものである。

またラップタイムの測定及び記録装置も必要である。これらの新装置を製作することは現在の電子技術水準よりすれば容易であって、要するに使用上の簡易さ、故障の絶無耐久性などをできるだけ、満足することが望ましい。

2. ゴールタッチの自動審判化

■ 音響式指示法

ゴールタッチによる機械的振動を検出するために、特殊水中マイクロフォンと水中ピックアップを用いた。

a.1. 水中マイクロフォン（ハイドロフォン）によるタッチの検出

マイクロフォンとして磁歪振動子とチタン酸バリウムを使用してタッチのときに生じる機械的振動を電気信号として取り出す実験を行なった。両者ともに水のスプラッシュ等による妨害雑音を除去するために適当な電気的フィルターを挿入して用いれば、原理的には着順判定機としての可能性があることが認められた。しかし実用機として完成するにはチタン酸バリウムハイドロフォン方式が適当に判定されるが、実現のためには更に実際に則した実験研究を必要とする。

a.2. 水中ピックアップ方式

ピックアップとしてチタン酸バリウムを振動板に張りつけたものを用いた。タッチにする信号とスプラッシュにする信号とが区別し難い難点があり、これは両信号中に含まれる周波数成分が共通であるためであることが判った。従って強力なタッチの場合は確実に検出することができるが、競技のあらゆる場合 100% 確実に動作するとはいい難い。

b 水中電波方式

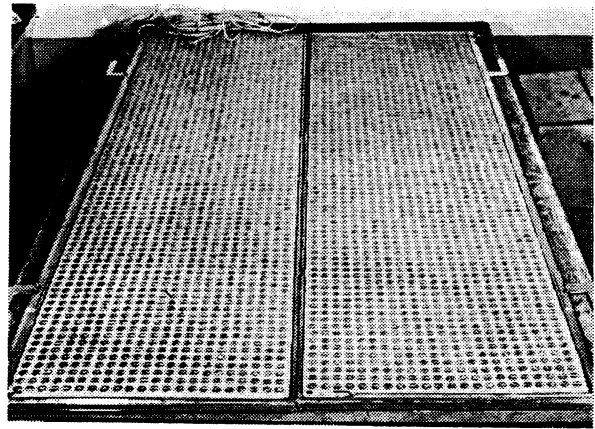
150Mc（波長 2m）の電波を水中アンテナから発射してゴールに装置した受信アンテナの電波の強度が、タッチによって変化する割合を実験した。その結果現在の段階ではタッチの判定は困難であったが、全く決定的に不可能であるということとはできない。しかしこの方式を進める場合は新しいアイデアを導入する必要がある。

c 赤外線、紫外線、可視光線の利用

赤外線は水中の透過が悪いので利用することは難しい。紫外線は透過度がよく、また青緑色の可視光線も、透過度がよいので、タッチの際光線が遮断されることを光電管で検知する方式が実験されたが、空中と水の境界における水面の上下振動、水泡のため確実にタッチを検出することは難しい。しかしながら他の方法が全部不成功に終るならば再検討を加える価値はあると判断した。

d 接触式検出方式（スイッチ方式）

ゴールタッチによって電気的スイッチを閉じる方式はいくつかの方法について実験検討が行なわれた。その中で現在実用化の可能性のあるものは次のものであると考えられる。



d.1. ゴムスイッチ方式

10mm厚さのモルトブレンに開けた小穴に金属端子を多数埋め、この端子が、タッチの際に裏面の電極と接触すると電気回路が閉じて電気信号が送り出されるもので端子の数と配置、両電極間の間隔等について最適条件を決定すれば可成り実用化の見込がある。しかしその耐久性、確実性ならびに競技中の耐破損の問題は、更に解決を要する。プール試験においては弱いタッチに対しても動くし、泳者による水ジェットには殆んど不感であることが確められている。

d.2. 空気圧力ゴム管方式

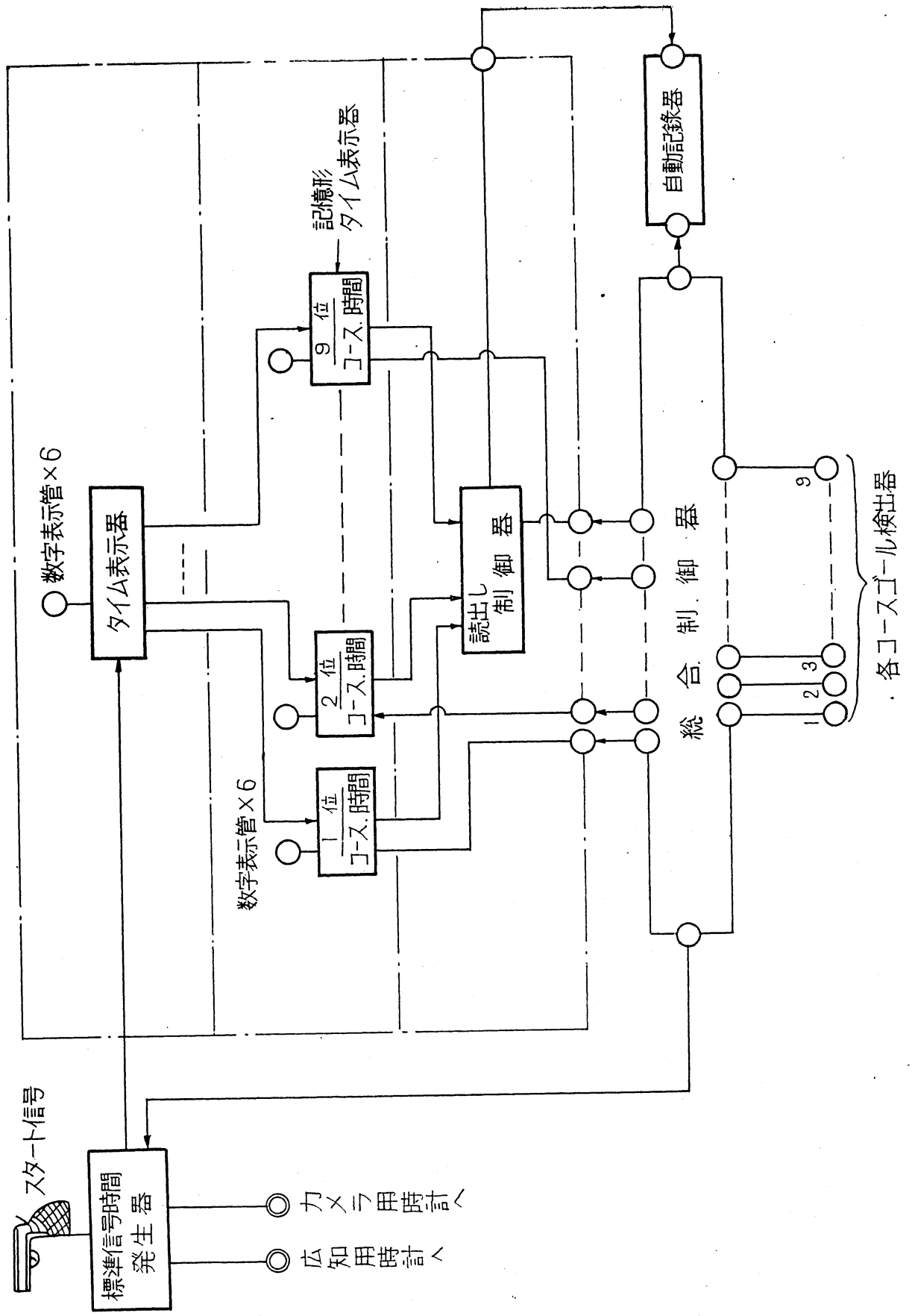
可成り実用化の見込があると考えられるが、試作機は、研究者の自作品であるため実験室においては成功したが、プール試験においては未だ成果をおさめていない。この方式は専門メーカーに依頼して実際のプール試験に耐える試験機を作る必要があると判断した。

3. I.T.V.（工業用テレビジョン）の利用

小型軽量の工業用テレビカメラを用いて実験を行なった。使用条件より防湿を行なわねばならない。本法はゴール直上に数台設置すれば、リモート・コントロールにより画面の大きさ、視界範囲、対象コース等を自由に制御できるという利点がある。これは実際の場合に極めて有効であることが判った。しかし記録として固定するには、V.T.R. 装置は高価複雑であるから、受像の面を写真撮影することが今日現在においては実際的である。V.T.R. はテレビ局に協力依頼が可能ならば使用可能であり、また新技術の開発により、より効果的な使用方法の実現も期待される。

4 写真の利用

ゴール直上に I.T.V. カメラと同様な位置にカメラを設置し種々の角度より撮影を行なってその結果を検討した。使用カメラは、特殊スリットカメラ、及び高速度



映画撮影カメラ、普通映画カメラである。根本的な問題であるスプラッシュによる撮影不能の点は、異なった角度より数台（最低2台）のカメラで撮影すれば避けられることが判った。

タッチの状態はスプラッシュの影響が除ければ充分判定可能であり、着順判定に利用できると思われる。なお、充分な判定を行なう資料用写真を得るには照明について更に研究を重ねる必要がある。判定写真が得られるまでの時間は数分程度であるから、実用上問題はない。プール上にカメラを設置すること、ならびに撮影者が直接カメラを操作する場所が必要であることはプール設計に際して考慮しなければならない。この点についてより便利な方法に I.T.V. と組合わせたリモート・コントロール撮影機を採用するのが最適である。これが今後の一つの研究課題であろう。

5 着順判定照明

現在においてはオリンピック競技においては次の条件が望ましいとの結論を得た。

	普通の場合	カラーテレビを用いる場合
プール全般の照明	500ルクス	1000ルクス
スタート及びゴール照明	1500ルクス	2000ルクス

カラーテレビの照明の場合は今後2カ年間に於けるテレビ撮像管の進歩を考慮に入れた条件である。

水中照明はローマにおけるものの約2倍にすることが望ましい。ダイビングプールにおいては演技の行なわれる重要空間において普通の場合1500ルクス、カラーテレビ用と2000ルクスを必要とする。

6 競技運営の電氣化

α 電氣掲示板

掲示板ディスプレイ方式として可能なものは次の通りであるとの結論を得た。

- (1) シネサイン方式
- (2) エレクトロミネッセンス方式
- (3) 場内テレビ方式

である。(1)は従来の電光ニュース方式により進歩して動きのあるディスプレイが可能である。原画として透明紙に印字したものをうればよいので現在のプリンターに併用可能である。

(2)は従来全く実用化されていないものであるが主としてオリンピック競技期間を対象とする考え方であれば実現の可能性はあり得る。

(3)は現在の技術水準においては容易であるが1台あたりの観客数が数10人と考えられるので設置台数が多くな

る欠点がある。また設置場所についても充分な検討を加える必要があるとの結論を得た。

総括的にいえば、掲示板自体の大きさ、型状設置位置はプール全体の構造、美観照明光の関連において計画を作る必要がある。その方式は、競技運営用電氣計測装置（計算機、記録器）の電氣的特性と密接な関係があるので両者の計画立案は密接な関連の下に行なわなければならないとの結論を得た。

b 採点及び得点の電氣的表現

b.1. 水球用計時装置

本装置はおおよそ次の条件を具えることが望ましいとの結論を得た。時計の発信停止は押ボタンにより行ない、本時計とこれに連動する場内用大時計が必要である。本時計は0.5秒あるいは1秒読みで、競技開始、終了時の信号ホイッスルを自動的に出すものである。

b.2. 飛込用採点器

ローマ大会で使用された装置方式を踏襲するのも一案であるが、更に自動化を進めて難易率の計算、総得点の計算、記録等の電子計算器ならびにその技術の導入をすることが必要であるとの結論を得た。これは技術的に実現容易なことである。

b.3. 競技記録の整理、ならびに保管及び情報伝達方式

電子計算器ならびにテレプリンター方式を適当に組合せるならば全競技の記録の電氣的分類整理保管が容易であり必要に応じ、また如何なる要求にも応じた各種の記録を容易に且つ迅速に取り出すことができる。また同時に競技場外の必要者、例えば大会本部国内外の各新聞社、テレビ、ラジオ局に直ちに記録情報を送り得る。

競技運営の近代化のため、かかる方式に従った情報処理伝達を考慮に入れる必要があるとの結論を得た。

(筆者は本連盟常務理事、施設委員長)

たちがトップ・コンディションの状態にあってオリンピック出場権を得た二月の時点における循環系の健康度を維持してさえもいなかったのである。実際に泳ぐトレーニングをせずに3ヵ月もたつと、このように循環系の効率が下向する結果になり得るといのは、興味あることである。こうした比較的短期間のあいだならば、トレーニングの余効も、もっとずっと大きいのではないかと期待したとしても当然だったであろう。

それまで特別に身体を鍛えたことのない人ならば、これらの水泳選手が8週間のトレーニングの間にみせたような進歩は期待しえないであろう。また、激しいトレーニングという背景のない人ならばあのようにきびしいトレーニングにはおよそ耐えきれないであろう。

こうした循環系統の健康度の増進にもかかわらず、8週間の訓練中はじめの6週間のあいだ、若干の選手は記録上、全然あるいは殆んど進歩がみられなかった。わたしたちはこの事実を次のように解説している。すなわち、激しいトレーニングによって、心臓・血管系統は強くなったが、こうしたトレーニングが多大な努力を必要としたため、一種の神経消耗状態をひきおこしたのである。トレーニングの「漸減期」中、休息時間が増すにつれて、神経系統は心臓・血管系の健康度が大きく後退する以前に生気を取りもどしてきたように思われる。したがってまたこの時期に最高記録を生みだすことが可能なのである。

この「神経消耗」説には客観的証拠がある。ねずみを激しく運動させたあとで殺し、その脳髓のろ過細片を顕微鏡で調べると、休息させておいたねずみの神経細胞にみられるニッスル体が消失してしまっていることが判る。このことは、神経系の細胞内におきる他のさまざまな変化も、強い精神的緊張をくり返しておこる筋肉運動によってひきおこされるものかもしれない、ということの意味するのである。

一般的にみて、トップ・コンディションに達するには、それぞれの人がちがった一般的準備とちがった漸減プログラムを必要とする。そしてこのトップ・コンディションに達したとき、循環系の効率と神経系の回復のコンビネーションが最も望ましい状態になっているのである。

ここで注意しておきたいのは、「心理学的」といってよい様々な要素は以上の考慮の中に含まれていないことである。明らかに感情的要素は肉體運動の際に大きな役割を果しうるものではあるが、過度に使用することから来る神経系の疲労は同一の問題ではない。「ステールネス」と呼ばれるこの状態は、恐らく神経・循環両系統中に現実におこっている肉體的变化が主たる原因となっているものであろう。

このオーストラリア選手団と、それ以前の二つの輝かしい成果をあげたチーム、即ちロンドン、オリンピックのアメリカ・チームとロスアンゼルス・オリンピックの日本チームとを間接的に比較してみることができ。上腕脈波から判断すると、オーストラリアの男子選手たちは、心臓・血管等の効率という点でその両者よりも明らかに優れていた。これには、1960年のオーストラリア・チームが、近代的なインターバル・トレーニングを採用することによって、以前の選手たちよりももっと激しく、もっと長期にわたってトレーニングを行うことができたという事実によること大なるものがあると考えられる。オーストラリア選手があげた成果に関して、天分と技術がどのような役割を果たしたかを評価することはむづかしい。

訓練期間中上腕脈波に関する研究は次のようにして実際に適用された。すなわち、個人の循環系の健康度はいかなる段階においても特に拡張期血流（馳入血流の強度）を観察することによって、あるいは心臓の休止期と作動期の比を計算することによって更によく評価を下すことができるのである。これら二つの要素は健康度が増進するにつれて著しい変化を示した。もう一つの重要な結論は、循環系の効率をあげるという点ではウェイト・トレーニングに多くを期待することはできないということである。

血 圧

われわれの観察によれば、男子選手の上腕の収縮期血圧（最高）の平均は8週間のトレーニング中、116ミリから126ミリに徐々に上昇し、女子選手の場合には平均106ミリから3ミリ程度増加しただけであった。

さいわいなことに、休息時には特別に高い心臓収縮期血圧は発見されなかった。もし血圧が145ミリないし150ミリをこえていたとしたら、過度のトレーニングからきた生理学的ストレスを示唆するものか、さもなければ病理学上の高血圧状態を示唆するものとして医療を必要としたであろうし、また激しいトレーニングからは完全にはなれる必要があったであろう。

心臓収縮期の血圧が上昇することは、恐らく各鼓動の力が強まったことを意味するものであろうし、生理的適合度が増進したと解釈することができよう。

心臓拡張期（最低）血圧については、男子も女子も共に8週間のうちに明瞭な下降をみせた。男子の場合は70ミリから61ミリへ、女子の場合は68ミリから63ミリへと下っている。

正常な最低の拡張期血圧は通例75ないし80ミリとされている。つまり強化訓練前の選手たちに観察されたのと

ほぼ同じなのである。トレーニングが進むにつれて拡張期血圧が下降することは、3ヵ月後になれば心臓・血管系の健康度は普通の人と殆んど同じだ、ということを示すもう一つの証拠であった。

ハード・トレーニングが進むにつれてみられた、休息拡張期血圧の重要かつ明瞭な下降と収縮期血圧の上昇は、激しい肉体的鍛練の際の生理学的適応のよい例である。

30秒間フルに駆け足あしづみをしたのちにみられる拡張期血圧の反応は特に面白い。数年ほど前、アメリカのキューアトン、ソ連のレトウノフはこれまでの通説を破って次のような見解を述べている。すなわち、トレーニングの後で、スポーツマンにみられる正常な反応はまずトレーニング直後に拡張期血圧が適度に下降することであり、ついで漸次休息時のレベルに帰ってゆく、というのである。選手たちの平均拡張期血圧を、標準練習30秒後にとってみると、その平均値が徐々に減っていくことが判った。男子選手の場合には、第1週に64ミリだったのが第6週には50ミリとなり、第7・第8週には46ミリに下がっている。

女子選手についての結果も大体同じであった。

結論として次のことが言えるであろう。練習後の拡張期血圧の下降は、トレーニングに対する生理学的適応を意味するものであり、その血圧下降は恐らく血管の弾力性が増加したこと、および毛細血管が拡張したことによるものであろう。このため血液が筋肉に移動してゆくの

が容易になるのである。第6週から第8週にかけては余り大きな下降はみられなかったが、これの意味することは激烈なトレーニングに対する循環系の適応は大体6週間で完成する。少くとも強化訓練をうけていた経験のある水泳選手の場合そのようなことが言えるということであろう。

然しながら、この事だけで、6週間ないし8週間のトレーニングをすれば水泳選手は十分トップ・コンディションに到達すると結論するのは根拠不十分ということになるだろう。というのは、その他の生理的要素がそこからまってくるからである。トレーニングに要する最適時間という問題に対して、完璧な答えはまだ見出されていないのである。

個々の選手についての血圧の変化をしらべてみると、若干面白い問題が出てきた。のちにローマ・オリンピック400mで優勝したマレー・ローズの場合、練習後の拡張期血圧は徐々に下降線をたどっていった。そして8週間後には20ミリにまで下がっている。あらゆる基準に照らしてみても、かれはとくによくトレーニングに適応していたようである。他方、当時背泳の世界記録保持者ジョン

・モンクソンはその8週間にも何ら拡張期血圧の下降を示さなかった。實際上ほとんどすべての基準からみて、ジョン・モンクソンはトレーニングにうまく適応していなかったし、トレーニング期間を通じて余り芳しくない記録を出していた。

トレーニング中に拡張期血圧が漸減することを見つけたこの発見が實際上どんな役に立つかと言えば、循環系の適応状態を知る尺度がもう一つふえたということである。

体 重

激しいトレーニングの間に体重が減少することは、順応不良と緊張を示すものと一般に考えられている。8週間を通じて、男子選手はかっきり、12ストーン5ポンドの平均体重を保ったが、それに反して女子選手の平均体重は10ストーン4ポンドから10ストーン7ポンドに増加した。

男子の場合には体重が注目すべきほど増したものはいなかったが、2人の女子選手、イルザ・コンラツとルース・イーブラスはコーチにうながされて含水炭素の少ない食事をつづけたため一週間のあいだに8ポンドやせた。しかし、この体重減も長くはつづかなくてその2人の女子選手はまもなく殆んどもとの体重にもどってしまった。

血液ヘモグロビン濃度

激しいトレーニングをうけているスポーツマンに関するこれまでの研究で、血液ヘモグロビンが20%ほども低下することがあり、それと同時に記録も比較的悪くなるということが判っている。

身体中のヘモグロビン生成に必要な鉄分とその他の栄養素が不足している場合を別としても、慢性的な生理的緊張はヘモグロビン濃度を低下させることがあるのである。タウンズビルにおいて強化訓練に参加した選手たちは男子も女子も、ヘモグロビン濃度については驚くほど変化がなかった。8週間のあいだに、男子平均は血液100CC中15.5グラムから15.6グラムの間を上下した。(ニュー・サウスウェルズの男子平均値は15.7グラム・パーセントといわれている)

8週間の女子選手平均は、血液100cc中14.0グラムから14.2グラムの間を上下しただけである。(ニュー・サウスウェルズの女子平均値は13.9グラム・パーセントと伝えられている)

選手たちの食事はあらゆる点で全く完璧であった。変化にとんだ自然の食物の他、ビタミン・ミネラル類も補給された。

強化訓練中、28人の選手はいついかなる時でも1人と

たてヘモグロビン濃度に関して生理学的異常が観察されしものはなかった。ただし、他の基準からみて緊張状態にあるとみられたものもあったが。

個性

R・キャテルの「個性要素調査表」16条——374の質問を含む一が用いられた。一般的知性、感情的安定性、一般的神経症などの16の標準的個性特徴について、選手を採点した。こうした特徴は、一般的に心理学上の研究結果としてみとめられているものである。

28人の選手のグループ全体の平均スコアは一般人の平均値と殆んど違いをみせていない。しかしながら、グループ全体として見た場合、感情的成熟などよりは欲求度、興奮性、性急さなどを示す要素について高い点数をとる傾向があった。

19才をこえていた8人の男子選手の調査結果をみると、かれらは一つのグループをなしており、決断の不足がある一方「独立自足性」については高い得点をあげ、また感情や行儀作法について強い自制心を有していた。これら年かきの男子の得点が低かったのは神経の緊張を示す要素についてであり、好選手に当然予想されることであつた。

選手たちの個性についての信頼すべきデータは、コーチが自分の生徒を理解するのを助けるという点で大変役に立つ。というのは、これらのデータこそ、いかにその選手たちをとりあつたらよいかをさし示しているからである。他人の人格を主観的に整理しておくことは、せいぜい大まかなガイドにしかなっていないことがしばしばであり、また事実にはその人自身の人格構造が判断に影響を与えるため、誤謬に導くことがありうるのである。

恐らく、将来には運動選手のコーチのために、信頼するにたる心理学的検査とエキスパートによるその解明とが欠くことのできないものとなるであろう。

心電図 (ECG)

心電図とは、心臓の搏動につれておこる非常に小さな電気的变化をグラフの形に記録したものである。

ECGにおける異常なT波は、記録の低下と主観的疲労感とに関連があることが、この論文の製作者によって立証されている。オーストラリア水泳選手についてのこの研究においても、またその他のスポーツ選手についての調査でも、極めて異常なT波が発見されており、心臓専門医の話では普通の、スポーツマンでない人の場合にこうした記録が見つかれば、激しい運動を完全にやめる必要があるほどの重大なる心臓状態だと診断せざるを得

ない、ということであつた。こうした忠告をしてくれた専門医の大部分は、前述の異常なT波をみて非常に驚いていた。

タウンズビルの選手たちの場合、複雑な波形のうち最も大きい波、いわゆるR波のサイズは、8週間のうちに男子選手の場合は24%、女子の場合は31%増大している。心臓が激しい肉体活動になれば、また一つ一つの心臓の収縮力が強まるにつれて、R波の高さは増大する、という結論が導きだせるかも知れない。

観察されたT波の変化に再び言及すれば、タウンズビルのオーストラリア選手たちに顕著なT波のひずみがみられた時には、きまってトレーニング中のタイムも、練習試合の記録も悪く、また選手自身も気分がすぐれないことを訴えていた、といってよいであろう。大部分の選手はT波の若干の低下、また若干平坦化した28人の選手8人には、その激しいトレーニング中にT波の相当なひずみといってよいものがみられた。またトレーニング中、余り大した進歩を示さなかった5、6人の選手は比較的正常な心電図を記録した。これから出てくる結論は、ECGが健康度のほんの一部しか測定しないものであること、これによって採り得ない人体の生理学上の「弱い環」が他に存在するという、こと、であろう。

大きなヒズミのあるT波を示した選手の中には、ロバート・ウィンドル、ジョン・モンクトン、アルヴァ・コルクフーンがいる。この3人の選手は、タウンズビルでのトレーニング中、記録の面でもかれら自身の気分に関する主観的報告という面でも、マネージャーやコーチをひどく心配させた。

15才になるウィンドルは1月の選衡予選で440 Yでは4:33.、1650 Yでは18:7.5を記録した。かれのT波記録が大きくひずんだとき、タウンズビルでの練習記録は4:51.5、4:47.5、4:51.8であつた。しかし、風邪のため5日間強制的に休ませられたあとでは、ウィンドルは公式記録で4:36.、18:28.をだした。この段階では、かれの心電図は再び正常にかえていた。この2週間あとでオリンピックに参加して泳いだとしたら（オーストリアを代表して出場したのはローズとコンラズであつた）、ウィンドルは恐らく自己の最高記録に近い成績をあげたことであろうと思われる。

ジョン・モンクトンの場合も似ていた。ひどくゆがんだT波がでるのに平行して110 Y背泳ぎの練習記録は、彼の最高記録を5秒も下まわっていた。かれは気分が悪く、疲労感や脱力感を訴えた。

第8週が終る前の6日間を彼は楽に泳いですごしたので、記録も、主観的健康感も、T波の状態も相当によくなった。ローマでも、もし背泳ぎ決勝でターンの判断を

ひどく誤らなかったならば、モンクトンが自己のもつ世界記録に1秒ないし2秒のところにせまったことは確実であろう。

「激しいトレーニングに耐えられない」という歴史の持主のスプリンター、アルヴァ・コルクフーンは、すべての参加選手のうちで最も変化の大きいT波を有していた。かの女のT波は、タウンズビルにおける最初の週からあらゆる点で二相状態にあり、また逆様であった（これが慢性だったとしたら非常に危険な状態なのである）。アルヴァ・コルクフーンがオリンピック予選を通過した2月の記録は110y64秒1であったが、T波が非常に変化していた時の8月の公式記録は66秒2と66秒1であった。トレーニング中には殆んどいつも、かの女はさまざまな病気にかかっていた副鼻腔炎、「肩こり」背中に来た非常に痛くて動かすことがつらい（繊維症）など。来る週も来る週も「身体中が疲れた感じだ」と訴えていた。

ローマでのレースの前2、3週間軽い準備ですごした彼女は——この時期にチームが全部長時間の練習をすることがむつかしかった——リレーで100m 62秒5、62秒8を記録した。この記録はかの女自身のそれまでの最高記録に1/2秒及ばないだけであった。

所 見

トレーニングできわめて強く緊張している水泳選手の心電図について一連の観察をおこなったものとして、この研究は恐らく最初のものである。

専門家の医学的見解が一般に一致している点は、その多くの分析結果が「明瞭に異常なものであり、心筋炎を強く示唆している」ことであった。相談をうけた心臓学者の多くは、もし自分がこのような分析結果を得たとしたら水泳選手にしる他のどんな運動選手にしる、トレーニングをすることを絶対に許さないだろう、と言っていた。

以前に行なった水泳選手と競輪選手についての調査にもとづいて、私たちはつぎのような説を提示してきた。すなわち、前述のような心電図の変化は一般的な生化学上の不調和状態——激しいトレーニングがひきおこす極端な緊張に対して肉体が十分に順応しえないことから来る——に由来するものなのである。タウンズビルにおけるオーストリア水泳選手を対象としての実験の結果はこの所見の正しかったことを確認した。確実なことは、心臓やその他一般の器管に回復不能な害が及んでいる証拠が何も無いようだということである。

この現在の研究の主要な特徴としては、ラフな調査を行ったにも拘らず選手たちがみな休息をするにつれて早

急に回復していった、という事実がある。

最高記録をだすために選手はいかに準備をなすべきかについては、現在の研究状態では、われわれのもっている知識を確信をもって応用することは困難である。

コーチと医療担当アドバイザーの当面している重要課題は、どの程度まで個々の選手のシリをひっぱたいて激しいトレーニングにうちこませるかという点である。

タウンズビル研究における心電図の悪化した水泳選手たちは、できる限りのトレーニングを続けた、しかし結果はあいかわらずパッとしない記録がつずき、また主観的にも気分の重い状態がつづいた。その後軽いトレーニングをすると、みんなうまく泳いだ。手っとり早く言えば、問題はこうなる。——これらの選手たちは「くつろいで」ごく軽くトレーニングを続けて心電図が多少とも正常になるまでまち、そのあとでより激しいトレーニングを続けた方が良かったのではないだろうか。

ここで指摘しておかねばならないことは、わたしたちが経験したところによると、T波に変化をもち気分のすぐれない選手は、練習に身をうちこむことを拒否したり、ほんものかにせものか判らぬような些細な病状を訴えて練習を休んだりして、自衛手段を講じていることがしばしば見出されるのである。

経験をつんだ多くの水泳選手たちはビルトイン（作りつけ）の安全装置をもっていて、これによって何時トレーニングを楽にしたらいかを知らず、過度のトレーニングによる緊張とその結果として生じる苦痛から身を守っているのではないかと私たちは考えている。

この研究におけるオリンピック級選手は「粒々辛苦」をへ、また過去のきびしいトレーニングを耐えてきた、高度に選ばれたもののグループであることは間違いない。かれらは、挫折することなしに非常に激しいトレーニングを行う事の出来る能力を有することを立証済みの水泳選手なのである。成功を夢みる普通の人びとの場合には、T波の変化が出たならばもっと注意を払わなければならないであろう。

私たちは一つのシレンマに直面している。今日国際標準に到達するためには、水泳選手は1日3マイル（5,000m）ないし8マイル（13,000m）の練習を出来る能力がなければならない。この酷しいトレーニングは生理的順応を促進させるが、他方苦痛や挫折をも起し得るものである。

挫折に到る過程（心電図変化に示される）やその他の生理的变化は、どの位まで進行するまゝにしておくべきものであろうか、どの位まで進行したらトレーニングをゆるめるべきなのであろうか。現在のところ、大きな確信をもってこの間に答えるほど、十分な知識を私たちは

持ちあわせていない。トレーニングは依然として部分的には芸術であり、部分的には科学である。研究活動の目的は、個々の選手を鍛えるという問題に適用しうる科

学の領域を広めることであり、これによってそれらの選手が最高のできばえをあげるよう手助けすることである。

トレーニングの成果の一指標としての 心搏数の測定

論文作製者

フォーブス・カーライル

1956年12月の「世界体育会議」の席上、私は運動後の心搏数を用いて選手の最高記録を予測したり、また記録をとるための試泳を余り頻繁にフルにやらずに選手の進歩を評価したりすることに関連した、一つの子備報告を提出した。心搏数の測定は指を頸動脈か、あるいは直接心臓の上にあてて行う。最近、私たちはさらにこれに関するデータを集めることができたが、これによってそうしたアプローチの有用性を一般的に裏付けられた一方、若干修正を加える必要も同時にでてきている。

その基本的な考え方は次のようなものである。相当程度持続された肉体的活動からの回復期における心搏(数)の反応というものは、その活動によってひき起こされた生理的コストを反映するものなのである。肉体にとってそのコストが大きければ大きいほど、心搏(数)は大となり、その正常状態への復帰は遅れる。この心搏(数)の反応は、練習終了後、一定の間隔をおいて、何回かにわけて心搏数を数えることにより測定されうるものである。ある長い時間を通して膊動を数えればこの反応を最も正確に推測することができるであろうが、選手やコーチのそれに要する時間ということも實際上考慮せねばならない。泳ぎ終って1分後というのが膊動数を計るために選手を待たせ得る限度であろう。

1956年にタウンズビルで行なったオリンピック水泳選手団の選手たちについての一連の実験の目的は、一定距離についての記録と、ゴールに入ってから4分間の膊動数変化の様態との間には、グラフにすると密接な関係があることが判る、という事実を確認するにあった。

当時私は次のように報告することが可能であった。トレーニングの一定の段階では、大抵の選手の場合、タイムと10秒ずつ二度はかった膊動数の合計——最初はゴール・インの直後、あとはゴール・インの後1分をへてはかった——との間には、殆んど直線的な関係があることが判ったのである。

最近になって、私たちは10秒間の測定を3度——第1回はゴール・イン直後、第2回は10秒後、第3回は1分後行う方法を用いたこの3度はかった膊動数の合計を、その時のタイムと組みあわせてグラフにしたのである。一定距離(通例110 y, 220 y)のタイムを縦軸にとり、3度はかった鼓動数の合計(通例50から95の間にある)を横軸とした。

はっきり判ることは、さまざまな距離に関して記録時間と3度計った鼓動数の合計値との間に完全な相関関係があり、それらの点をつなげば直線となるということであった。しかし、このような完全な相関関係を乱す数多くの要素もあるのである。ともかく、比較的短期間(1, 2週間)のトレーニングの間に私たちが知ったことは、大部分の選手からえられたデータをグラフにした場合、そのグラフに散在する点には近似線をひくことができ、またそれらの点が驚くほどその線から近い位置に並んでいることである。膊動の測定を2度でなく3度にするると、その相関関係はもっとはっきりした。これは後者の場合がより正確な手続きだということを示すものである。こうした理由から、3度測定方式が標準として採用されている。しかし、膊動速度数を計るには、依然としてゴール・インの後1分間しか必要としないのである。

実際上の考慮

心臓の膊動数を計る際の誤謬はあたりまえのことであるし、特に激しい運動ののちなどに毎分200もの鼓動数がみられるときは特にそうである。こうした理由から、コーチが選手が初期の段階で膊動数を数える練習を試み、また経験にとんだ人から数えた結果をチェックしてもらうことが大切であろう。うっかりものが、膊動を数えるのに時々ひどい間違いをすることがあるのを私たちはよく知っている。

膊動（数）の測定

水泳選手ならば12才の若ものでも、鼓動の速さを計ることの意味を理解し得る、ということを私たちは心得ている。そのうえ、練習と二重測定（コーチと選手とが同時に鼓動を数える）によってあらかじめチェックしておくことによって、若い選手でも十分信頼するにたる膊動（数）の測定を行えるようになる。そうってから、練習したあとで、自分の記録と、10秒間の膊動数を3度数えて足した数値とをコーチのノートにかきこむ——こうしてグラフが作られてゆくのである。プールサイドにグラフノートをおき、膊動の数を計ったすぐ後でその試泳の点をかき加える方が簡単で手取り早いことが多い。

グラフに近似線をひくことができるほどに十分広く点が散在するような結果をうるためには、試泳の内容に大きな変化をもたせる（全速力泳の80ないし95%）ことが必要である。

2週間前後の期間の中では、水泳の一般的条件は普通にはあまり大きく変化しないから、この期間の試泳から得られた点をグラフ上にかきこむことによって最初の基準線を設定することができる。この線は、それによって区分された二つの面のいずれにも同じ数の点が存在するようにして引かれるものである。

このグラフを比較の基礎として、トレーニングの進歩を測定、評価することができるし、またトレーニングの一定段階である泳者の可能な最高記録はどの位かを推定することができるのである。

グラフの使用法

一泳ぎしたあとで、その試泳の点が「基準線の上」はるかな所にかこまれたとすれば、その意味することはその試泳の記録が比較的良好で、また、心臓の膊動数の合計（生理的コスト）も比較的少いということである。とすれば、その泳ぎっぷりは明らかによいものだ、ということになるし、その選手は進歩しつつあり「調子も上

々」という風に考えられるのが通例である。基準線のずっと下の方に点が記されるような泳ぎっぷりは、調子の悪いことを示すものと解釈されるし、その場合には理由を見付けて適当な処置がとられるべきものである。

トレーニングがはずれ、選手の耐久力もふえ調子も整ってくるにつれて、すべての点が原線の上に記されるようになる。これは一般的に条件がよくなったことを示すものであると同時に、全速力泳をした場合の可能なタイムも向上するであろうことを示すものである。

トレーニングが進むにつれて水泳状態が変化する様子をはっきりつかむために、書きこむ点の形を2、3週間おきにかえる（円、十字などを使って）のも一つの方法であろう。

全速力泳の際のタイムについての予測 3回数えた膊動数の合計値の最大値を表わす垂直線の延長とが交わる点を求めれば、かなり正確に全速力泳の際の記録を予測することができる。この値は、自分自身の過去の経験から選手がよく知っている場合が多いし、またその値がはっきりしていないときには、85と仮に定めても十分実際の値に近いのが通例であり、これによって全速力泳の記録を相当程度正確に予測することができる。

脈膊溝 (Pulse Trough)

脈膊溝という語は、運動後の回復期に、膊動数がゆるくなり、のちにまた上ることを言い表わすために用いられる言葉である。トレーニングの調子がよくなるにつれて、中程度の試泳（全速の約80%）の時に3度計った膊動数が20、13、16というような数値をとるような、そういう脈膊溝が起ることも珍しくない。

脈膊溝が生じる生理学的原因は確かではないが、私たちの観察が示唆する所では、循環系の健康度がよいことの指標であるとみなし得るものであって、その試泳に対する生理的コストが低い時に起る、ということである。

水泳選手のためのビタミン補強

論文作製者 フォーブス・カーライル

序 論

水泳選手の食事を補うものとしてビタミンを添加するのは最近のコーチならば普通だれもがやっていることで

ある。ただその量は正常な健康状態の人に必要とされる最小量よりも遙かに多いのが通例である。

よく言われることであるが、大都市の下水道は世界中で最良のビタミンの豊庫である。というのも何百万個というビタミンの錠剤が大抵はそっくりそのまま体内を通り、やがて何の役にもたないまま排泄されるからである。

主として無駄な出費だという見地から、水泳コーチ一般、とりわけ私などは医師や学者たちから良くて「金銭の使い道を知らない」とか、悪くすると「大ボラ吹きだ」という酷評をうけている。

最近、ある大学の薬学部の教授が、水泳選手の食事にビタミンを補強せよという私の説を批判した。スポーツ選手の特にその点に関する必要性に言及してはなかったのであるが、「メディカル・ジャーナル・オブ・オーストラリア」（1961年9月23月号）上の巻頭論文はビタミンAとDを大量に服用することの危険性を正しく指摘していたし、また従ってビタミン補強は避けるべきだ、という意味のことを述べていた。然し皮肉なことにはその一月以前（1961年8月19日）に、同じ雑誌が秀れて科学的な論文をかかげ、男性・女性の普通人からなるある大集団において、通常の食事にビタミンA・Dを適度に補強した場合には冠状動脈の疾患に罹る率が遙かに低い（通常の食事だけを与えた他の集団では15.8パーセントであったのに比べて5.8パーセント）ということを立てしているのである。

純粋に学問的な研究論文の中では、通常の食事をとっている普通人は一般的なビタミン補強によって益されることはない、という結論を下す研究も数多くある。他方、この否定的見解を反論すべく、肉体内の変化がつきとめ難いという事実を立て、各種ビタミンによる食事の補強が、とくに激しい筋肉運動をする場合などには有益であるとする見解もまた沢山ある。明白なことは、「証拠」としてだされている資料の中には実験管理不十分のものもあり、必ずしも強力な見解提示の効果をもってはいないし、またその点からみて額面通りに受けとることはできない。

このような否定的結果がえられた理由は、恐らく次のような事であろう。つまり調査の対象となる人びとが普通の肉体的運動しかせずしかもすでにビタミンを補給する必要のないほど十分な食事をとっていた、という理由によるのであろう。時によると、実験が粗雑だったり、観察が不十分だったりしたために否定的な結果がでることもある。また実験管理が行きとどいていない場合には否定的結論は否定的所見以上の意味を現わしている。

激しいトレーニングを受けている現役スポーツ選手に

については、これまで余り多くの研究がなされてきたわけではないが、しかしそうした研究の場合には、大抵ビタミン補給の原則を支持する結論がでてい

この研究論文の目的は次の点にある。すなわち、激しいトレーニングをうけて緊張している選手の身体が、いろいろなビタミン類を食事に付加したのちに記録を向上させることができるということのよい証拠となっている若干の科学的な研究論文に世人の注意をひきたい、これがその目的なのである。

私たちがここで問題にしているのは、食物中の付随的な物質であるビタミン類であって薬品ではない。従って濃縮されたビタミンを摂取することについて何ら道徳的見地から反対が唱えられる理由はないし、それはレースの前にスプーン一杯のブドウ糖をのむのと全く同じことである。当面の問題は「ビタミンを補給することは運動選手の記録向上に役立つか」ということである。

理論的に言えば、激しいトレーニングにつきものの肉体的な活動を実行しつつあるスポーツ選手は通常の人より多くのビタミンを必要とする、と考えることは論理的であろう。何故なら、ビタミンはいろいろな化学的な反応、新陳代謝における酵素作用の複雑な系統、酸素の利用、エネルギーの放出などに重要な役割を果すものであることが知られているからである。

ビタミンAとD

適当な量の酪農産品と黄色味の野菜類を含む食事をしている人ならば、これら脂肪にとけるビタミン類を十分に摂取することはむなつかしくないし、補給したら記録が向上したという証拠は殆んどない。上述のように、極端に多量のビタミンA・Dをとることは害になることもある。しかしながら、肉体に悪影響をおよぼすまでには、実に多量のA・D両ビタミンが摂取されなければならない——少くとも普通病氣治療に用いる量の10倍を、しかも長期にわたってとらなくてはいけないのである。

ビタミン類中、補給したため記録が向上したという証拠があると思われるのは、ビタミンB複合体、ビタミンC、ビタミンEである。

ビタミンB複合体

この複合体中には12の栄養となる要素が存在していることが知られているが、そのうち6つだけが欠乏症をひきおこすものと信じられている。最も一般的に食事の中に欠乏しているのはシアミン（B₁）とリボフラビン（B₂）であろう。

通常、ビタミンB複合体のメンバーのいくつかが一語

に服用されているのはそれらの重複欠乏症が起り易いという考えに基づいている。

ビックネルとプレスコットの意見では、激しい肉体的活動に従事した場合、人のビタミン必要量は15倍にも増加する——つまり座業に従事する人の1日あたりの必要量は1.5ミリグラムとされているのが、激しい肉体的活動をする場合には約22.5ミリグラムに増加する。バーンの計算では、こうした量のビタミンB₁が吸収されるために次のようなB複合体を豊富にもっている食物が消費される必要がある——3ポンドのパン、2ポンドの市販の麦芽、 $\frac{1}{4}$ ポンドの乾燥酵母、15ポンドの赤身の肉など。明らかにこれは、一番腹をすかした水泳選手の胃袋でさえこなしかねる量である。

バーンが指摘しているように、もしB₁必要量が激しい筋肉活動に際してそれほどまでに増大するならば、他のB複合体中のメンバーであるリボフラビンやニコチン酸の必要量も同様なペースで増大するであろうことは十分有り得ることである。バーンが自分の実験として報告している所では、B複合体を注射された鼠はそうでない鼠よりも踏み車の上を走り始めてから疲労しきるまでに長い時間がかかったし、またガウネルやマコーミックがそれぞれ競輪選手と水泳選手とについて行った実験の結論では、B₁を食事に補強することによって記録は向上した。人間に関する実験では、時々心理的効果を忘れていているという批判がでるものであるが、鼠が記録を向上させたのはビタミンB₁を信じていたがためだとは、よもや言えまいと思う。

ドロシュクとキューアトンは最近の論文で次のように述べている。「重労働はより多くのカロリーの摂取を要求するとともに、それに比例して多量のビタミンをも必要とする。かれらは2人のロシア人研究者、ラウシュナーとヤカブレフの報告を引用して、ビタミンを補強したにもかかわらず建築現場の激しい仕事に従事する人びとの中には欠乏症状を示したものがあつたと述べている。トレーニングをうけている選手には、アメリカにおける1日あたりのビタミン摂取推奨量の6倍程度まで与えるべきだというのがかれらの結論であつた。

ビタミンC (アスコルビク酸)

理論的見地からすれば、壊血病を予防するため必要不可欠とみなされるビタミンCの最少摂取量(アスコルビク酸25ミリグラム)以上を誰もが毎日とることは、十分根拠のあることだと思われる。

副腎の皮質にはアスコルビク酸の高度の集中がみられる。副腎皮質が、筋肉活動を含む多くの緊張に対する肉体的反応と関係あるという事実は、セリエが初めて世

人の注意を喚起したものであつた。ついでセリエは、緊張状態への反応には副腎皮質内のアスコルビク酸の減少が付随して起ることを明らかにした。

デュガルとテリアンは、鼠に多量のビタミンCを摂取させると、生存率という尺度で計った場合に寒さのストレスから身を守る力が増すことおよび副腎の病的肥大を防ぐことができることを発見した。

バックスとトーンパスは、ビタミンCをあらかじめ与えておいた鼠がいろいろなストレスにさらされた場合に、セリエの驚愕反応の多くのきざしが減少するという事実を明らかにした。

ハリスが明らかにしたところによると、普通の伝染性疾患にかかった場合、人の尿中のアスコルビク酸は減少するし、またパントウエルの発表した資料では、酸素欠乏状態(トレーニングの際にはつねにおこる状態)では体内のビタミンC消費量が増加する。ピラニは1952年、以上の事実を要約して次のように述べている。「一般に一致している見解では、組織がアスコルビク酸を必要とする度合は体内新陳代謝が増加している状態のときには増加するものであり、また十分強く、かつ持続されたストレスは組織内のアスコルビク酸の蓄積を減少させるものであつて、特に通常副腎内でのアスコルビク酸の減少度は激しいのである。」

普通の学校給食をうけている水泳選手が激しいトレーニングを行えば、その生徒のビタミンC貯蔵量は簡単に減少するかも知れないという仮説には十分の根拠があるように思われたので、筆者は一群の選手たち——このうちの2人は後にオリンピック選手となるジョン・ヘンリックスとデビッド・ホーキンス——について1951年に一連の実験を行い、そして次のような結論をえた。補強以前には、かれらの食事には並以上のビタミンCが含有されているように思われたのに、尿の検査の結果アスコルビク酸貯蔵量はごく低くて壊血病患者のそれにも近いほどであつた。

ついで、選手たちは大量のアスコルビク酸を与えられた。組織が飽和状態に達したあとで尿中から検出されたアスコルビク酸の量から判断すると、トレーニングが特別激しくない時でさえ、体内では1日平均110ミリグラムが使われるようであつた。この量は、イギリス医学研究協会および全米医学研究協会が推奨する一日あたりの摂取量30ないし75ミリグラムをはるかに上まわっている。いうまでもなくここで大事な点は、推奨摂取量は通常の人のためのものであり、1日7マイル(約10,000m)も泳ぐ水泳選手たちのためのものではない、ということになる。

アスコルビク酸は比較的安く毒性がない。ベックマ

ンの報告するところでは、10グラム（推奨量の200倍以上）という巨大な量を摂取しても何ら害はみられなかった。組織が飽和状態になると、余分の量は体外に排出されるのである。

キューアトンがポーランドのナミスロフスキーの所見として伝えるところでは、激烈な肉体活動はビタミンC欠乏状態を作りだすし、またスキー・キャンプでは一日200ミリグラムから250ミリグラムをとるよう推奨している

キューアトンの報告では、ビタミンCの補給はソビエトの全運動選手、なかんずく長距離ランナーによってシーズンを通じて行われている。

オーストラリアの第一級水泳選手の大部分は、強化訓練中、一日100ないし300ミリグラムのビタミンCを補強している。

ビタミンE

このビタミンは一連の関係ある物質、アルファ・トコフェロール、ベータ・トコフェロール、ガンマ・トコフェロール、デルタ・トコフェロールからなり、主として、植物組織内に見られ、就中小麦胚芽に多量に含まれている。このうち、アルファ・トコフェロールがとびぬけて生物学的に重要な活動をすることが知られている。

自然に発生するD=アルファ・トコフェロールは合成された同一のビタミンよりも36パーセント生学的力が大きい。しかし値段の点では合成品の方が安い。

1955年にビタミンEに関する国際会議がベニスで開かれた時までに、すくなくとも4,000点の出版物がこのビタミンに関して刊行されている。1961年までには、恐らく10,000点以上のビタミンEに関する研究論文が発行されていたであろう。

ビタミンEの効果に関しては、心臓・循環系統の疾患、皮膚病、筋肉発育異常などを含む様々なコンディションの場合について、大きな論争が医薬界におこっている。最近の議論では、否定的結果が出るのは、余り効果のでないような量しか用いられないからだということであった。現在広く一致している見解では少くとも一日400ないし600ミリグラムが多くの病気を治療する場合に必要である。もっと広くアルファ・トコフェロールを用いるべきだ、と強く主張している。エバン・シュートというカナダの医師は「一日300ないし400ミリグラムでは芳しい効果がなかったような患者でも、600ないし2,400ミリグラムでは目に見えて効果があがった。もしもアルファ・トコフェロールが循環系組織に入ってゆくの妨げるダムがあるならば、そのダムから溢れでるまでトコフェロールのレベルを上げることを提案する。アルファ・トコ

フェロールの摂取量を半分にすれば、効果は半分とはならない……この点を特に強調したい。もしビタミンEを使うなら、十分使いましょう。」と述べている。

これまでに発見された最初のビタミンEの機能は、隔離された鼠に反不妊症の効果があったことである。ビタミンEを名付けて「性ビタミン」というのはここからでているのであるが、これは必ずしも正確な呼称ではない。これまでのところ、非常に多量のアルファ・トコフェロールを人間が摂取しても、異常な性的機能を作り出せる科学的証拠はでていない。實際上、ビタミンEは新陳代謝一般に関する機能を有しているが、その機能もこれまでのところ完全には解明されていない。しかしこのビタミンは筋肉の生理に特別な影響力をもっているようである。

「ビタミンE」の巻(631ページにのぼる1955年大会の議事録)では、要約として次のように述べられている。「ビタミンEの重要な効果は、生体に緊張を加えるような周囲の事情が重なりあってできる環境上のストレス要因あるいはそれ以外のストレス要因によってひきおこされるストレス状態と戦うことにある。ストレスないし緊張は生体のトコフェロール必要量を増大させるものであろう。」

これは、激しいトレーニングにはげむスポーツ選手の食事にビタミンEを補強することの合理性を指摘するものであろう。

暗示の心理的効果が多いことから、記録を向上させるための手続きあるいは食物についての実験のなかで最も説得力のあるのは十分照査された実験である。照査の一つの良い方法は、被試験者の半数には実際にビタミンを与え、他の半数には判らないように気休め薬を与えるのである。

照査をさらに向上させようする方法としては「二重めかくし」実験法がある。この方法では被試験者と試験者の相手とも、すべての結果が集約され分析されるまで何が摂取されたのか知らないのである。動物、とくに人間の生理状態とよく似た生理をみせるモレモットや鼠についての実験も、非常に有益な証拠を提供しうるものである。

運動選手の記録がアルファ・トコフェロールの補強によって向上したことを指し示す、十分信頼してよい実験結果がこれまで多くでている。これらの証拠の多くは、キューアトン教授によって提出されているもので、同教授は麦芽、麦芽油、誘導アルファ・トコフェロールの使用を唱導している。

1956年メルボルンで開かれたオーストラリア・スポーツ医学会会議に提出した論文の中で、キューアトンは次のように回想している。スポーツ選手にビタミンEを補強

する最初の実験は1945年イリノイで行われ、その時に出た結論では心電図のT波の高さが増加するということが判り、また Total Body Reaction Jumps のスピードも増加することが判った。のちに行われたより総合的な実験では、トレッドミルで走る記録（心理的「意志力」の影響を受け易い）が向上した他、その他の客観的進歩も補強後にみとめられている。循環系の健康度を示す上腕脈搏波もアルファ・トコフェロールのためとみられる好ましい変化がみうけられた。

ついで1955年12月号のリサーチ・クォータリにかなり信頼しうる論文が出版された。これは1組8人からなる3組の男子にトレッドミル走で記録の競争を行わせたもの。6週間のあいだに被実験グループは、全速力走1回の時間が3分44秒から5分14秒に向上したのに反し、照査グループ——年令的には有利だったが毒にも薬にもならぬラードを与えられた——では同じ量の練習の結果3分34秒から4分06秒に向上したばかりであった。この2組の向上度の差は統計的にみて意味の深いことである。かれらは、自分たちが「ビタミン」をもらっているものと考えていたばかりで、実際にそれが何であるかを知らなかった。

1955年、米国の南加大学のアーショフ教授が行った実験では、モルモットを完全に泳ぎつかれて水の入った樽の中に沈んでしまうまでの時間を記録したものであった。麦芽油を食わせたモルモットは他の点では変わらないがただ麦芽油をとらせていないモルモットを完全にぬいて、より長い時間泳ぎつづけた。のちの実験では次のようなことが判っている。麦芽油から作った濃縮された結晶様化合物（恐らく大部分はアルファ・トコフェロールを活動的な要素としてもっている）をたべさせたモルモットのグループは平均70.4分泳いだのに対して、麦芽油だけをくわせたもの57.7分、綿実油のもの36.2分、基本的な照査基準食だけを与えたもの40.3分であった。あとの二つのグループの食物は普通のアルファ・トコフェロールの量しか含有していないものであった。麦芽油誘導物と麦芽油によって生じた相違は統計的に大きな有意差を示した。

現在インディアナ大学にいるアメリカの水泳コーチ、ジェームス・カウンスルマンは1956年に、コートランド・ステート・ティチャーズ・カレッジでビタミンEの実験を行った。トラック・チームの半分に補強した結果は、アルファ・トコフェロールの有効なことを改めて確

認するのに役立った。バーナウアーはイリノイ大学のランナーについて同様な結果をえており、また補強をうけた選手の上腕脈搏波が補強をうけなかった選手よりも長い変化を示すことをも発見した。面白いことには1956年のアメリカのオリンピック・チームに加った2人の傑出した男子水泳選手、ジョージ・グリーンとビル・ヨーリック（どちらもオリンピック記録の保持者）だけが男子チームの中で麦芽油を組織的に用いたメンバーであり、かれらはそれを1年間つづけていたという事実である。

キューアトンは、1956年度のオリンピックにそなえてのトレーニングに際して、オーストラリア水泳チームが広くビタミンを用いたことは「オーストラリアが勝ちえた大成功の原因の一部である。」と述べている。たしかにオーストラリア・チームの全選手は多量の——1日1,500 ミリグラムに及ぶ——ビタミンEを摂取していたのである。

このような、アルファ・トコフェロールを使用することが有効であることを示す客観的証拠——上腕脈搏波、心電図、その他の生理学的尺度で照らしあわせた時の進歩と実際の記録の向上は否定しがたいものである。

心臓の機能の客観的向上は、ビタミンEがトレーニングと並行して摂取されたときに示された。この事実は、心臓疾患をアルファ・トコフェロールで治療した結果に関する報告が非常にまちまちである、という問題をとく鍵になるかも知れない。アルファ・トコフェロールは生体が活動しているときにだけ、機能を促進させる有益な役割を果すのであろう。

最近主張されているところによると、ビタミンEを多量に摂取した場合、皮下脂肪の増加をひきおこすらしいというのであるが、これが報告されたのは実験対象が比較的不活発なケースについてであった。毒性については、面白いのがE・V・シュートの1955年の報告で、これによると彼は12年間毎日200ミリグラムを摂り、また8年間は日に400ミリグラムを摂取したが、何ら悪い影響はなかった。

水泳選手の食事におけるビタミンEという問題について最終的な結論はまだではない。しかし現在のところ、ビタミンCやビタミンB複合体の場合と同じく、科学的資料のさし示す方向はきびしいトレーニングの際にはビタミンEを補強をすべきだとの線が絶対的に強い、という結論を下さねばならないであろう。

第 34 回 早 慶 対 抗

6 月 3 日 慶大プール (50m) 公認
 気 温 24°5 水 温 22°

- 100m 自由形**
- 1 清水 啓吾 (慶 大) 58.4
 - 2 竹本 昭和 (早 大) 58.8
 - 3 田代 信一 (") 59.6
- 200m 自由形**
- 1 岡部 幸明 (早 大) 2:06.8 (大会新)
 - 2 梅本 利三 (") 2:08.0 (大会新)
 - 3 清水 啓吾 (慶 大) 2:09.2
- 400m 自由形**
- 1 岡部 幸明 (早 大) 4:34.8
 - 2 梅本 利三 (") 4:40.3
 - 3 門口 伯康 (") 4:42.4
- 1500m 自由形**
- 1 山田 忠信 (早 大) 18:59.6
 - 2 奥田 桂次 (") 19:01.5
 - 3 竹林 功男 (慶 大) 19:17.4

- 200m 平 泳**
- 1 松本健次郎 (早 大) 2:35.6 (35.4 1:14:3 1:55.5) (日本新)
 - 2 中川 清 (") 2:42.6
 - 3 加藤 浩時 (早 大) 2:45.3
- 200m バタフライ**
- 1 井筒 賢造 (早 大) 2:20.2 (大会新)
 - 2 岩本 光司 (") 2:22.1
 - 3 田中 英雄 (早 大) 2:22.6
- 200m 背 泳**
- 1 伊藤 圭祐 (早 大) 2:23.4 (大会新)
 - 2 角間 三雄 (") 2:24.5 (大会新)
 - 3 国清 勲 (") 2:27.8 (大会新)
- 400m 個人メドレー**
- 1 中川 清 (早 大) 5:20.0 (日本新)

- 2 高嶺 隆二 (慶 大) 5:27.9
 - 3 伊藤 圭祐 (早 大) 5:41.6
- 800m リレー**
- 1 早 大 8:39.4 (竹本・岡部・門口・梅本)
 - 2 慶 大 9:04.4 (竹林・清水・高嶺・鈴木)
- 400m メドレーリレー**
- 1 早 大 4:23.3 (田中・松本・岩本・田代)
 - 2 慶 大 4:44.1 (辻野・鈴木・芥川・松尾)
- 得点 早大 47点 慶大 7点
- OB 200m リレー**
- 1 早 大 1:50.3 (福井・古賀・長谷・十河)
 - 2 慶 大 1:52.8 (古川・万・二宮・餅米)

第 27 回 明・立・日三大学対抗

6 月 10 日 野毛山プール (50m) 公認
 気 温 24°5 水 温 21°

- 100m 自由形**
- 1 後藤 忠治 (日 大) 58.2
 - 2 中村 良三 (明 大) 58.8
 - 3 清水 英利 (立 大) 59.2
- 200m 自由形**
- 1 後藤 忠治 (日 大) 2:08.2
 - 2 石井 進一 (") 2:12.2
 - 3 山口 正人 (") 2:13.9
- 400m 自由形**
- 1 石井 進一 (日 大) 4:43.7
 - 2 渡辺 恒夫 (明 大) 4:45.7
 - 3 松木登八郎 (日 大) 4:48.4
- 800m 自由形**
- 1 福島 滋雄 (日 大) 9:31.4 (大会新)
 - 2 渡辺 恒夫 (明 大) 9:55.8
 - 3 笠井 利昭 (日 大) 10:04.3
- 200m 平 泳**

- 1 敷石 義秋 (日 大) 2:39.5 (大会新)
 - 2 和気 統 (") 2:39.5 (大会新)
 - 3 石川 健二 (") 2:41.7
- 200m バタフライ**
- 1 須藤 洋一 (明 大) 2:20.7 (大会新)
 - 2 中村 康博 (立 大) 2:25.5
 - 3 赤毛 秀次 (") 2:27.7
- 200m 背 泳**
- 1 福島 滋雄 (日 大) 2:19.4 (32.1 1:07.4 1:43.3 (日本新, 大会新))
 - 2 大隅 潔 (明 大) 2:25.1
 - 3 五十嵐武清 (日 大) 2:27.2
- 400m 個人メドレー**
- 1 片岡 輝男 (立 大) 5:24.2

- 2 井上 敦雄 (日 大) 5:33.5
 - 3 田中 透 (") 5:33.5
- 800m リレー**
- 1 日 大 8:45.4 (福島・山口・石井・後藤)
 - 2 明 大 9:01.1 (秋元・石津・中村・渡辺)
- 立 大 失 格
- 400m メドレーリレー**
- 1 日 大 4:20.0 (五十嵐・和気・武市・久保田) (大会新)
 - 2 明 大 4:20.8 (勝又・岡崎・須藤・中村) (大会新)
- 立 大 失 格
- 得点 日大 109点
 明大 54点
 立大 29点

末 弘 牌 高 校

5 月 26 ・ 27 日 大谷プール (50m) 公認

気 温 26。 19° 水 温 22° 21°

男 子 の 部

100m 自由形

- 1 岩崎 邦宏 (佐伯鶴城) 58.9
- 2 原 万次郎 (大 島) 1:01.4
- 3 金本 博幸 (柳井商工) 1:02.3
- 4 岩重 和夫 (岩 国) 1:02.4
- 5 桑原 勝輝 (鎮 西) 1:02.6
- 6 大坪 繁喜 (朝 倉) 1:03.1
- 7 萩原 克彦 (延岡向洋) 1:03.8

200m 自由形

- 1 岩崎 邦宏 (佐伯鶴城) 2:09.7
- 2 桑原 勝輝 (鎮 西) 2:15.9
- 3 仲矢 昌夫 (佐伯鶴城) 2:15.9
- 4 金本 博幸 (柳井商工) 2:18.3
- 5 小手川 守 (臼 杵) 2:19.2
- 6 大坪 繁喜 (朝 倉) 2:19.9
- 7 萩原 克彦 (延岡向洋) 2:19.9
- 8 赤崎 誠 (宮ノ城) 2:20.4
- 9 岩重 和夫 (岩 国) 2:20.8

400m 自由形

- 1 藤島 祥三 (柳井商工) 4:40.2
- 2 長野 優 (三 瀨) 4:48.3
- 3 藤丸 靖久 (") 4:52.3
- 4 木田 和夫 (佐伯鶴城) 4:55.0
- 5 重永 義則 (熊 本 工) 4:56.7
- 6 仲矢 昌夫 (佐伯鶴城) 4:57.9
- 7 芦刈 巧 (鎮 西) 5:01.0
- 8 岩本 和行 (柳井商工) 5:01.0
- 9 福森 立身 (福 山) 5:01.8

1500m 自由形

- 1 藤島 祥三 (柳井商工) 18:44.0
- 2 木田 和夫 (佐伯鶴城) 19:14.3
- 3 長野 優 (三 瀨) 19:23.0
- 4 重永 義則 (熊 本 工) 19:33.0
- 5 岩本 和行 (柳井商工) 19:50.7
- 6 芦刈 巧 (鎮 西) 19:56.0
- 7 藤丸 靖久 (三 瀨) 20:06.3
- 8 岩本 修二 (柳井商工) 20:17.5
- 9 福森 立身 (福 山) 20:25.2

100m 平 泳

- 1 山南 宏一 (佐伯鶴城) 1:12.7

- 2 大渡 幹士 (諫 早 商) 1:16.2

- 3 高島 光生 (三 瀨) 1:17.3
- 4 吉田 正明 (臼 杵) 1:17.6
- 5 古屋 英明 (諫 早 商) 1:27.9
- 6 青木 剛 (佐伯鶴城) 1:18.0
- 7 阿部 一文 (明 喜) 1:21.1

200m 平 泳

- 1 山南 宏一 (佐伯鶴城) 2:39.9
- 2 高島 光生 (三 瀨) 2:47.0
- 3 古屋 英昭 (諫 早 商) 2:49.7
- 4 吉田 正明 (臼 杵) 2:49.9
- 5 米田 清久 (山 鹿) 2:51.3
- 6 青木 剛 (佐伯鶴城) 2:53.1
- 7 大渡 幹士 (諫 早 商) 2:53.3
- 8 栗屋幸一朗 (岩 国) 2:55.5
- 9 栗山 共造 (佐伯鶴城) 2:55.8

100m バタフライ

- 1 大賀 睦郎 (八 代 東) 1:02.5
- 2 菅 隆則 (佐伯鶴城) 1:05.3
- 3 江本 正 (柳井商工) 1:07.3
- 4 小手川 守 (臼 杵) 1:08.9
- 5 北村 慶二 (諫 早 商) 1:09.1
- 6 高木 正彦 (鹿 本) 1:09.4
- 7 佐藤 達也 (") 1:09.4

200m バタフライ

- 1 大賀 睦郎 (八 代 東) 2:24.6
- 2 江本 正 (柳井商工) 2:32.7
- 3 菅 隆則 (佐伯鶴城) 2:33.2
- 4 北村 慶二 (諫 早 商) 2:36.3
- 5 佐藤 達也 (鹿 本) 2:36.8
- 6 森 公義 (三 瀨) 2:42.6
- 7 釜堀 彦三 (福岡電波) 2:43.3
- 8 団塚 喜幸 (佐伯鶴城) 2:45.0

100m 背 泳

- 1 三木 隆二 (八 代 東) 1:08.4
- 2 篠原 元寿 (佐伯鶴城) 1:12.2
- 3 中村 五郎 (柳井商工) 1:13.7
- 4 末次 学 (三 瀨) 1:14.3
- 5 艶島 康 (朝 倉) 1:15.0
- 6 村本 幸男 (岩 国) 1:16.0
- 7 久保健一郎 (諫 早 商) 1:17.7

200m 背 泳

- 1 三木 隆二 (八 代 東) 2:35.0
- 2 中村 五郎 (柳井商工) 2:38.4
- 3 末次 学 (三 瀨) 2:40.3
- 4 艶島 康 (朝 倉) 2:41.0
- 5 篠原 元寿 (佐伯鶴城) 2:42.2
- 6 久保健一郎 (諫 早 商) 2:42.7
- 7 村本 幸男 (岩 国) 2:47.6
- 8 田中毅司夫 (柳井商工) 2:48.2
- 9 山本孝太郎 (佐伯鶴城) 2:48.8

400m 個人メドレー

- 1 岩崎 邦宏 (佐伯鶴城) 5:35.5
- 2 松山 昭男 (三 瀨) 5:40.0
- 3 藤島 祥三 (柳井商工) 5:40.7
- 4 三木 隆二 (八 代 東) 5:43.6
- 5 藤丸 靖久 (三 瀨) 5:44.1
- 6 大賀 睦郎 (八 代 東) 5:44.9
- 7 木田 和夫 (佐伯鶴城) 5:48.7

400m リレー

- 1 仲矢・木田・山南・岩崎 (佐伯鶴城) 4:09.3
- 2 長野・江口・藤丸・吉村 (三 瀨) 4:14.0
- 3 田原・岩本・金本・藤島 (柳井商工) 4:15.4
- 4 池田・森下・石井・小手川 (臼 杵) 4:16.4
- 5 坂上・船場・芦刈・桑原 (鎮 西) 4:19.0
- 6 大坪・後藤・高山・艶島 (朝 倉) 4:22.5

800m リレー

- 1 岩本修・岩本和・金本・藤島 (柳井商工) 9:13.2
- 2 仲矢・木田・菅・岩崎 (佐伯鶴城) 9:18.6
- 3 長野・藤丸・江口・吉村 (三 瀨) 9:20.6
- 4 坂上・船場・芦刈・桑原 (鎮 西) 9:26.7
- 5 池田・森下・石井・小手川

- (臼 杵) 9:42.2
 6 後藤・艶島・高山・大坪
 (朝 倉) 9:54.2

400m メドレーリレー

- 1 篠原・山南・菅・岩崎
 (佐伯鶴城) 4:35.2
 2 三木・福原・大賀・立山
 (八代東) 4:47.5
 3 石井・吉田・小手川・森下
 (臼 杵) 4:48.8
 4 末次・高島・松山・長野
 (三 瀨) 4:50.6
 5 中村・岩本・江本・藤島
 (柳井商工) 4:50.7
 6 久保・古屋・北村・久保
 (諫早商) 4:55.6

女子の部

100m 自由形

- 1 小畑 昭子(筑紫女) 1:12.1
 2 釜堀 福子(朝 羽) 1:13.0
 3 田崎 栄子(八代東) 1:14.4
 4 佐藤香代子(佐 伯) 1:15.6
 5 大坪 光子(朝 羽) 1:15.8
 6 豊田由美子(筑紫女) 1:17.6
 7 吉村 幸子(諫早商) 1:19.2

200m 自由形

- 1 小畑 昭子(筑紫女) 2:39.0
 2 田崎 栄子(八代東) 2:44.4
 3 釜堀 福子(朝 羽) 2:47.1
 4 佐藤香代子(佐 伯) 2:50.6
 5 大坪 光子(朝 羽) 2:52.5
 6 豊田由美子(筑紫女) 2:53.2
 7 吉村 幸子(諫早商) 2:54.3

400m 自由形

- 1 木村トヨ子(筑紫女) 5:18.8
 2 金子イツエ(朝 羽) 6:06.4
 3 足立久美子(") 6:11.6
 4 福島 和子(山 鹿) 6:16.5
 5 永井 弘子(佐 伯) 6:24.5
 6 重富 和子(朝 羽) 6:34.2

800m 自由形

- 1 木村トヨ子(筑紫女) 11:00.5
 2 足立久美子(朝 羽) 12:48.4
 3 金子イツエ(") 12:58.0
 4 永井 弘子(佐 伯) 12:58.0

- 5 福島 和子(山 鹿) 13:23.1
 6 重富 和子(朝 羽) 13:59.8

100m 平 泳

- 1 山本 憲子(筑紫女) 1:24.7
 2 田上 和子(八代東) 1:26.2
 3 松本 信子(佐 伯) 1:29.8
 4 綱屋 千代(筑紫女) 1:30.2
 5 浜野 増子(佐 伯) 1:31.2
 6 田中 映子(佐伯鶴城) 1:34.5

200m 平 泳

- 1 田上 和子(八代東) 3:04.8
 2 山本 憲子(筑紫女) 3:04.8
 3 綱屋 千代(") 3:12.0
 4 浜野 増子(佐 伯) 3:15.1
 5 松本 信子(") 3:17.1
 6 田中 映子(佐伯鶴城) 3:22.1
 7 江上 淳子(朝 羽) 3:23.3
 8 野口 幾子(筑紫女) 3:29.3

100m バタフライ

- 1 高橋 栄子(佐伯鶴城) 1:13.6
 2 池田婦美子(鹿 本) 1:20.1
 3 小緑 芳子(宮ノ城) 1:21.8
 4 浜田百合子(佐伯鶴城) 1:24.6
 5 諫山 和子(朝 羽) 1:28.8
 6 釜堀タミエ(") 1:31.2

200m バタフライ

- 1 高橋 栄子(佐伯鶴城) 2:50.4
 2 小緑 芳子(宮ノ城) 3:11.5
 3 池田婦美子(鹿 本) 3:16.8
 4 浜田百合子(佐伯鶴城) 3:17.4
 5 浜崎 洋子(佐 伯) 3:26.8
 6 釜堀タミエ(朝 羽) 3:26.9
 7 青木 禎子(筑紫女) 3:32.0

100m 背 泳

- 1 宮井 春代(朝 羽) 1:24.5
 2 国府 淳子(筑紫女) 1:24.7
 3 井上 郁子(佐 伯) 1:28.5
 4 橋口 雪子(宮ノ城) 1:31.1
 5 富田 早苗(八代東) 1:31.1
 6 松野ノブ子(熊本市立) 1:31.5
 7 西村 幸子(筑紫女) 1:32.1

200m 背 泳

- 1 国府 淳子(筑紫女) 2:59.6
 2 宮井 春代(朝 羽) 3:03.2
 3 井上 郁子(佐 伯) 3:12.5
 4 西村 幸子(筑紫女) 3:15.0

- 5 富田 早苗(八代東) 3:16.4
 6 松野ノブ子(熊本市立) 3:17.6
 7 宮崎ルミ子(朝 羽) 3:21.4
 8 橋口 雪子(宮ノ城) 3:22.2
 9 上田橋真弓(") 3:23.7

200m 個人メドレーリレー

- 1 高橋 栄子(佐伯鶴城) 2:59.0
 2 田上 和子(八代東) 3:01.7
 3 木村トヨ子(筑紫女) 3:02.0
 4 浜田百合子(佐伯鶴城) 3:04.7
 5 国府 淳子(筑紫女) 3:09.2
 6 小緑 芳子(宮ノ城) 3:09.8

400m リレー

- 1 木村・小畑・山本・豊田
 (筑紫女) 4:58.5
 2 金子・大坪・足立・釜堀
 (朝 羽) 5:02.9
 3 田上・横林・富田・田崎
 (八代東) 5:13.1
 4 佐藤・井上・井脇・永井
 (佐 伯) 5:28.4
 5 谷口・上田橋・中園・小緑
 (宮ノ城) 5:38.5

400m メドレーリレー

- 1 国府・山本・小畑・木村
 (筑紫女) 5:30.6
 2 宮井・元川・諫山・釜堀
 (朝 羽) 5:42.0
 3 井上・松本・浜崎・佐藤
 (佐 伯) 5:42.1
 4 富田・田上・田崎・横林
 (八代東) 5:46.3
 5 橋口・松下・小緑・上田橋
 (宮ノ城) 5:58.4
 6 齋藤・片淵・池田・長迫
 (鹿 本) 6:05.6

得 点

男 子

- 1 佐伯鶴城 85点
 2 柳井商工 58"
 3 三 瀨 49"
 4 八代東 37"
 5 臼 杵 20"
 6 諫早商 18"

女 子

- 1 筑紫女 84点
 2 朝 羽 59"
 3 佐 伯 39"
 4 八代東 37"
 5 佐伯鶴城 32"
 6 宮ノ城 17"

第2回中央大学対全東京

7月1日

船橋市山一証券プール(50m)

100m 自由形			3 兵藤 正時(中大) 1:16.4	4 菅 征夫(中大) 1:08.5
1 菅 正文(中大) 58.3	4 樋口 裕(") 1:16.7	5 坂口 達也(中大) 1:11.7	5 宮本 英(") 1:16.7	6 青木 守喬(東京) 1:12.0
2 見上 勝記(") 59.8	5 山田 政容(東京) 1:18.7	7 宮良 高志(") 1:12.0	6 山田 政容(東京) 1:18.7	8 岡部 徹(中大) 1:13.5
3 吉見 行雄(東京) 1:00.3	7 宮辺 俊二(") 1:20.1	200m 背 泳		1 五十嵐武清(東京) 2:25.5
4 宇田 宏(") 1:00.7	8 山本 浩(") 1:20.9	1 野々村嘉昭(中大) 2:42.8	2 林 祐士郎(中大) 2:29.3	2 林 祐士郎(中大) 2:29.3
5 中谷 庸彦(中大) 1:00.7	200m 平 泳		3 菅 征夫(") 2:33.3	3 菅 征夫(") 2:33.3
6 毛利 清三(") 1:01.9	1 野々村嘉昭(中大) 2:42.8	2 樋口 裕(") 2:44.5	4 宮良 高志(東京) 2:34.1	4 宮良 高志(東京) 2:34.1
7 菅野 直之(東京) 1:04.1	2 樋口 裕(") 2:44.5	3 兵藤 正明(") 2:46.4	5 井上 彬(中大) 2:34.6	5 井上 彬(中大) 2:34.6
200m 自由形			4 黒塚 正機(") 2:49.4	6 坂口 達也(") 2:34.7
1 石井 進一(東京) 2:10.5	3 兵藤 正明(") 2:46.4	5 宮部 俊二(東京) 2:52.6	7 鈴木 勝幸(東京) 2:42.4	7 鈴木 勝幸(東京) 2:42.4
2 吉見 行雄(") 2:13.8	4 黒塚 正機(") 2:49.4	6 山田 政容(") 2:53.2	8 正木 昭直(") 2:45.7	8 正木 昭直(") 2:45.7
3 見上 勝記(中大) 2:14.6	5 宮部 俊二(東京) 2:52.6	7 藤田 修二(東京) 2:58.3	400m 個人メドレーリレー	
4 菅 正文(") 2:15.2	6 山田 政容(") 2:53.2	8 宮田 英明(") 3:01.2	1 福島 滋雄(東京) 5:08.6	1 福島 滋雄(東京) 5:08.6
5 宇田 宏(東京) 2:15.3	7 藤田 修二(東京) 2:58.3	100m バタフライ		
6 石田 修一(中大) 2:17.1	8 宮田 英明(") 3:01.2	1 大林 敦(中大) 1:04.3	2 井上 敦(") 5:34.0	2 井上 敦(") 5:34.0
7 古木 輝己(") 2:20.0	400m 自由形			3 青木 守喬(") 5:40.0
8 菅野 直之(東京) 2:23.6	1 佐々木末昭(中大) 4:33.5	2 三好 恭弘(") 1:04.6	4 大林 敦(中大) 5:54.0	4 大林 敦(中大) 5:54.0
400m 自由形			3 遠藤 英康(東京) 1:04.9	5 坂口 達也(") 5:54.5
1 佐々木末昭(中大) 4:33.5	2 石井 進一(東京) 4:42.0	4 鈴木 竜蔵(中大) 1:05.4	6 安岡 博臣(") 5:55.3	6 安岡 博臣(") 5:55.3
2 石井 進一(東京) 4:42.0	3 佐原 年明(中大) 4:42.4	5 富安 守弘(") 1:05.7	7 加藤 仁彦(東京) 5:55.6	7 加藤 仁彦(東京) 5:55.6
3 佐原 年明(中大) 4:42.4	4 梶本 邦昭(") 4:45.8	6 藤田 修孝(東京) 1:06.6	8 秀島 敏雄(中大) 6:28.9	8 秀島 敏雄(中大) 6:28.9
4 梶本 邦昭(") 4:45.8	5 丸井 久人(東京) 4:51.2	7 福田 憲二(") 1:07.0	800m リレー	
5 丸井 久人(東京) 4:51.2	6 山田 博明(") 4:59.0	8 横山 徹郎(") 1:08.1	1 佐々木・菅・佐原・見上	1 佐々木・菅・佐原・見上
6 山田 博明(") 4:59.0	7 丸山 洋(") 4:59.4	200m バタフライ		
7 丸山 洋(") 4:59.4	8 安岡 博臣(中大) 5:09.9	1 三好 恭弘(中大) 2:22.8	(中大) 8:47.0	(中大) 8:47.0
8 安岡 博臣(中大) 5:09.9	800m 自由形			2 宇田・丸山・石井・吉見
1 佐々木末昭(中大) 9:31.6	1 佐々木末昭(中大) 9:31.6	2 大林 敦(") 2:29.4	(東京) 8:59.9	(東京) 8:59.9
2 佐原 年明(") 9:56.7	2 佐原 年明(") 9:56.7	3 馬場 政義(") 2:29.6	400m メドレーリレー	
3 梶本 邦昭(") 9:59.2	3 梶本 邦昭(") 9:59.2	4 鈴木 竜蔵(") 2:30.2	1 林・樋口・大林・見上	1 林・樋口・大林・見上
4 丸井 久人(東京) 10:00.8	4 丸井 久人(東京) 10:00.8	5 横山 徹郎(東京) 2:33.6	(中大) 4:23.8	(中大) 4:23.8
5 山田 博昭(") 10:19.4	5 山田 博昭(") 10:19.4	6 福田 憲二(") 2:37.0	2 渡辺・石川・遠藤・吉見	2 渡辺・石川・遠藤・吉見
6 野口 和雄(") 10:38.0	6 野口 和雄(") 10:38.0	7 藤田 修孝(") 2:38.9	(東京) 4:24.2	(東京) 4:24.2
7 安岡 博臣(中大) 11:11.8	7 安岡 博臣(中大) 11:11.8	8 石井 (") 2:41.8	得 点	
100m 平 泳			1 渡辺 和夫(東京) 1:04.8	中大 157点
1 野々村嘉昭(中大) 1:14.4	1 野々村嘉昭(中大) 1:14.4	2 五十嵐武清(") 1:06.4	全東京 91"	全東京 91"
2 石川 健二(東京) 1:15.5	2 石川 健二(東京) 1:15.5	3 林 祐士郎(中大) 1:08.5		

第38回早関対抗水上競技大会

6月16日 大阪プール(50m)公認
 気温 25.0° 水温 23.0°

- 100m 自由形**
- 竹本 昭和(早大) 57.4
 - 田代 信一(") 57.9
 - 深谷 寿郎(関学) 1:00.0
 - 柳谷 透(早大) 1:00.5
 - 石村 興二(関学) 1:02.4
- 200m 自由形**
- 梅本 利三(早大) 2:05.6
 - 門口 伯康(早大) 2:08.0
 - 田代 信一(早大) 2:10.3
 - 刈屋 辰彦(関学) 2:17.2
 - 石村 興二(関学) 2:19.5
 - 高島 与一(関学) 2:29.7
- 400m 自由形**
- 岡部 幸明(早大) 4:33.1
 - 梅本 利三(早大) 4:42.0
 - 門口 伯康(早大) 4:42.5
 - 吉田 憲司(関学) 5:01.0
 - 刈屋 辰彦(関学) 5:02.8
 - 崎山 武雄(関学) 5:16.6

- 800m 自由形**
- 奥田 桂次(早大) 9:50.0
 - 山田 忠信(") 9:53.5
 - 山田 康弘(") 10:17.8
 - 吉田 憲司(関学) 10:25.4
 - 崎山 武雄(関学) 11:02.0
- 200m 平泳**
- 松本建次郎(早大) 2:34.7
 - 中川 清(早大) 2:39.2
 - 加藤 浩時(早大) 2:46.2
 - 荒木 紀一(関学) 2:58.4
 - 永田 賢次(関学) 3:00.0
 - 西田 寿悦(") 3:00.7
- 200m バタフライ**
- 井筒 賢造(早大) 2:19.1
 - 田中 英雄(") 2:19.2
 - 岩本 光司(") 2:20.1
 - 福本 雅夫(関学) 2:38.2
 - 高島 与一(") 2:53.4
- 200m 背泳**

- 伊藤 圭祐(早大) 2:25.3
 - 角間 三雄(") 2:26.2
 - 田中 広征(") 2:28.2
 - 小林 東明(関学) 2:35.6
 - 杉江 伸(") 3:25.0
- 800m リレー**
- 岡部幸明・竹本昭和・門口伯康・梅本利三(早大) 8:36.1
 - 刈屋辰彦・深谷寿邦・吉田憲司・崎山武雄(関学) 9:20.7
- 400m メドレーリレー**
- 伊藤圭祐・松本建次郎・岩本光司・岡部幸明(早大) 4:14.3
 - 小林東明・西口寿悦・福本雅夫・深谷寿邦(関学) 4:36.2

得点

1 早大 47
 2 関学 1

第7回 日本大学対中央大学

6月17日 晴 野毛山プール(50m)公認
 気温 24.5° 水温 21.8°

- 100m 自由形**
- 見上 勝記(中大) 58.2
 - 後藤 忠治(日大) 58.2
 - 菅 正文(中大) 59.2
 - 久保田宇利(日大) 59.2
 - 吉見 行雄(日大) 59.5
 - 中谷 庸彦(中大) 59.8
 - 葉室 正孝(日大) 1:00.0
 - 望月清一郎(中大) 1:01.8
- 200m 自由形**
- 後藤 忠治(日大) 2:09.1
 - 見上 勝記(中大) 2:10.5
 - 山口 正人(日大) 2:11.1
 - 石井 進一(日大) 2:11.3
 - 石田 修一(中大) 2:14.6
 - 丸山 洋(日大) 2:14.8

- 古木 輝己(中大) 2:14.8
 - 菅 正文(中大) 2:17.0
- 400m 自由形**
- 佐々木末昭(中大) 4:33.5
 - 佐原 年昭(") 4:41.6
 - 梶本 邦昭(") 4:46.4
 - 松木登八郎(日大) 4:47.1
 - 吉田 英機(") 4:47.6
 - 石井 進一(") 4:48.4
 - 笠井 利昭(日大) 4:51.8
 - 石田 修一(中大) 5:01.2
- 1500m 自由形**
- 佐々木末昭(中大) 18:04.3
 - 佐原 年昭(") 18:55.5
 - 松木登八郎(日大) 19:13.4
 - 森田 武男(") 19:17.4

- 丸井 久人(日大) 19:17.8
 - 梶本 邦昭(中大) 19:29.0
 - 笠井 利昭(日大) 19:36.4
 - 安岡 博信(中大) 21:13.8
- 100m 平泳**
- 石川 健二(日大) 1:13.4
 - 敷石 義秋(") 1:14.2
 - 和氣 統(") 1:14.4
 - 樋口 裕(中大) 1:15.1
 - 野々村嘉昭(") 1:15.1
 - 宮本 英(") 1:15.9
 - 中村 昌彦(日大) 1:16.0
 - 兵藤 正時(中大) 1:16.2
- 200m 平泳**
- 敷石 義秋(日大) 2:37.8
 - 和氣 統(") 2:39.5

- 3 石川 健二 (日 大) 2:40.8
- 4 野々村嘉昭 (中 大) 2:43.0
- 5 兵藤 正時 (中 大) 2:45.2
- 6 樋口 裕 (") 2:46.0
- 7 黒塚 正機 (") 2:46.5
- 8 篠原 豊 (日 大) 2:51.0

100m バタフライ

- 1 大林 敦 (中 大) 1:02.7
- 2 三好 恭弘 (") 1:04.0
- 3 武市 啓志 (日 大) 1:04.6
- 4 遠藤 英康 (") 1:04.6
- 5 富安 守弘 (中 大) 1:04.8
- 6 金親 義弘 (日 大) 1:05.4
- 7 鈴木 竜蔵 (中 大) 1:05.4
- 8 杉浦 直樹 (日 大) 1:09.0

200m バタフライ

- 1 三好 恭弘 (中 大) 2:20.4
- 2 大林 敦 (") 2:24.6
- 3 金親 義弘 (日 大) 2:25.2
- 4 横山 徹郎 (") 2:26.5
- 5 馬場 政儀 (中 大) 2:26.6
- 6 鈴木 竜蔵 (") 2:27.9
- 7 武市 啓志 (日 大) 2:28.6
- 8 遠藤 英康 (") 2:29.8

100m 背 泳

- 1 福島 滋雄 (日 大) 1:05.8
- 2 五十嵐武清 (") 1:06.0
- 3 林 祐士郎 (中 大) 1:08.5
- 4 菅 征夫 (") 1:09.0
- 5 加藤 泰三 (日 大) 1:09.6
- 6 井上 彬 (中 大) 1:11.0
- 7 坂口 達也 (") 1:11.3
- 8 河田 俊輔 (日 大) 1:11.4

200m 背 泳

- 1 福島 滋雄 (日 大) 2:20.1
- 2 五十嵐武清 (") 2:27.0
- 3 林 祐士郎 (中 大) 2:27.6
- 4 菅 征夫 (") 2:31.0
- 5 坂口 達也 (") 2:32.5
- 6 田中 透 (日 大) 2:32.8
- 7 井上 彬 (中 大) 2:34.0
- 8 中谷 明邦 (日 大) 2:37.0

400m 個人メドレー

- 1 福島 滋雄 (日 大) 5:08.1
- 2 井上 敦雄 (") 5:35.0
- 3 青木 守喬 (") 5:41.6
- 4 坂口 達也 (中 大) 5:47.6
- 5 光本 市郎 (日 大) 5:50.2

- 6 中谷 庸彦 (中 大) 6:01.7
- 7 大林 敦 (") 6:05.8
- 8 大崎 邦彦 (") 6:13.6

800m リレー

- 1 福島・山口・石井・後藤 (日 大) 8:40.0
- 2 見上・佐原・古木・佐々木 (中 大) 8:41.2

400m メドレーリレー

- 1 五十嵐・石川・武市・後藤 (日 大) 4:18.4
- 2 林・樋口・大林・見上 (中 大) 4:21.5

高校 800m リレー

- 1 丸井・湯山・山田・小島 (日大豊山) 9:26.7
- 2 堤・姫野・早川・横川 (中大杉並) 10:00.8

水 球

日 大 8 — 7 中 大

第 4 回 末弘記念日本室内選手権大会

5 月 2 ・ 3 日

東京都体育館屋内プール (50m) 公認

男子の部

100m 自由形

予選

A1

後藤 忠治 (日 大) 58.0

B

- 1 竹本 昭和 (稲 泳 会) 59.1
- 2 清水 英利 (立 大) 59.9
- 3 石井 進一 (日 大) 59.9

C

- 1 福井 清 (大洋漁業) 58.0
- 2 久保田宇利 (日 大) 59.3

D

- 1 石原勝記 (BSタイヤ) 58.8
- 2 田代 信一 (稲 泳 会) 59.6

E

1 清水 吾吾 (三 水 会) 58.7

F

1 見上 勝紀 (白 水 会) 59.6

G

1 S・ジャックマン (アメリカ) 56.5

2 中村 良三 (駿 台 大) 58.3

4 池田 芳玄 (天 理 大) 59.3

5 末永 豪 (法 大) 59.8

6 田村 稔 (宇部興産) 59.9

準決勝 A

1 S・ジャックマン (アメリカ) 56.5

2 中村 良三 (駿 台 大) 58.7

3 清水 啓吾 (三 水 会) 59.0

4 久保田宇利 (日 大) 59.4

5 池田 芳玄 (天 理 大) 59.5

6 末永 豪 (法 大) 59.8

B

1 福井 清 (大洋漁業) 58.0

2 後藤 忠治 (日 大) 58.4

3 石原 勝記 (BSタイヤ) 58.8

4 竹本 昭和 (稲 泳 会) 59.0

5 田代 信一 (") 59.1

6 見上 勝紀 (白 水 会) 59.6

決勝

1 S・ジャックマン (アメリカ) 54.6

2 後藤 忠治 (日 大) 56.7

3 石原 勝記 (BSタイヤ) 57.0

4 竹本 昭和 (稲 泳 会) 57.7

- 5 福井 清 (大洋漁業) 58.0
 6 中村 良三 (駿台ク) 58.4
 7 清水 啓吾 (三水会) 58.4

200m 自由形

予選A

- 1 池田 芳玄 (天理水) 2:15.3

B

- 1 D・シヨランダール
 (アメリカ) 2:06.3

- 2 石原勝記 (BSタイヤ) 2:11.2

- 3 石井 進一 (日大) 2:11.7

- 4 見上 勝紀 (白水会) 2:12.8

C

- 1 崎久保道博 (日本鋼管) 2:14.4

- 2 山口 正人 (日大) 2:15.2

- 3 柳谷 透 (稲泳会) 2:15.4

- 4 吉見 行雄 (日大) 2:16.0

D

- 1 後藤 忠治 (日大) 2:11.3

E

- 1 田村 稔 (宇部興産) 2:12.3

- 2 竹本 昭和 (稲泳会) 2:15.5

F

- 1 岡部 幸明 (稲泳会) 2:08.7

- 2 講本 昌男 (同志社大) 2:10.9

G

- 1 梅本 利三 (稲泳会) 2:09.3

- 2 笈田 光治 (日本鋼管) 2:10.5

- 3 丸山長敏 (BSタイヤ) 2:10.7

H

- 1 門口 伯康 (稲泳会) 2:08.6

- 2 S・ジャックマン
 (アメリカ) 2:08.6

- 3 石田 修一 (白水会) 2:15.1

- 4 浅沼 宏志 (青学大) 2:15.2

I

- 1 田代 信一 (稲泳会) 2:13.2

決勝

- 1 D・シヨランダール
 (アメリカ) 2:03.8

- 2 S・ジャックマン
 (アメリカ) 2:04.3

- 3 石原勝記 (BSタイヤ) 2:07.2

- 4 岡部 幸明 (稲泳会) 2:07.2

- 5 梅本 利三 (") 2:07.2

- 6 門口 伯康 (") 2:07.7

- 7 丸山長敏 (BSタイヤ) 2:10.3

- 8 講本 昌男 (同志社大) 2:10.3

- 9 笈田 光治 (日本鋼管) 2:12.6

400m 自由形

予選A

- 1 笈田 光治 (日本鋼管) 4:40.6

- 2 松木登八郎 (日大) 4:41.2

- 3 岡部 幸明 (稲泳会) 4:43.1

- 4 多田 寿之 (尾道商高) 4:48.9

- 5 阿部 紀夫 (法大) 4:53.6

B

- 1 靱山 稔 (日本鋼管) 4:42.1

- 2 講本 昌男 (同志社大) 4:50.7

- 3 山田 忠信 (稲泳会) 4:51.1

- 4 高沢 隆 (立大) 4:51.4

- 5 丸井 久人 (日大豊山高) 4:56.8

C

- 1 門口 伯康 (稲泳会) 4:40.8

- 2 森田 武男 (日大豊山高) 4:45.9

- 3 丸山 洋 (日大) 4:55.5

- 4 梶本 邦昭 (白水会) 4:55.6

D

- 1 庄司敏夫 (BSタイヤ) 4:39.3

- 2 梅本 利三 (稲泳会) 4:39.5

- 3 渡辺 恒夫 (駿台ク) 4:51.0

- 4 笠井 利昭 (日大) 4:53.5

E

- 1 佐々木末昭 (白水会) 4:43.6

- 2 島田勇次郎 (稲泳会) 4:56.0

F

- 1 中坊昌美 (BSタイヤ) 4:41.4

- 2 佐原 年明 (白水会) 4:46.8

- 3 奥田 桂次 (稲泳会) 4:49.3

G

- 1 D・シヨランダール
 (アメリカ) 4:37.2

- 2 岡村 文博 (駿台ク) 4:50.3

- 3 山田 康弘 (稲泳会) 4:52.2

決勝

- 1 D・シヨランダール
 (アメリカ) 4:29.5

- 1:01.6 2:10.3 3:20.0

- 2 庄司敏夫 (BSタイヤ) 4:35.1

- 3 梅本 利三 (稲泳会) 4:36.8

- 4 中坊昌美 (BSタイヤ) 4:38.2

- 5 門口 伯康 (稲泳会) 4:38.8

- 6 松木登八郎 (日大) 4:40.0

- 7 笈田 光治 (日本鋼管) 4:41.2

- 8 岡部 幸明 (稲泳会) 4:41.5

- 9 靱山 稔 (日本鋼管) 4:47.0

800m 自由形

予選A

- 1 靱山 稔 (日本鋼管) 9:50.2

- 2 山田 忠信 (稲泳会) 10:04.6

- 3 渡辺 恒夫 (駿台ク) 10:09.9

- 4 島田勇次郎 (稲泳会) 10:28.0

- 5 丸山 洋 (日大) 10:28.9

- 6 西野 勝弘 (駿台ク) 10:29.2

B

- 1 庄司敏夫 (BSタイヤ) 9:51.0

- 2 佐原 年昭 (白水会) 9:56.6

- 3 山田 康弘 (稲泳会) 10:15.2

- 4 笠井 利昭 (日大) 10:21.4

- 5 丸井 久人 (日大豊山高) 10:23.7

C

- 1 松木登八郎 (日大) 9:59.2

- 2 中坊昌美 (BSタイヤ) 9:59.9

- 3 阿部 紀夫 (法大) 10:12.0

- 4 岡村 文博 (駿台ク) 10:12.4

- 5 竹林 功男 (三水会) 10:22.7

- 6 井上 敦雄 (日大) 10:23.1

- 7 野口 和雄 (東田中) 10:28.3

D

- 1 D・シヨランダール
 (アメリカ) 9:36.8

- 2 佐々木末昭 (白水会) 9:49.6

- 3 奥田 桂次 (稲泳会) 10:00.5

- 4 多田 寿之 (尾道高) 10:15.5

- 5 今枝 啓吾 (駿台ク) 10:34.9

決勝

- 1 D・シヨランダール
 (アメリカ) 9:19.4

- 1:05.6 2:16.0 3:26.7 4:34.5
 5:49.6 7:01.4 8:12.5

- 2 庄司敏夫 (BSタイヤ) 9:40.3

- 3 松木登八郎 (日大) 9:43.3

- 4 中坊昌美 (BSタイヤ) 9:46.7

- 5 佐々木末昭 (白水会) 9:48.3

- 6 佐原 年昭 (") 9:50.1

- 7 靱山 稔 (日本鋼管) 9:54.5

- 8 山田 忠信 (稲泳会) 9:55.6

- 9 奥田 桂次 (") 10:02.7

100m 平 泳

予選A

- 1 和気 統 (日 大) 1:15.6
- 2 宮本 英 (白水会) 1:16.9
- 3 加藤 浩時 (稲泳会) 1:17.0
- 4 上坂 昭治 (法 大) 1:17.3

B

- 1 小寺 隆昭 (駿台ク) 1:15.1
- 2 樋口 裕 (白水会) 1:15.5
- 3 鶴岡 成夫 (法政二高) 1:16.7
- 4 中村 昌彦 (日 大) 1:17.2
- 5 木曾 雄吉 (立 大) 1:18.0

C

- 1 松本健次郎 (稲泳会) 1:12.3
- 2 敷石 義秋 (日 大) 1:14.6
- 3 坪田 充功 (日本鋼管) 1:15.3
- 4 野々村嘉昭 (白水会) 1:16.8
- 5 木村 智彦 (駿台ク) 1:18.0

D

- 1 岡崎 貞彦 (駿台ク) 1:14.2
- 2 鈴木 欽次 (磐田農高) 1:16.9
- 3 福永 恵輔 (日 大) 1:17.7

E

- 1 山田 清 (日本鋼管) 1:17.9
- 2 山田 政容 (日大豊山高) 1:18.0

F

- 1 中野 勇治 (宇部興産) 1:13.3
- 2 中川 清 (稲泳会) 1:13.4
- 3 兵藤 正時 (白水会) 1:17.1
- 4 栗林 徳治 (五条高) 1:17.3

G

- 1 C・ジャストレムスキー (アメリカ) 1:10.3
- 2 寺尾 友孝 (立 大) 1:16.1

準決勝A

- 1 C・ジャストレムスキー (アメリカ) 1:09.6
- 2 中川 清 (稲泳会) 1:12.2
- 3 岡崎 貞彦 (駿台ク) 1:14.4
- 4 樋口 裕 (白水会) 1:14.8
- 5 坪田 充功 (日本鋼管) 1:15.5
- 6 野々村嘉昭 (白水会) 1:15.6
- 7 鶴岡 成久 (法政二高) 1:16.5

B

- 1 松本健次郎 (稲泳会) 1:11.8
- 2 中野 勇治 (宇部興産) 1:12.9

- 3 敷石 義秋 (日 大) 1:13.8
- 4 小寺 隆昭 (駿台ク) 1:14.6
- 5 和気 統 (日 大) 1:15.2
- 6 寺尾 友孝 (立 大) 1:15.5
- 7 宮本 英 (白水会) 1:16.1

決勝

- 1 C・ジャストレムスキー (アメリカ) 1:09.5
- 2 松本健次郎 (稲泳会) 1:12.1
- 3 中野 勇治 (宇部興産) 1:12.1
- 4 中川 清 (稲泳会) 1:13.1
- 5 敷石 義秋 (日 大) 1:14.7
- 6 岡崎 貞彦 (駿台ク) 1:14.9
- 7 小寺 隆昭 (") 1:15.3

200m 平 泳

予選A

- 1 石川 健二 (日大豊山高) 2:43.1
- 2 山田 清 (日本鋼管) 2:50.6
- 3 中村 昌彦 (日 大) 2:51.2
- 4 山田 碩哉 (法 大) 2:51.8

B

- 1 松本健次郎 (稲泳会) 2:37.5
- 2 和気 統 (日 大) 2:48.2
- 3 栗林 徳治 (五条高) 2:50.9
- 4 宮本 英 (白水会) 2:52.4

C

- 1 中野 勇治 (宇部興産) 2:41.4
- 2 敷石 義秋 (日 大) 2:42.8
- 3 兵藤 正時 (白水会) 2:47.4
- 4 館田 努 (釜石製鉄) 2:55.1
- 5 加根魯純二 (国土館大) 2:55.4

E

- 1 中川 清 (稲泳会) 2:40.6
- 2 小寺 隆昭 (駿台ク) 2:43.2
- 3 坪田 充功 (日本鋼管) 2:48.4
- 4 福永 恵輔 (日 大) 2:52.4
- 5 上坂 昭治 (法 大) 2:54.3

F

- 1 野々村嘉昭 (白水会) 2:48.0
- 2 木村 智彦 (駿台ク) 2:49.5
- 3 榎本俊一郎 (日 大) 2:51.0
- 4 川島 文雄 (竜洋中) 2:52.2
- 5 鶴岡 成夫 (法政二高) 2:52.3

G

- 1 C・ジャストレムスキー (アメリカ) 2:39.4

- 2 加藤 浩時 (稲泳会) 2:47.2
- 3 鈴木 欽次 (磐田農高) 2:52.0
- 4 平川弘三郎 (法 大) 2:56.8

D

- 1 岡崎 貞彦 (駿台ク) 2:40.3
- 2 樋口 裕 (白水会) 2:44.3
- 3 山田 政容 (日大豊山高) 2:54.3
- 4 川島 勇 (磐田農高) 2:56.9

決勝

- 1 C・ジャストレムスキー (アメリカ) 2:36.2
- 2 松本健次郎 (稲泳会) 2:36.6
- 3 中川 清 (稲泳会) 2:39.0
- 4 敷石 義秋 (日 大) 2:39.8
- 5 岡崎 貞彦 (駿台ク) 2:40.3
- 6 中野 勇治 (宇部興産) 2:41.4
- 7 樋口 裕 (白水会) 2:42.4
- 8 小寺 隆昭 (駿台ク) 2:43.8
- 9 石川 健二 (日大豊山高) 2:44.4

100m バタフライ

予選A

- 1 田中 英雄 (稲泳会) 1:04.4
- 2 神坂 忠一 (立 大) 1:04.6
- 3 大林 敦 (白水会) 1:05.6

B

- 1 飯田 智康 (法 大) 1:04.3
- 2 高嶺 隆二 (三水会) 1:04.8
- 3 三好 恭弘 (白水会) 1:05.9

C

- 1 増永 文昭 (日本鉱業) 1:04.3
- 2 上田 紀男 (法 大) 1:05.1
- 3 杉本 紘一 (稲泳会) 1:06.2
- 4 山下 洋二 (東教大) 1:06.3
- 5 若井 英雄 (日本鋼管) 1:06.6

D

- 1 井筒 賢造 (稲泳会) 1:02.6
- 2 中村 康博 (立 大) 1:05.3
- 3 新井 沐 (京都大丸) 1:05.8
- 4 金親 義弘 (日 大) 1:06.4

E

- 1 赤毛 秀次 (立 大) 1:06.3
- 2 富安 守弘 (白水会) 1:06.5

F

- 1 遠藤 英康 (日 大) 1:05.0
- 2 鈴木 竜蔵 (白水会) 1:06.8
- 3 水野 隆晴 (駿台ク) 1:07.0

G

- 1 L・ジュルホフ
(アメリカ) 1:02.7
2 岩本 光司 (稲泳会) 1:03.2
3 宮島 良寛(日大豊山高) 1:06.9

準決勝A

- 1 井筒 賢造 (稲泳会) 1:03.0
2 増永 文昭 (日本鉱業) 1:03.2
3 飯田 智康 (法大) 1:03.7
4 遠藤 英康 (日大) 1:04.7
5 高嶺 隆二 (三水会) 1:04.7
6 新井 沐 (京大丸) 1:04.8
7 大林 敦 (白水会) 1:04.8

B

- 1 L・ジュルホフ (アメリカ)
1:02.2
2 田中 英雄 (稲泳会) 1:03.2
3 岩本 光司 (") 1:03.6
4 神坂 忠一 (立大) 1:04.0
5 上田 紀男 (法大) 1:04.0
6 三好 恭弘 (白水会) 1:05.3
7 中村 康博 (立大) 1:05.6

決勝

- 1 L・ジュルホフ (アメリカ)
1:00.7
2 増永 文昭 (日本鉱業) 1:01.9
3 井筒 賢造 (稲泳会) 1:02.3
4 岩本 光司 (") 1:03.7
5 飯田 智康 (法大) 1:03.7
6 田中 英雄 (稲泳会) 1:03.9
7 神坂 忠一 (立大) 1:04.5

200m バタフライ

予選A

- 1 飯田 智康 (法大) 2:21.8
2 新井 沐 (京大丸) 2:27.8

B

- 1 上田 紀男 (法大) 2:27.0
2 金親 義弘 (日大) 2:27.6
3 鈴木 竜蔵 (白水会) 2:28.8
4 芥川己之助 (三水会) 2:36.7

C

- 1 井筒 賢造 (稲泳会) 2:20.1
2 三好 恭弘 (白水会) 2:25.1
3 遠藤 英康 (日大) 2:30.3
4 藤田 修孝(日大豊山高) 2:33.9
5 来栖 寛 (天理大) 2:34.8

D

- 1 田中 英雄 (稲泳会) 2:24.7
2 富安 守弘 (白水会) 2:28.4
3 須藤 洋一 (駿台グ) 2:29.2

E

- 1 岩本 光司 (稲泳会) 2:25.0
2 馬場 政義 (白水会) 2:32.2

F

- 1 L・ジュルホフ (アメリカ)
2:19.2
2 増永 文昭 (日本鉱業) 2:19.6
3 杉本 紘一 (稲泳会) 2:22.2
4 水野 隆晴 (駿台グ) 2:31.5

決勝

- 1 L・ジュルホフ (アメリカ)
2:16.6
2 増永 文昭 (日本鉱業) 2:18.3
3 井筒 賢造 (稲泳会) 2:18.4
4 杉本 紘一 (") 2:21.5
5 飯田 智康 (法大) 2:22.8
6 田中 英雄 (稲泳会) 2:22.9
7 三好 恭弘 (白水会) 2:23.9
8 上田 紀男 (法大) 2:26.1
9 岩本 光司 (稲泳会) 2:27.6

100m 背泳

予選A

- 1 五十嵐武清 (日大) 1:05.4
2 国清 勲 (稲泳会) 1:08.3
3 田中 透 (日大) 1:10.0

B

- 1 伊藤 圭裕 (稲泳会) 1:05.6
2 富田 一雄 (BSタイヤ) 1:06.9
3 三杉 庄司 (天理高) 1:07.7
4 坂口 達也 (白水会) 1:10.1

C

- 1 福島 滋雄 (日大) 1:03.8
2 勝又 完一 (駿台グ) 1:07.6
3 古賀 宣樹 (国士館大) 1:08.1
4 角間 三雄 (稲泳会) 1:08.4
5 管 征天 (白水会) 1:09.2

D

- 1 渡辺 和夫 (東京トヨペ) 1:05.1
2 松田 史剛 (立大) 1:10.9

E

- 1 片岡 輝男 (立大) 1:06.5
2 青木 守喬 (日大豊山高) 1:09.7

F

- 1 林 祐士郎 (白水会) 1:06.9
2 T.ステックルス(アメリカ) 1:07.7
3 田中 広征 (稲泳会) 1:08.7
4 大隅 潔 (駿台グ) 1:09.3

準決勝A

- 1 福島 滋雄 (日大) 1:04.9
2 伊藤 圭祐 (稲泳会) 1:07.2
3 片岡 輝男 (立大) 1:07.2
4 勝又 完一 (駿台グ) 1:07.3
5 三杉 庄治 (天理高) 1:07.9
6 国清 勲 (稲泳会) 1:07.8
7 角間 三雄 (") 1:08.5

B

- 1 渡辺 和夫 (東京トヨペ) 1:04.9
2 富田 一雄 (BSタイヤ) 1:05.3
3 T.ステックルス(アメリカ) 1:06.0
4 五十嵐武清 (日大) 1:06.2
5 林 祐士郎 (白水会) 1:06.7
6 古賀 宣樹 (国士館大) 1:08.1
7 田中 広征 (稲泳会) 1:08.7

決勝

- 1 福島 滋雄 (日大) 1:04.0
2 渡辺 和夫 (東京トヨペ) 1:04.6
3 富田 一雄 (BSタイヤ) 1:04.7
4 T.ステックルス(アメリカ) 1:05.3
5 伊藤 圭祐 (稲泳会) 1:05.7
6 五十嵐武清 (日大) 1:06.1
7 片岡 輝男 (立大) 1:07.7

200m 背泳

予選A

- 1 国清 清 (稲泳会) 2:28.3
2 渡辺 和夫 (東京トヨペ) 2:28.6
3 田中 透 (日大) 2:33.7
4 宮良 高志 (日大豊山高) 2:35.1
5 井上 彬 (白水会) 2:35.3

B

- 1 五十嵐武清 (日大) 2:25.8
2 角間 三雄 (稲泳会) 2:27.0
3 坂口 達也 (白水会) 2:33.6
4 青木 守喬 (日大豊山高) 2:36.0

C

- 1 富田 一雄 (BSタイヤ) 2:23.1
2 伊藤 圭祐 (稲泳会) 2:24.9
3 三杉 庄治 (天理高) 2:28.3
4 古賀 宣樹 (国士館大) 2:35.4

5 菅 征夫 (白水会) 2:35.6

D

1 福島 滋雄 (日 大) 2:17.8

2 田中 広征 (稲泳会) 2:32.7

3 糸井 晶 (東教大) 2:35.3

E

1 T.ステックルス(アメリカ)2:23.4

2 大隅 潔 (駿台ク) 2:28.4

3 林 祐士郎 (白水会) 2:29.6

決勝

1 福島 滋雄 (日 大) 2:16.8

2 T・ステックルス (アメリカ)
2:21.0

3 富田 一雄 (BSタイヤ) 2:22.2

4 伊藤 圭祐 (稲泳会) 2:22.8

5 五十嵐武清 (日 大) 2:25.6

6 角間 三雄 (稲泳会) 2:26.3

7 大隅 潔 (駿台ク) 2:27.9

8 国清 勲 (稲泳会) 2:28.5

9 三杉 庄治 (天理高) 2:28.5

400m 個人メドレー

決勝

1 T・ステックルス (アメリカ)
5:02.4

1:06.7 2:25.5 3:50.4

2 C・ジャストレムスキー
(アメリカ) 5:21.7

3 高嶺 隆二 (三水会) 5:29.1

4 丸山 長敏 (BSタイヤ) 5:31.3

5 靱山 稔 (日本鋼管) 5:31.7

6 田中 透 (日 大) 5:37.8

7 田井 次郎 (法 大) 5:42.5

8 糸井 晶 (東教大) 5:44.8

9 坂口 達也 (白水会) 5:48.1

400m メドレーリレー

1 福島・中川・井筒・後藤
(大 学) 4:12.7

2 渡辺・中野・増永・石原
(実 業 団) 4:13.2

3 伊藤・松本・杉本・田代
(大学新人) 4:22.1

参考: T・ステックルス

C・ジャストレムスキー

L・ジュルホフ

S・ジャックマン 4:08.3

女 子 の 部

100m 自由形

1 佐藤 喜子 (ロート製薬) 1:05.4

2 辻本 妙子 (五 条 高) 1:08.5

3 島川 浩子 (白 木 屋) 1:10.9

4 菊谷多鶴子 (五 条 高) 1:10.9

5 常田 汐子 (二階堂高) 1:11.1

6 東 美代子 (五 条 高) 1:11.5

7 宮崎孔美子 (白 木 屋) 1:12.6

200m 自由形

1 佐藤 喜子 (ロート製薬) 2:22.8

2 小林由美子 (ロート製薬) 2:30.7

3 早川 一枝 (富 士 中) 2:30.9

4 辻本 妙子 (五 条 高) 2:32.0

5 高松 千歳 (宇部興産) 2:33.0

6 石渡 雅子 (天 理 水) 2:34.0

7 常田 汐子 (二階堂高) 2:37.1

8 寺井 貴子 (ロート製薬) 2:37.8

9 菊谷多鶴子 (五 条 高) 2:39.7

400m 自由形

1 江坂 君子 (ロート製薬) 5:10.1

2 早川 一枝 (富 士 中) 5:16.5

3 小林由美子 (ロート製薬) 5:17.8

4 高松 千歳 (宇部興産) 5:18.3

5 石渡 雅子 (天 理 水) 5:28.5

6 常田 汐子 (二階堂高) 5:30.4

7 寺井 貴子 (ロート製薬) 5:37.1

8 新子 正子 (五 条 高) 5:41.6

100m 平 泳

1 岡本 玲子 (鳥取東高) 1:27.3

2 石川海紀子 (宇部興産) 1:27.7

3 山崎 幸子 (東京大丸) 1:28.0

4 高野美代子 (東 田 中) 1:28.9

5 渡辺 和子 (ロート製薬) 1:29.8

6 阿部 和子 (二階堂高) 1:30.8

7 小牧 敬子 (白 木 屋) 1:32.1

200m 平 泳

1 石川海紀子 (宇部興産) 3:06.6

2 山崎 幸子 (東京大丸) 3:08.1

3 河合 和美 (ロート製薬) 3:10.2

4 岡本 玲子 (鳥取東高) 3:11.5

5 高野美代子 (東 田 中) 3:12.1

6 佐藤 園子 (二階堂高) 3:13.5

7 渡辺 和子 (ロート製薬) 3:13.5

8 吉岡 羽衣 (帝塚山高) 3:16.0

9 小牧 敬子 (白 木 屋) 3:17.1

100m バタフライ

1 中西美智代 (五 条 高) 1:15.5

2 山田佐代子 (ロート製薬) 1:15.8

3 黒田 栞子 (天 理 水) 1:18.4

4 土屋 節子 (二階堂高) 1:20.6

5 村松美智子 (ロート製薬) 1:22.2

6 森下多恵子 (天 理 水) 1:23.3

7 麻生真由美 (横 学 中) 1:24.9

200m バタフライ

1 中西美智代 (五 条 高) 2:50.2

2 黒田 栞子 (天 理 水) 2:54.8

3 山田佐代子 (ロート製薬) 2:55.0

4 森下多恵子 (天 理 水) 3:19.5

100m 背 泳

1 四本 博美 (日 体 大) 1:17.0

2 松永 涼子 (ロート製薬) 1:18.6

3 中島 孝子 (横 学 高) 1:19.9

4 水落志信美 (成 女 中) 1:19.9

5 岡田八詠子 (五 条 高) 1:20.3

6 金井 厚子 (二階堂高) 1:22.9

7 山中サカエ (成 徳 高) 1:24.4

200m 背 泳

1 四本 博美 (日 体 大) 2:44.7

2 中島 孝子 (横 浜 学) 2:51.1

3 松永 涼子 (ロート製薬) 2:52.3

4 岡田八詠子 (五 条 高) 2:56.4

5 金井 厚子 (二階堂高) 2:59.1

6 山中サカエ (成 徳 高) 3:02.3

7 多田美美代 (羽 衣 中) 3:02.8

200m個人メドレー

1 江坂 君子 (ロート製薬) 2:46.9

2 村松美智子 (") 2:58.2

3 内野 典子 (東 田 中) 3:05.8

4 木村 遊子 (") 3:06.4

5 田中 清恵 (日本生命) 3:08.2

6 麻生真由美 (横浜学中) 3:14.4

関 西 選 手 権

6月22日 23日 24日

大阪プール (50m) 公認

気温 20° 25° 25.1°

水温 21.5° 22.5° 22.5°

男子の部

100m 自由形

1	池田 芳玄 (天理大)	59.1
2	沢村 彰夫 (大丸京都)	59.5
3	田上 一雄 (日新製鋼)	1:00.4
4	深谷 寿邦 (弦泳会)	1:01.1
5	寺下 敏一 (天理大)	1:01.5
6	前田 正明 (桜宮高)	1:02.4
7	山本 新吾 (東邦商会)	1:02.4
8	諸戸 徳雄 (県西宮高)	1:02.8

200m 自由形

1	講本 昌男 (同大)	2:07.8
2	池田 芳玄 (天理大)	2:12.8
3	三浦 秀文 (天理高)	2:15.9
4	深谷 寿邦 (弦泳会)	2:16.2
5	湊 勝治 (天理高)	2:18.7
6	刈屋 長彦 (弦泳会)	2:18.9
7	中村 宏禎 (天理高)	2:20.4

400m 自由形

1	講本 昌男 (同大)	4:42.0
2	藤田 昌計 (川崎重工)	4:47.6
3	中野 悟 (桜宮高)	4:49.1
4	浜田 広幸 (芦泳会)	4:58.4
5	村田 稔彦 (天理大)	4:59.5
6	坂田 正明 (同大)	5:01.0
7	岩村 和平 (姫工大付高)	5:01.4

1500m 自由形

1	藤川 昌計 (川崎重工)	19:03.6
2	中野 悟 (桜宮高)	19:45.8
3	坂田 正明 (同大)	19:59.8
4	浜田 広幸 (芦泳会)	20:06.4
5	岩村 和平 (姫工大付高)	20:26.7
6	杉山 禎彦 (同大)	20:27.3
7	梅本 三郎 (伊都高)	20:29.3

100m 平泳

1	西口 寿悦 (弦泳会)	1:17.2
2	栗林 徳治 (五条高)	1:17.6
3	折戸 博 (桜宮高)	1:17.9
4	西前 彰一 (天理大)	1:18.5
5	八神 堅固 (東住吉高)	1:18.5

200m 平泳

1	西前 彰一 (天理大)	2:47.3
2	溝脇 国和 (伊都高)	2:48.5
3	栗林 徳治 (五条高)	2:48.5
4	前田 治 (天理高)	2:48.5
5	山田 一男 (")	2:48.5
6	中山 尚武 (同大)	2:48.6
7	中西 孝典 (天理高)	2:52.2

100m バタフライ

1	新井 沐 (大丸京都)	1:05.4
2	来栖 寛 (天理大)	1:05.4
3	乾野 正之 (天理高)	1:05.4
4	安井 清雄 (同大)	1:06.3
5	岩岡 祐一 (同大)	1:06.8
6	坂本 憲正 (桜宮高)	1:07.4
7	広田 勝 (天理高)	1:09.6

200m バタフライ

1	岩岡 祐一 (同大)	2:27.6
2	安井 清雄 (同大)	2:27.7
3	新井 沐 (大丸京都)	2:28.9
4	来栖 寛 (天理大)	2:29.9
5	坂本 憲正 (桜宮高)	2:31.8
6	金沢 宏久 (姫工大付高)	2:34.4
7	桑原 征平 (京都西高)	2:38.7
8	相模 弘四 (五条高)	2:41.5

400m 個人メドレー

1	林 正友 (天理大)	5:43.4
2	井上富美造 (東山高)	5:45.3
3	小林 東明 (弦泳会)	5:57.6
4	石村 興二 (弦泳会)	6:01.7
5	岩岡 祐一 (同大)	6:01.8
6	杉村 徹治 (都島工高)	6:09.0
7	辻本 好一 (伊都高)	6:13.6

100m 背泳

1	井上富美造 (東山高)	1:07.7
2	三杉 庄治 (天理高)	1:08.9
3	小林 東明 (弦泳会)	1:09.7
4	宮崎 勝利 (天理高)	1:11.1
5	飯守 一郎 (伊都高)	1:12.8

200m 背泳

1	井上富美造 (東山高)	2:33.6
2	小林 東明 (弦泳会)	2:35.0
3	山中 巖 (天理大)	2:39.2
4	飯守 一郎 (伊都高)	2:40.0
5	柿本 伸 (天理大)	2:41.2
6	芦田 一郎 (同大)	2:41.2
7	梶山 武雄 (芦泳会)	2:42.7
8	成清一二三 (大丸京都)	2:42.8

800m リレー

1	坂田・田村・奥田・講本 (同大)	9:12.6
2	三浦・中村・湊・有馬 (天理高A)	9:17.6
3	村田・寺下・来栖・池田 (天理大)	9:21.0
4	刈屋・深谷・石村・崎山 (弦泳会)	9:26.8
5	宅川・中村・有馬・竹 (天理高B)	9:27.2
6	浜田・山本・横田・西川 (芦泳会)	9:30.3
7	中野・藤木・前田・東 (桜宮高)	9:33.6
8	相賀・浜元・杉村・原 (都島工高)	9:49.7
9	梅本・向・西畑・名倉 (伊都高)	9:51.6

400m メドレーリレー

1	柿本・西前・来栖・池田 (天理大)	4:34.6
2	成清・坂井・新井・沢村 (大丸京都)	4:35.0
3	芦田・中山・岩岡・講本 (同大A)	4:36.4
4	小林・西口・福本・深谷 (弦泳会)	4:39.1
5	村上・福本・安井・坂田 (同大B)	4:43.4

- 6 水柳・栗林・相模・中井
(五 条 高) 4:44.0
- 7 辻・折戸・坂本・前田
(桜宮高A) 4:50.5
- 8 橋本・伏木・平井・中野
(桜宮高B) 4:59.1
- 9 飯守・藪本・溝脇・向
(伊 都 高) 4:59.9

女子の部

100m 自由形

- 1 佐藤 喜子 (ロート製薬) 1:05.1
- 2 小林由美子 (") 1:08.2
- 3 辻本 妙子 (五 条 高) 1:08.5
- 4 大高 幸子 (東 洋 レ) 1:09.2
- 5 東 美代子 (五 条 高) 1:09.7
- 6 高野 洋子 (淑徳短大) 1:10.3
- 7 菊谷多鶴子 (五 条 高) 1:10.3

200m 自由形

- 1 佐藤 喜子 (ロート製薬) 2:23.4
- 2 大高 幸子 (東 洋 レ) 2:30.9
- 3 小林由美子 (ロート製薬) 2:31.0
- 4 辻本 妙子 (五 条 高) 2:32.4
- 5 村松美智子 (ロート製薬) 2:34.2
- 6 菊谷多鶴子 (五 条 高) 2:35.1
- 7 高野 洋子 (淑徳短大) 2:36.4
- 8 東 美代子 (五 条 高) 2:36.9
- 9 原 富子 (東 洋 レ) 2:37.0

400m 自由形

- 1 江坂 君子 (ロート製薬) 5:15.0
- 2 石渡 雅子 (太 理 大) 5:21.8
- 3 寺井 貴子 (ロート製薬) 5:23.1
- 4 新子 正子 (五 条 高) 5:34.2
- 5 後藤 章子 (") 5:38.4
- 6 齋藤 妙子 (東 中) 5:39.9
- 7 加藤 靖子 (ロート製薬) 5:41.4
- 8 清水 善子 (皇子山中) 5:58.4

800m 自由形

- 1 江坂 君子 (ロート製薬) 11:03.8
- 2 石渡 雅子 (天 理 大) 11:12.9
- 3 寺井 貴子 (ロート製薬) 11:20.5
- 4 新子 正子 (五 条 高) 11:31.2
- 5 齋藤 妙子 (東 中) 11:40.9
- 6 後藤 章子 (五 条 高) 11:41.9
- 7 玉井 伸子 (五 条 中) 12:37.2
- 8 天野二三子 (小川ポンプ) 12:40.4

- 9 安宅ひろ子 (鳳 高) 13:42.8

100m 平 泳

- 1 青木 幸子 (東 洋 レ) 1:26.3
- 2 河合 和美 (ロート製薬) 1:28.7
- 3 渡辺 和子 (") 1:29.4
- 4 田中 清恵 (日本生命) 1:29.7
- 5 川西 繁子 (五 条 中) 1:29.9
- 6 中井 宏子 (") 1:31.3
- 7 金山 進玉 (五 条 高) 1:32.4

200m 平 泳

- 1 青木 幸子 (東 洋 レ) 3:02.7
- 2 河合 和美 (ロート製薬) 3:08.5
- 3 渡辺 和子 (") 3:13.5
- 4 今出百合子 (天 理 中) 3:15.6
- 5 川西 繁子 (五 条 中) 3:16.1
- 6 黒川 重 (八 尾 高) 3:17.4
- 7 吉岡 初衣 (帝塚山高) 3:17.7
- 8 玉井 恵子 (天 理 高) 3:18.3
- 9 青木 敏子 (伊 都 高) 3:20.4

100m バタフライ

- 1 中西美智代 (五 条 高) 1:14.2
- 2 山田佐代子 (ロート製薬) 1:15.5
- 3 和田 靖子 (東 洋 レ) 1:16.3
- 4 黒田 梶子 (天 理 大) 1:17.9
- 5 加藤 靖子 (ロート製薬) 1:20.2
- 6 松岡 明子 (東 洋 レ) 1:20.6
- 7 西本 淑子 (五 条 高) 1:21.3

200m バタフライ

- 1 中西美智代 (五 条 高) 2:49.7
- 2 山田佐代子 (ロート製薬) 2:55.0
- 3 黒田 梶子 (天 理 大) 2:56.3
- 4 和田 靖子 (東 洋 レ) 2:58.6
- 5 西本 淑子 (五 条 高) 3:03.8
- 6 佐藤 公子 (天 理 高) 3:04.2
- 7 松岡 明子 (東 洋 レ) 3:04.2
- 8 高岸 勝子 (大丸京都) 3:15.3
- 9 佐合井悦子 (皇子山中) 3:28.6

100m 背 泳

- 1 松永 涼子 (ロート製薬) 1:17.5
- 2 岡田八詠子 (五 条 高) 1:18.2
- 3 片岡 幸子 (日本生命) 1:21.0
- 4 林 かほり (東 洋 レ) 1:21.5
- 5 齋田美佐子 (天 理 高) 1:24.0
- 6 多田美美子 (羽 衣 中) 1:25.4
- 7 松本 信子 (天 理 大) 1:27.3

200m 背 泳

- 1 松本 涼子 (ロート製薬) 2:47.9
- 2 岡田八詠子 (五 条 高) 2:51.4
- 3 林 かほり (東 洋 レ) 2:57.0
- 4 片岡 幸子 (日本生命) 2:58.5
- 5 多田美美子 (羽 衣 中) 3:04.4
- 6 松本 信子 (天 理 大) 3:09.0
- 7 志村 早苗 (日 清 紡) 3:13.3

400m リレー

- 1 寺井・小林・江坂・佐藤
(ロート製薬) 4:32.6
- 2 東・辻本・菊谷・新子
(五 条 高) 4:37.9
- 3 清水・樋口・岩淵・北川
(皇子山中) 5:18.4
- 4 河合・横山・弓削・原田
(成蹊学A) 5:26.3
- 5 箕浦・河野・黒木・国井
(成蹊学B) 5:58.5
- 6 中野・大久保・遠藤・安宅
(鳳 高) 6:27.6

400m メドレーリレー

- 1 松永・河合・山田・佐藤
(ロート製薬) 5:09.3
- 2 岡田・金山・中西・辻本
(五 条 高) 5:15.2
- 3 齋田・玉井・佐藤・石渡
(天 理 学) 5:30.2
- 4 長谷川・北村・佐合井・清水
(皇子山中) 5:51.3
- 5 大久保・山田・山添・原田
(成蹊学A) 6:07.2
- 6 中村・雨田・大橋・乗光
(桜 宮 高) 6:24.8
- 7 西山・久保・青木・北野
(伊都高B) 6:38.5
- 8 林・森・松井・横山
(成蹊学B) 6:38.5

400m 個人メドレー

- 1 江坂 君子 (ロート製薬) 5:59.8
- 2 村松美智子 (") 6:17.5
- 3 加藤 靖子 (") 6:31.8
- 4 竹内 民子 (須磨女高) 7:49.7

早大対全九州対抗競技大会

6月9日 東伏見早大プール(50m) 公認

気温 23° 水温 20°

100m 自由形

- 1 福井 誠 (全九州) 56.6
(大会タイ)
- 2 石原 勝記 (全九州) 56.6
(大会タイ)
- 3 竹本 昭和 (早大) 57.9
- 4 田代 信一 (早大) 58.3
- 5 岩崎 邦宏 (全九州) 60.3
- 6 柳谷 透 (早大) 60.3

200m 自由形

- 1 福井 誠 (全九州) 2:03.4
(大会新)
- 2 岡部 幸明 (早大) 2:05.5
- 3 石原 勝記 (全九州) 2:07.2
- 4 門口 伯康 (早大) 2:09.6
- 5 竹本 昭和 (早大) 2:11.1
- 6 岩崎 邦宏 (全九州) 2:12.2

400m 自由形

- 1 吉無田春男 (全九州) 4:30.8
- 2 岡部 幸明 (早大) 4:33.5
- 3 梅本 利三 (早大) 4:33.9
- 4 庄司 敏夫 (全九州) 4:34.5
- 5 門口 伯康 (早大) 4:38.4
- 6 浦 満広 (全九州) 4:40.3

800m 自由形

- 1 庄司 敏夫 (全九州) 9:36.4
- 2 梅本 利三 (早大) 9:39.1
- 3 浦 満広 (全九州) 9:49.6
- 4 奥田 桂次 (早大) 9:55.1
- 5 山田 忠信 (早大) 9:59.8
- 6 木田 和夫 (全九州) 10:06.7

100m 平泳

- 1 松本健次郎 (早大) 1:11.4
(大会新)
- 2 重松 盛 (全九州) 1:12.8
(")

- 3 中川 清 (早大) 1:12.9
(")
- 4 山南 宏一 (全九州) 1:14.9
- 5 加藤 浩時 (早大) 1:15.8
- 6 鈴木 吉孝 (全九州) 1:17.3
- 7 吉田 正明 (全九州) 1:16.2
(オープン)

200m 平泳

- 1 松本健二郎 (早大) 2:33.5
(日本新)
- 2 重松 盛人 (全九州) 2:38.5
(大会新)
- 3 中川 清 (早大) 2:41.5
- 4 山南 宏一 (全九州) 2:43.6
- 5 加藤 浩時 (早大) 2:45.3
- 6 吉田 正明 (全九州) 2:45.3
- 7 鈴木 吉孝 (") 2:51.1
(オープン)

100m バタフライ

- 1 井筒 賢造 (早大) 1:02.3
(大会新)
- 2 佐藤 好助 (全九州) 1:02.7
- 3 大賀 睦郎 (全九州) 1:02.7
- 4 伊藤 圭祐 (早大) 1:02.7
- 5 岩本 光司 (早大) 1:02.7
- 6 増永 文昭 (全九州) 1:02.7
- 7 田中 英雄 (早大) 1:02.8

200m バタフライ

- 1 佐藤 好助 (全九州) 2:18.0
(大会新)
- 2 井筒 賢造 (早大) 2:18.0
(大会新)
- 3 吉無田春男 (全九州) 2:19.4
(大会新)
- 4 田中 英雄 (早大) 2:19.5
(大会新)

- 5 増永 文昭 (全九州) 2:21.5
- 6 岩本 光司 (早大) 2:26.8
- 7 大賀 睦郎 (全九州) 2:25.7
(オープン)

100m 背泳

- 1 伊藤 圭祐 (早大) 1:05.5
(大会新)
- 2 中原 紀 (全九州) 1:06.3
- 3 田中 広征 (早大) 1:07.8
- 4 角間 三雄 (早大) 1:08.4
- 5 三木 隆二 (全九州) 1:08.5
- 6 酒井 (全九州) 1:08.6

200m 背泳

- 1 伊藤 圭祐 (早大) 2:22.8
(大会新)
- 2 中原 紀 (全九州) 2:23.5
(大会新)
- 3 角間 三雄 (早大) 2:26.5
- 4 国清 勲 (早大) 2:26.6
- 5 酒井 (全九州) 2:29.2
- 6 三木 隆二 (全九州) 2:34.9

200m リレー

- 1 早大チーム (大会新) 1:42.4
(田代・岡部・竹本・梅本)
- 2 全九州チーム (大会新) 1:42.5
(石原・庄司・岩崎・福井)

400m メドレーリレー

- 1 早大チーム 4:15.6
(伊藤・松本・岩本・田代)
(大会新)
- 2 全九州チーム 4:19.6
(三木・山南・大賀・岩崎)
(大会新)

得点

早大 120点
全九州 108点

日本競泳史上女子50傑 (12)

(昭和37年5月20日現在)

◎左肩に(世)とあるは当時の世界記録。(日)とあるは日本記録。

◎順位は同記録のものは同位とした。ただし2回出したものはその上位とした。

◎記録のところに(2)とあるは最高記録を2回出したもの、(3)とあるは3回出したもの、表には先に出したもののみを記した。

なお本表も回を重ねて12回、一応主な種目を終わりましたので今回を以て打切ります。本表を基として毎年発表の公式記録により新たに作成されるのも一興かと存じます。御愛読を感謝致します。(島田)

10.0 m 背 泳

順位	氏名	年令	所属	時間	場所	年月日	会名
(日) 1	田中 聰子	18	日本	1:11.2②	ローマ	35-8-30	オリンピック
2	橋本 須美恵	19	小川ポンプ	1:16.6	大阪	33-9-7	関西女子
3	四本 博美	19	日体大	1:16.9	神宮	36-7-28	日本選手権
4	松元 妙子	18	旭化成	1:18.1	"	"	"
5	松永 涼子	18	天理高	1:18.6	天理	36-8-25	国体奈良
6	林 かほり	18	淑徳高	1:19.2②	金沢	36-8-20	日本高校
6	岡本 節子	18	日本	1:19.3	都屋内	33-5-30	アジア競技
8	村瀬 里子	20	天理大	1:19.4	天理	33-8-26	天理体育
	中島 孝子	16	神奈川県	1:19.4	若松	36-9-17	国体女子
10	岡田 八詠子	16	五条高	1:19.8	金沢	36-8-20	日本高校
11	水落 志保美	14	成女中	1:19.9	都屋内	37-5-2	室内選手権
12	田淵 恵子	17	五条高	1:20.1	大阪	33-6-28	関西選手権
13	佐藤 礼子	17	"	1:20.4	浜松	34-8-23	日本高校
14	雑賀 佳子	18	天理高	1:20.6②	大阪	32-9-8	関西女子
(日) 15	森前 みどり	17	伊都高	1:20.6	神宮	28-7-31	日本選手権
16	片岡 幸子	19	大阪府	1:21.9	若松	36-9-17	国体女子
17	安藤 清子	19	天理水	1:22.0④	天理	30-6-21	天理記録会
18	定森 桂子	18	日本	1:22.1	マニラ	29-5-7	アジア競技
19	金井 厚子	17	二階堂高	1:22.3	都屋内	37-5-2	室内選手権
20	門田 とみよ	17	土佐女高	1:22.4	高知	35-8-31	国体高知
21	大岩 香苗	17	椋山高	1:22.6	淑徳	36-9-24	合宿記録会
	大宮 美枝子	14	淑徳中	1:22.6	"	"	"
23	新実 里美	18	東洋レ	1:22.7②	大阪	32-9-8	関西女子
	小池 久子	17	東京都	1:22.7	神宮	34-9-23	国体女子
(日) 25	野口 幸子	16	相愛高	1:22.8②	大阪	26-9-9	近畿高校
	江原 紀久子	18	東洋レ	1:22.8②	"	34-8-9	大阪勤労者
27	多田 悦子	20	天理水	1:22.8	天理	29-10-3	奈良選手権
	坪井 查雅子	18	五条高	1:22.8	"	30-8-23	日米交歓
29	鈴木 育子	17	大宮高	1:23.2	大宮	35-9-4	国体埼玉
30	山中 サカエ	15	成徳高	1:23.4	神宮	35-8-28	国体東京

順位	氏名	年齢	所属	時間	場所	年月日	会名
31	岸 赫子	16	愛知県	1:23.5	熊本	35-9-26	国体女子
32	社本良江	16	淑徳高	1:23.6	神宮	35-8-21	日本高校
	瀬戸隆子	18	福岡県	1:23.6	若松	36-9-16	国体女子
34	荒川照子	19	宮崎県	1:23.9	浜松	32-9-25	"
35	平尾静子	17	横浜学園	1:24.0③	水戸	29-8-8	関東高校
36	片岡澄子	18	天理大	1:24.0②	天理	26-9-30	奈良選手権
37	山本淳子	15	帝塚山高	1:24.0	大阪	32-9-8	関西女子
38	那須幹子	17	香川県	1:24.1	高岡	33-9-16	国体女子
39	佐藤良美	20	天理大	1:24.2	大阪	36-8-12	関西女子
40	福井フミ子	16	天王寺高	1:24.3	"	31-9-2	大阪高校
41	志村早苗	17	日清紡	1:24.4	岡山	36-9-1	全国勤労者
(日)42	小椋とみ子	18	成徳高	1:24.6	呉市	35-8-20	日本高校
43	永瀬美代子	18	天理水	1:24.8	天理	28-6-27	関西選手権
44	瀬崎淳子	13	梶山中	1:24.9	振甫	36-8-5	愛知中学
	森茂子	20	三菱銀行	1:24.9	岡山	36-9-3	全国勤労者
46	佐藤喜子	18	奈良区	1:25.0	天理	31-7-27	天理教体育
	杉元丸美	19	宮崎県	1:25.0	旭化成	32-7-14	九州各県
	小早川綾子	17	鹿本高	1:25.0	別府	33-8-3	九州高校
(日)49	横田みさを	15	日本	1:25.1	口ス	7-8-9	オリンピック
50	佐竹富美子	19	滋賀県	1:25.2	呉市	26-9-23	国体女子
	浦上凉子	14	筑紫女中	1:25.2	浜松	36-8-24	全国中学
	宮井春代	16	朝羽高	1:25.2	瀬高	36-8-31	福岡学年別
	国府淳子	15	筑紫女高	1:25.2	"	"	"
	臼井和枝	17	二階堂高	1:25.2	神宮	36-9-23	東京高新人

200m 背 泳

(世日) 1	田中聡子	19	八幡製鉄	2:33.2	神宮	36-7-30	日本選手権
2	四本博美	20	日体大	2:44.7	都屋内	37-5-3	室内選手権
3	橋本須美恵	19	小川ポンプ	2:46.7	大阪	33-9-7	関西女子
4	松永涼子	18	天理高	2:48.0	"	36-8-5	近畿高校
5	松元妙子	18	旭化成	2:49.2	神宮	36-7-30	日本選手権
6	中島孝子	17	横浜学園	2:51.1	都屋内	37-5-3	室内選手権
7	田淵恵子	17	五条高	2:51.4	大阪	33-6-29	関西選手権
8	佐藤礼子	17	"	2:51.7	浜松	34-8-22	日本高校
9	村瀬里子	21	天理大	2:52.5	旭化成	34-8-1	天理対九州
10	林かほり	18	淑徳高	2:52.8	小松	36-8-2	中部高校
11	岡本節子	17	五条高	2:53.1②	神宮	32-8-18	日本選手権
12	岡田八重子	16	"	2:53.7	"	36-7-30	"
13	雑賀佳子	19	天理高	2:55.4	布施	33-8-9	近畿高校
14	大宮美枝子	14	淑徳中	2:55.7	淑徳	36-9-24	合宿記録会

順位	氏名	年齢	所属	時間	場所	年月日	会名
15	小池久子	17	二階堂高	2:56.9	浜松	34-8-22	日本高校
16	荒川照子	19	宮崎県	2:57.8	旭化成	32-7-14	九州各県
17	金井厚子	16	二階堂高	2:58.1	金沢	36-8-18	日本高校
(日)18	森前みどり	18	日本	2:58.2	マニラ	29-1-7	比島選手権
19	江原紀久子	19	東洋レ	2:58.8	神宮	35-7-24	日本選手権
20	新実里美	18	"	2:59.6	大阪	32-8-3	大阪選手権
21	門田とみよ	17	土佐女	2:59.8	高知	35-9-15	高知県体育校
22	山中サカエ	15	成徳高	3:00.1	神宮	35-8-19	日本高校
(日)23	多田悦子	18	天理水	3:00.4	天理	28-6-14	天理記録会
24	坪井查雅子	22	天理大	3:00.7	神宮	34-7-12	日本選手権
25	福井フミ子	17	天王寺高	3:01.9	大阪	32-9-1	大阪高校
	国府淳子	15	筑紫女高	3:01.9	大牟田	36-8-4	九州高校
27	山本淳子	16	帝塚山高	3:02.2	高知	33-8-24	日本高校
28	岸赫子	16	椛山高	3:02.5	小松	36-8-2	中部高校
29	吉田せつ子	21	東洋レ	3:02.6	大阪	33-9-7	関西女子
30	松本信子	16	天理水	3:02.7	"	35-6-25	関西選手権
	大岩香苗	16	椛山高	3:02.7	岐阜	35-8-2	中部高校
32	多田芙美代	14	羽衣中	3:02.8	都屋内	37-5-3	室内選手権
33	林君子	17	朝羽高	3:03.0	宮崎	35-8-5	九州高校
34	鈴木育子	17	大宮高	3:03.3②	神宮	35-8-19	日本高校
35	瀬戸隆子	18	宗像高	3:03.6	金沢	36-8-19	"
	臼井和枝	17	二階堂高	3:03.6	"	"	"
37	杉元丸美	19	旭化成	3:03.7②	神宮	32-8-16	日本選手権
38	浦上涼子	14	筑紫女中	3:03.9	大阪	36-6-25	関西選手権
39	社本良江	16	淑徳高	3:04.1	浜松	35-6-11	浜名湾高校
40	相沢百美子	18	横浜学園	3:04.2	大宮	35-8-14	関東高校
41	新田春子	15	進徳高	3:04.3	呉二河	35-7-30	中国高校
42	浜岡育美	18	二階堂高	3:04.4	神宮	35-7-26	東京高校
43	宮井春代	17	朝羽高	3:04.7	瀬高	37-5-13	九州中部高
44	成瀬美智代	18	淑徳高	3:04.9	振甫	34-8-10	中部高校
45	秋山邦枝	15	大嶺高	3:05.0	呉二河	35-7-30	中国高校
	久保田貴代恵	17	五条高	3:05.0	大阪	36-8-5	近畿高校
47	真野郁子	17	熊本県	3:05.2	佐世保南	33-7-6	九州各県会
48	三木富俱子	16	五条高	3:06.0	天理	32-6-7	奈良記録会
49	望月三枝子	15	成女高	3:06.2	大宮	35-8-14	関東高校
50	鏡味満子	17	椛山高	3:06.3	神宮	34-7-10	日本選手権
	藤原由美子	16	天理高	3:06.3	"	35-8-19	日本高校
	北川裕子	17	椛山高	3:06.3	小松	36-8-2	中部高校



坂本宗隆

南アメリカ

○南米選手権 2/16~25 ブエノス・アイレス 50m

100m自	1 M・ドス・サントス (伯)	55.5
	2 L・A・ニコラオ (亜)	57.2 57.5
200m自	1 " "	2:06.6 (南米新)
	2 M・ドス・サントス	2:07.3
400m自	1 L・A・ニコラオ	4:39.3
	2 M・ドス・サントス	4:39.8
1500m自	1 F・ナブコ (伯)	18:57.8
100m平	1 F・ザブリス (〃)	1:13.9
200m平	1 " "	2:43.9 (南米新)
100mバ	1 L・A・ニコラオ	59.7
200mバ	1 " "	2:21.5
100m背	1 P・E・ディズ (亜)	1:04.9 (南米新)
200m背	1 " "	2:23.7 (〃)
400m混	1 D・シメネス (ヴェネゼラ)	5:26.1
400m継	1 ブラシル	3:52.8 (南米新)
800m継	1 " "	8:54.2
400m混継	1 " "	4:16.8 (南米新)

得点: 1. ブラシル 181 2. アルゼンチン 179
3. ヴェネゼラ 50

○リオデジャネイロ 4/24 50m塩

100mバ	1 L・A・ニコラオ (亜)	58.4(世新)
-------	----------------	----------

○リオデジャネイロ 4/27 50m塩

100mバ	1 L・A・ニコラオ (亜)	57.0(世新)
-------	----------------	----------

アメリカ

○全米学生選手権 3/29~31 オハイオ州大学 25y

50y自	1 S・ジャックマン	21.1(学新)
------	------------	----------

	2 M・オーステイン	21.4
	3 J・ノーマン	22.2
100y自	1 S・ジャックマン	47.5
	2 M・オーステイン	47.4(学新) 48.7
	3 J・スプライツァー	49.5
220y自	1 " "	2:00.9
	2 D・ラウンサヴェル	2:01.7
	3 M・ウッド	2:02.9
440y自	1 M・ローズ (豪州)	4:20.0
	2 G・ハインリッヒ	4:22.4
	3 A・ブレアー (南ア)	4:25.2
1500m自	1 M・ローズ (豪州)	17:26.7
	2 G・ハインリッヒ	17:42.3
	3 D・ラウンサヴェル	17:43.7
100y平	1 R・ネルスン	1:01.7(学新)
	2 G・グリーン	1:02.0
	3 C・グリフィン	1:03.6
200y平	1 V・ルーケン	2:16.8
	2 R・ネルスン	2:17.2
	3 G・グリーン	2:17.8
100yバ	1 E・スペンサー	52.5(学新)
	2 D・マクドノオ	52.5(学新) 52.7
	3 A・ウォルフ	53.0
200yバ	1 " "	1:58.0
	2 D・マクドノオ	1:59.9
	3 A・カートライト	2:01.2
100y背	1 L・B・シェーファー	53.9(学新)
	2 J・グラーフ	54.1
	3 T・マソン	54.8
200y背	1 J・B・シェーファー	1:58.8
	2 J・グラーフ	1:58.7
	3 T・マソン	2:01.6
200y混	1 M・マール	2:02.3(学新)
	2 J・ケルソ	2:02.4
	3 J・ハウス	2:04.0
400y継	1 ミシガン州大	3:15.8(米新)
400y混継	1 オハイオ州大	3:37.6(〃)

得点: 1. オハイオ州大 92 2. 南加大 46
3. ミネソタ大 41.5 4. ミシガン大 32
5. プリンストン大 29 6. ミシガン州大 20

○全米室内選手権 4/5~7 パートルスヴィル (オクラホマ) 25y

100y自	1 S・ジャックマン	48.3
	2 S・クラーク	48.2 48.5
	3 M・オーステイン	48.5 48.8
220y自	1 R・サアリ	1:58.6(米新)

2 E・タウンSEND⑱	1:59.0
3 D・ショランダー⑲	1:59.3
4 J・コンラッズ(豪州)	2:01.3 2:01.4
5 S・ジャックマン	2:01.3 2:01.7
6 山中 毅(日本)	2:00.3 2:02.2

ローズ, クラーク, ブリック, ソマーズ等落選。

440Y自 1 R・サアリ	4:14.6(米新)
2 M・ローズ(豪州)	4:15.0
3 D・ショランダー	4:15.0
4 P・シンツ	4:17.1
5 山中 毅(日本)	4:19.4
6 A・ソマーズ	4:25.2

コンラッズ落選。

1500m自 1 R・サアリ	16:54.1(米新)
2 山中 毅(日本)	17:11.4
3 M・ローズ	17:19.9
4 K・ウエップ⑳	17:26.2
5 B・フォース	17:26.8
6 L・ストロー	17:29.2

コンラッズはこの種目にも落選。

100Y平 1 C・ジャストレムスキー	59.1(米新)
2 トレセウエイ㉑	1:01.5 1:01.8
3 K・ナカソネ	1:02.1

220Y平 1 C・ジャストレムスキー	2:25.3(米新)
2 ジャイブル	2:31.7
3 P・アンダースン	2:33.6 2:34.3

100Yバ 1 L・シュルホフ	52.1
2 F・シュミット	52.3
3 E・スペンサー	52.3

トロイ落選。

220Yバ 1 L・シュルホフ	2:10.7(米新)
2 M・トロイ	2:11.1
3 F・シュミット	2:11.5
4 C・ロビー	2:11.8

100Y背 1 R・ベネット	54.1
2 J・グラーフ	54.1
3 T・マン	54.8

220Y背 1 T・ストック	2:09.0(米新)
2 J・グリーフ	2:12.2
3 E・パーチェ	2:14.8

200Y混 1 C・ジャストレムスキー	1:59.4(米新)
2 T・スティックルス	2:01.1
3 J・ケルソ	2:02.5

400Y混 1 T・スティックルス	4:18.1(米新)
2 W・アトレ⑳	4:27.8
3 ケンドリック㉒	4:28.2

400Y継 1 サンタ・クララSC	3:17.4
400Y混継1 北カロライナAC	3:37.9
1m飛板 1 R・ウエプスター	463.95
2 J・ヴォゲル	455.80
3 R・オブライエン	446.25
3m飛板 1 R・ギルバート	542.55
2 T・ゴムプ	489.15
3 L・ヴィツシ	482.85

得点: 1. 南加大新人 34 1. 北カロライナAC 34
3. 南加大 32 4. サンタ・クララ 27.5
5. プリンストン大 17 6. インディアナAC 14

個人得点: R・サアリ } 21
C・ジャストレムスキー }

○グレンデール(加州) 5/下旬 50m

女 200m自 1 S・フィンネラン㉓	2:20.0
" 400m自 1 "	4:52.7
" 1500m自 1 "	19:23.4(米新)
" 200mバ 1 "	2:40.4
" 400m混 1 "	5:29.5(世新)

○シカゴ 6/30

400m混 1 T・スティックルス	4:51.4(世新)
-------------------	------------

去る5月末ヘッツ(西ド)に破られた世界記録をスティックルスはまた破り返したわけである。

○インディアナ大学記録会 7/12~13

ルイスヴィル 55Y

220Y平 1 C・ジャストレムスキー	2:33.8(世新)
110Yバ 1 L・シュルホフ	59.8(")
220Y背 1 T・ストック	2:13.8(")
440Y混 1 T・スティックルス	4:51.0(")
440Y混継1 インディアナ大学	4:09.3(")

(ストック, ジャストレムスキー, シュルホフ, シンツ)

ソ 連

○ブラウダ杯 4/中旬 モスクワ 50m

100m自 1 V・コノブレフ	56.4
200m平 1 G・プロコペンコ	2:35.4 2:34.0 (欧新) (欧新)
2 L・コレスニコフ	2:35.4(")
400m混 1 B・ニキーティン㉔	2:09.1 5:06.9 (欧新)

○モスクワ 4/24 50m

400m混継1 ソ 連	4:11.1(ソ新)
-------------	------------

(シーマル, コレスニコフ, クジミン, コノブレフ)

2 東 独	4:15.0
-------	--------

(ワグナー, ヘンニンガー, エンターライン, ヴィーガント)

○五国親善 5/下旬 モスクワ 50m

男子

100m自	1 H・J・クライン (西ド)	56.4
100m自	1 A・シャルューモン (波)	56.7
1500m自	1 P・ピカロフ (ソ)	18:26.4
200m平	1 L・コレスニコフ (")	2:35.9
	2 G・プロコベンコ (")	2:37.5
	3 Y・フニコフ (")	2:38.1
200mバ	1 V・クジミン (")	2:17.5
200m背	1 E-J・キュッパース (西ド)	2:17.8 (西ド新)
400m混	1 G・ヘッツ (")	4:53.8 (世新)

(バ 1:04.7, 背 1:15.9, 平 1:27.7, 自 1:05.5)

2 G・アンドロソフ (ソ) 5:07.2

400m継 1 西ド 3:45.5(欧新)

(ヤコブセン, ハヴァーカンプ,
ヘッツ, クライン)

2 ソ連 3:46.1(ソ新)

400m混継1 " 4:12.8

2 西ド 4:15.0

女子

100m自	1 P・サイニ (伊)	1:03.5(伊新)
400m自	1 M・ライラデル (典)	5:03.9
200m平	1 エゲルヴァリ (洪)	2:54.6
100mバ	1 K・ステンバック (典)	1:10.9
100m背	1 R-M・ピアセンティニ (仏)	1:11.5
200m背	1 " "	2:39.8
400m混	1 E・リュングレン (典)	5:47.3(典新)
400m継	1 スエーデン	4:22.7(")

イギリス

○カーディフ 4/28 55y

220y自	1 I・ブラック	2:02.6(欧新)
	(27.4 58.0 1:30.0 1:02.6)	

○英 145—122 西ド 6/ ブラックプール 55y S

男子

110y自	1 B・マクグレゴール (25.8)	56.5
	2 H・J・クライン (ド)	56.9
440y自	1 G・ヘッツ (")	4:23.3 (西ド新)
220yバ	1 " (")	2:21.1
220y背	1 E・J・キュッパース (")	2:22.4
440y混	1 G・ヘッツ (")	5:13.0
880y継	1 イギリス	8:30.5
440y混継1	1 西ド	4:17.8

女子

110y自	1 D・ウイルキンソン	29.3 1:02.4(欧新)
-------	-------------	-----------------

440y自	1 E・ロング	4:59.8
220y平	1 A・ロンズブロー	2:54.2
110yバ	1 L・グリーン	1:12.6
110y背	1 L・ルドグロウ	1:12.5
440y継	1 イギリス	4:20.7
440y混継1	" "	4:53.6

西ドイツは男子の優勢にもかかわらず女子が弱体のため惜敗している。

東ドイツ

○マグデブルク 4/28~29 50m

男子

100m自	1 F・ヴィーガント	56.2(東ド新)
	2 V・コノブレフ (ソ)	56.3
200m自	1 F・ヴィーガント	2:04.4(東ド新)
100m平	1 L・コレスニコフ (ソ)	1:11.2
	2 G・プロコベンコ (")	1:11.2
	3 E・ヘンニガー	1:11.6
200m平	1 L・コレスニコフ (ソ)	2:37.4
200mバ	1 V・クジミン (")	2:16.8(ソ新)
100m背	1 J・ディーツェ	1:02.9
	2 V・シーマル (ソ)	1:03.0
	3 W・ワグナー	1:03.1
200m背	1 " "	2:17.4(東ド新)

女子

100m自	1 H・ベヒスタイン	1:04.8
100m平	1 B・ゲベル	1:19.4
	2 K・バイエル	1:20.6
	3 U・キューパー	1:20.9
200m平	1 K・バイエル	2:52.3
	2 U・キューパー	2:53.1
	3 B・ゲベル	2:53.4
100mバ	1 U・ノアク	1:10.3
100m背	1 ホレッツ	1:12.1

○イギリス 96—88 東ドイツ 6/ マグデブルク 50m

男子

100m自	1 B・マクグレゴール (英)	56.1(英新)
	2 F・ヴィーガント	56.7
400m自	1 " "	4:29.1
1500m自	1 R・キャンプオン (英)	18:35.9
200m平	1 E・ヘンニガー	2:37.6
200mバ	1 B・ジェンキンス (英)	2:19.5
200m背	1 W・ワグナー	2:17.9
800m継	1 東ドイツ	8:30.9
400m混継1	" "	4:12.9

女子			
100m自	1 D・ウイルキンソン (英)	1:02.5(欧対)	
400m自	1 E・ロング (")	5:02.2	
200m平	1 A・ロンズブロー (")	2:51.2	
	2 K・バイエル	2:52.8	
100mバ	1 L・グリーン (英)	1:13.7	
100m背	1 ホレツ	1:11.8	
400m継	1 イギリス	4:20.4	
	2 東ドイツ	4:20.4	
400m混継	1 "	4:44.1(欧新)	

男子			
100m自	1 G・ドバイ		55.7
400m自	1 J・カトナ		4:31.1
1500m自	1 "		18:14.1
	2 ケネディー (英)		18:19.3
200m平	1 レンゲイ		2:40.1(洪新)
200mバ	1 B・ジュンキンス (英)		2:19.3
200m背	1 J・チカニー		2:18.3(洪新)
400m混	1 ゴムボス		5:18.1
400m継	1 ハンガリー		3:49.4
800m継	1 ハンガリー		8:36.2
400m混継	1 "		4:14.6(洪新)

西 ド イ ツ

○春季選手権 5/19~20 ドルトムント 50m

200m自	1 G・ヘッツ	2:01.7(欧新)
800m自	1 "	9:08.0(")

米、日、豪のかげに隠れて不振をつづけた欧州としては久しぶりのクリーン・ヒットである。200mは史上5位、800mの方はコンラッズに次いで2位である。Gerhard Hetz 19才 1.78m 76kg

ハンガリー

○ハンガリー 153-130 イギリス 7月
ブダペスト 50m

女子

100m自	1 L・アモス (英)	1:04.5
	2 フランク	1:04.6
200m平	1 A・ロンズブロー (英)	2:49.6
100mバ	1 エグルヴァリ	1:10.8
100m背	1 L・ルドグローヴ (英)	1:11.3
400m混	1 A・ロンズブロー (")	5:37.6
400m継	1 ハンガリー	4:19.0
400m混継	1 イギリス	4:51.9

(((編集後記)))

本号を中学生特集号とすることをお約束致しましたが、都合によりとりやめとしました。深くお詫び申し上げます。

編集委員 (いろは順 ◎印委員長)

市村 一, 奥平幸夫, 金田平八郎, 上野徳太郎, ◎栗村中丸, 坂本亮四郎, 三枝美貴子,
佐藤幸男, 菊池 章, 島田桃一郎, 島田博史, 鈴木祐一

日本水泳連盟 機関誌	昭和 37 年 8 月 20 日 印刷	東京都千代田区丸ノ内2-2 丸ビル722区
	昭和 37 年 8 月 25 日 発行	
水 泳	日本水泳連盟	発行並 申込所 日本水泳連盟
	編集兼 発行人 栗村中丸	
第 146 号	印刷所 株式会社 成島印刷所 東京都中央区日本橋本石町3の4 電話 日本橋(241)1701.6509.7082	電話和田倉(201)3090・4885番 振替口座東京5178番